

中組遺跡

群馬県立伊勢崎商業高等学校第2体育館建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

中組遺跡

群馬県立伊勢崎商業高等学校第2体育館建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

『中組遺跡』は、伊勢崎市波志江町に所在し、平成9年12月から10年3月にかけて群馬県立伊勢崎商業高等学校第2体育館建設に伴い発掘調査された遺跡です。発掘調査は群馬県教育委員会から委託を受け（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施し、平成12年12月から13年3月にかけて整理を実施しました。

この遺跡は、昭和59年に同校のセミナーハウス建設に伴って発掘調査が行われた「中組遺跡」の南隣接地にあたります。

今回の発掘調査により、古墳時代から奈良時代の住居跡や井戸等が発見され、それらに伴う多くの土器等の遺物が見つかっています。この集落は、赤城山南麓の荒砥川や神沢川などの河川によって形成された微高地上に営まれ、さらに西側に広がっています。また低地には生産遺跡の存在が考えられ、群馬県平野部における古代の人々の生活や生活エリアを考える上で貴重な資料になると考えています。

この報告書が、考古学の研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民の皆様、さらに学校教育における郷土学習にも大いに役立つものと確信しています。

最後になりましたが、群馬県教育委員会管理課、同文化財保護課、伊勢崎市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始御協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった担当者、作業員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成13年2月28日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本報告書は群馬県立伊勢崎商業高等学校第2体育館建設事業に伴い事前調査された中組遺跡の発掘調査である。本書における報告は、中組遺跡から検出された遺構・遺物を対象とする。
2. 中組遺跡は、伊勢崎市波志江町1116番地に所在する。
3. 事業主体 群馬県教育委員会
4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 平成9年度 平成9年12月8日～平成10年3月13日
6. 整理期間 平成12年度 平成12年12月1日～平成13年3月31日
7. 発掘調査組織の体制は次の通りである。

平成9年度

常務理事	菅野 清	事務局長	原田恒弘
副事務局長兼第1部長	赤山容造	管理部長	渡辺 健
調査研究第2部長	神保侑史	調査研究第4課長	中東耕志

事務担当 小淵 淳・笠原秀樹・須田朋子・井上 剛・吉田有光・柳岡良宏・岡島伸昌・宮崎忠司・大澤友治・吉田恵子・並木綾子・今井もと子・内山佳子・若田 誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・安藤友美・狩野真子・松下次男・浅見宣記・吉田 茂

発掘調査担当 綿貫邦男・須田正久

8. 整理事業組織の体制は次の通りである。

平成12年度

理事長	小野宇三郎	常務理事兼事務局長	赤山容造
管理部長	住谷 進	調査研究第1部長	水田 稔
資料整理課長	西田健彦		

事務担当 坂本敏夫・笠原秀樹・須田朋子・小山建夫・吉田有光・柳岡良宏・森下弘美・片岡徳雄・大澤友治・吉田恵子・並木綾子・今井もと子・内山佳子・若田 誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・松下次男・吉田茂・蘇原正義

整理担当 須田正久

本文執筆 第2章第1節 中東耕志 第2節 綿貫邦男 前記以外 須田正久

遺物写真 佐藤元彦

整理補助 長沼久美子・佐子昭子・渡辺フサ枝・武永いち・萩原鈴代・阿部幸恵・市田武子

機械実測 千代谷和子・田中精子

9. 石材鑑定については飯島静男氏（群馬地質研究会）に依頼した。
10. 発掘調査資料、出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管してある。
11. 発掘調査については関係各機関、地元関係者各位に多大なご支援、ご協力をいただいた。

群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県立伊勢崎商業高等学校、伊勢崎市教育委員会、特に伊勢崎商業高等学校米山貴博校長はじめ竹澤征雄教頭、長井秀夫事務長には施設の利用等でご便宜をいただいた。

また、整理業務を行っていく際には、職員各氏の助力、助言をいただいた。

12. 発掘作業には次の方々に従事していただいた。

久保田みち子・広瀬林太郎・藤村春江・松波忠雄・梅沢 互・堀川初恵・古郡てるよ・河内 保・
茂木利夫・古郡勇司・下田千代子・羽鳥みつ枝・福田ツヤ子・時田悦子

凡 例

- ・調査区は、国家座標第Ⅸ系 $X=37580.000$ $Y=-58280.000$ に基点を設け、北・西へ5 mの区画を設定した。
- ・挿図中の座標は1000 m未満を表記した。
- ・グリッドの名称は南東隅の国家座標値とした。
- ・挿図中に使用した方位は、座標北を表示している。
- ・挿図中の断面基準は標高値でこれを表した。
- ・挿図中の遺構図の縮尺については、遺構全体図1/200、竪穴住居跡1/60、竈跡1/30、土坑跡1/40、井戸跡1/40、溝跡1/80、中組遺跡全体図1/1000である。
- ・挿図中の遺物図の縮尺については、土器1/2、1/3、1/4、石器・石製品1/2、1/3、1/4である。
- ・写真図版中の遺物の縮尺は、概ね遺物実測図と同縮尺とした。
- ・本文中に表記した主軸方位は、竈を持たない竪穴住居跡では長軸方位を、竈を持つ竪穴住居跡では竈軸方位を、主軸方位とした。
- ・挿図中の番号は、遺物写真図版中の番号及び挿図版の遺物出土位置番号、遺物観察表の番号と同一である。但し、挿図版中の遺物出土位置に関しては埋土一括取り上げ遺物についてはこの限りではない。
- ・本報告書で使用した地形図は、以下の通りである。

国土地理院	地勢図	1/200,000	「長野」・「宇都宮」
	地形図	1/25,000	「伊勢崎」・「大胡」
- ・竪穴住居跡の面積は、デジタルプランイメーターで3回計測した平均値を採用した。
- ・色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修の新版標準土色帖に基づいている。
- ・土器の実測図は原則として四分画法をとった。残存量が1/2以下の遺物は180°展開して図上復元として、中心線は点線で示した。

目 次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

写真図版目次

報告書抄録

第1章 遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	1
第3節 基本土層	2

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の立地	3
第2節 歴史的環境	4

第3章 調査遺構と出土遺物

第1節 遺跡の概要	7
第2節 遺構と遺物	9
I. 竪穴住居跡	9
II. 土坑跡	38
III. 井戸跡	40
IV. 溝 跡	44
V. 遺構外遺物	46

第3節 まとめ	49
---------------	----

写真図版

挿図目次

第1図	グリッド設定図及び伊勢崎商業高校校舎配置図	2
第2図	基本土層概念図	2
第3図	中組遺跡位置図(国土地理院 20万分の1「長野」・「宇都宮」)	3
第4図	伊勢崎の地形分布図(『伊勢崎市史』自然編)	4
第5図	周辺遺跡分布図(国土地理院 2万5千分の1「伊勢崎」・「大胡」)	5
第6図	遺構全体図	8
第7図	1号住居跡・出土遺物(1)	9
第8図	1号住居跡出土遺物(2)	10
第9図	2号住居跡	11
第10図	2号住居跡竈・出土遺物	12
第11図	3号住居跡・竈	13
第12図	3号住居跡出土遺物	14
第13図	4・12号住居跡・竈・出土遺物(1)	16
第14図	4号住居跡出土遺物(2)	17
第15図	12号住居跡竈・出土遺物	18
第16図	5号住居跡・竈・出土遺物(1)	19
第17図	5号住居跡出土遺物(2)	20
第18図	6号住居跡	20
第19図	6号住居跡竈・出土遺物(1)	21
第20図	6号住居跡出土遺物(2)	22
第21図	7号住居跡	23
第22図	7号住居跡竈・出土遺物(1)	24
第23図	7号住居跡出土遺物(2)	25
第24図	9号住居跡	26
第25図	9号住居跡竈・出土遺物(1)	27
第26図	9号住居跡出土遺物(2)	28
第27図	10号住居跡・竈	29
第28図	10号住居跡出土遺物	30
第29図	11号住居跡・竈・出土遺物(1)	31
第30図	11号住居跡出土遺物(2)	32
第31図	11号住居跡出土遺物(3)	33
第32図	13号住居跡	34
第33図	13号住居跡竈・出土遺物	35
第34図	15号住居跡・出土遺物(1)	36
第35図	15号住居跡出土遺物(2)	37
第36図	1号土坑跡・出土遺物	38
第37図	2・3・4号土坑跡・2号土坑跡出土遺物	39
第38図	4・5号土坑跡・1号井戸跡	40
第39図	2・3号井戸跡・1・2号井戸跡出土遺物	41
第40図	4号井戸跡・出土遺物	42
第41図	1・2号溝跡	44
第42図	2号溝跡出土遺物	45
第43図	3号溝跡・出土遺物	45
第44図	グリッド出土遺物	46
第45図	遺構外遺物	47
第46図	中組遺跡全体図	50

写真図版目次

- PL 1 群馬県立伊勢崎商業高等学校・調査区遠景
PL 2 調査区遠景
調査区全景
PL 3 1号住居跡全景
1号住居跡遺物出土状態
1号住居跡出土遺物
PL 4 2号住居跡全景
2号住居跡竈全景
2号住居跡出土遺物
3号住居跡全景
3号住居跡竈全景
3号住居跡柱穴付近遺物出土状態
3号住居跡貯蔵穴遺物出土状態
PL 5 3号住居跡出土遺物
PL 6 4号住居跡全景
4号住居跡竈全景
4号住居跡出土遺物
PL 7 12号住居跡全景
4号・12号住居跡断面C-C'
12号住居跡竈断面D-D'
12号住居跡出土遺物
5号住居跡全景
5号住居跡竈全景
PL 8 5号住居跡出土遺物
6号住居跡全景
6号住居跡竈全景
6号住居跡出土遺物(1)
PL 9 6号住居跡出土遺物(2)
7号住居跡全景
7号住居跡竈全景
7号住居跡貯蔵穴内遺物出土状態
7号住居跡遺物出土状態
7号住居跡出土遺物(1)
PL 10 7号住居跡出土遺物(2)
PL 11 9号住居跡全景
9号住居跡竈全景及び周辺遺物出土状態
9号住居跡貯蔵穴内及び周辺遺物出土状態
10号住居跡全景
10号住居跡竈全景
10号住居跡出土遺物
PL 12 9号住居跡出土遺物
PL 13 11号住居跡全景(10号住居跡含む)
11号住居跡竈全景及び周辺遺物出土状態
11号住居跡遺物出土状態
11号住居跡出土遺物(1)
PL 14 11号住居跡出土遺物(2)
PL 15 13号住居跡全景(3号土坑跡含む)
13号住居跡出土遺物
15号住居跡全景(1号井戸跡含む)
15号住居跡出土遺物
PL 16 1号土坑跡全景
1号土坑跡出土遺物
2号土坑跡全景
3号土坑跡全景
4号土坑跡全景
5号土坑跡全景
3号井戸跡全景
4号井戸跡全景
PL 17 4号井戸跡出土遺物
2号溝跡断面A-A'
3号溝跡全景
2号溝跡出土遺物
グリッド出土遺物
遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ながぐみいせき
書名	中組遺跡
副書名	群馬県立伊勢崎商業高等学校第2体育館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第285集
編著者名	須田 正久
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2 TEL 0279-52-2511
発行年月日	2001年2月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間 年月日	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ながぐみいせき 中組遺跡	ぐんまけんいせきし 群馬県伊勢崎市 はしえまちばんち 波志江町1116番地	10204		362021	1391100	19971208 } 19980313	1000	伊勢崎商業高校 第2体育館建設 に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
中組遺跡	集落	古墳前期	竪穴住居跡	1	土師器甕・椀・杯	古墳時代前期から奈良時代にかけての集落跡
			古墳中期	竪穴住居跡		
		古墳後期～ 奈良時代	土坑跡	2	内斜口縁椀	
			竪穴住居跡	6	土師器甕・石製錘	
			井戸跡	1	土師器杯	
		奈良時代～	溝跡	1	紡錘車・土師器甕	
			竪穴住居跡	2	土師器杯	
		近世	井戸跡	3	土師器杯・須恵器甕	
			土坑跡	1	須恵器壺・陶器椀	
			溝跡	2	土師器杯・須恵器甕	
時期不明	土坑跡	2	土師器杯			

第1章 遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯

昭和59年度に発掘調査を実施し建設された、セミナーハウスの南側に第2体育館建設が計画され、県教育委員会文化財保護課では、平成9年夏に事前の試掘調査を実施した。その結果、古墳時代から奈良時代にかけての住居跡等が確認され、集落1面の存在が予測された。これを受け、平成9年11月28日に第1回目の事前調整会議を開催し、事業主体の県教育委員会管理課と文化財保護課、伊勢崎商業高等学校及び調査担当の県埋蔵文化財調査事業団の4者で、本調査についての協議をおこなった。議題は工事の概要、以前の発掘調査と試掘調査結果の確認、及び当面する調査上の問題点と調査遂行上の要望、契約事務等であった。協議により12月中旬に測量杭等を打設するとともに、地下埋設物である水道の止水を行うことを確認した。また、12月から3月まで事前の発掘調査を実施し、4月から工事にかかり、平成10年9月までには第2体育館を完成させる予定で発掘調査を実施することになった。

一方、調査事務所はセミナーハウスを使用するとともに、排土置き場はグラウンドの一部を、器材庫は駐車場を使用することで合意した。さらに、調査区全域に安全フェンスを設置して生徒の安全を確保し、ロングホームルーム等で発掘調査の成果を生徒に公開することとなった。

12月3日に第2回目の事前調整会議を開催した。調査実施にあたっての計画、調査工程について、及び調査経費、さらに発掘調査終了後の整理作業及び報告書の刊行について、詳細な部分の協議をおこなった。これにより、発掘調査期間は平成9年12月8日から平成10年3月13日とし、調査面積1,000㎡と決定した。なお、当初計画された調査区の南側部分にも掘削が及ぶため、本調査実施中に確認調査を実施することになった。

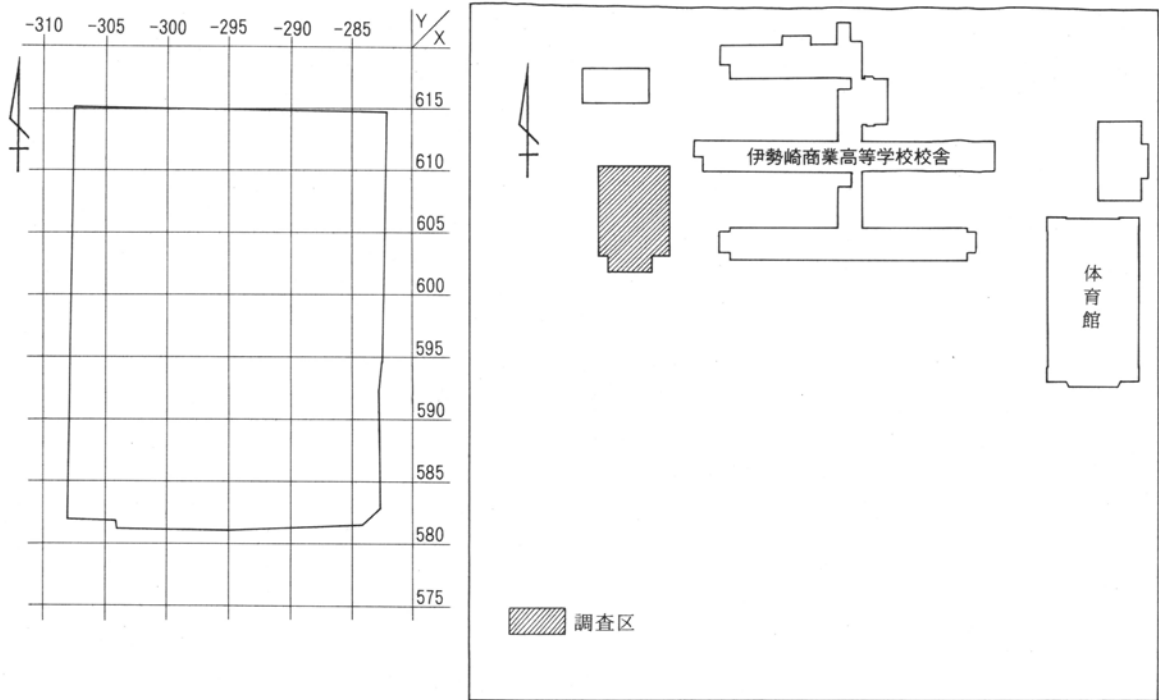
第2節 調査の方法と経過

本報告になる中組遺跡は県立伊勢崎商業高等学校のテニスコートとして利用されていた。過去に中組遺跡名で隣接する2地点で調査が実施され弥生時代から平安時代にかかるところの竪穴住居跡を中心とした集落遺跡として認識されており、当該地も同様な内容と考えられた。調査は平成9年12月8日より平成10年3月13日まで実施した。表土は盛土填圧のため、約60cm下の遺構確認面も堅く締まっていた。なお、調査対象面積は1000㎡であったが南端部分はおよそ1mの落差で既存のグラウンドとなっていた。遺構面の確認のため試掘溝による確認調査を行ったが、盛土下は既に遺跡基本土層の5層と考えられる層位に達しており、自然地形の勾配を考慮しても面的な調査の必要性を認めないと判断した。

基準方眼の設定は調査区南東部の座標値 $X=37580.000\text{m}$ ・ $Y=-58280.000\text{m}$ に求め、北・西方向に5m単位で配し各基準点は南東交点を座標値とした。遺構確認には土質の著しい硬化のため2層暗灰色砂質土下面ないし3層暗褐色土の上面まで重機を用いて掘削した。

住居跡形状の確認後、基本的には住居跡各壁線に直交した土層の記録観察帯を設け、竈等の諸施設については状況に応じてこれに当たった。また、床下の調査では明瞭な掘形施設が認められない限り上述の土層帯に準じ連続した記録記載とした。出土遺物は床面ないしはこれに近い状況のものは平面・標高位置を記録したが、埋土中の遺物に関しては本遺構では人為集中的投棄などの現象が認められず一括して取り上げた。

第1章 遺跡の概要



第1図 グリッド設定図及び伊勢崎商業高校校舎配置図

平成9年12月8日 調査開始。ネット支柱等既存施設の撤去及び安全フェンス設置等調査区の整備。調査体制は作業員14名（内実測測量補助員2名）。表土掘削に平行して遺構確認作業に入る。

12月19日 確認遺構は竪穴住居跡が主たる遺構である。住居跡13軒、数軒の重複を確認。遺跡全体の遺構概略配置図作成。年内の調査を終了。

平成10年1月6日 調査開始。1・2・3・4号住居跡から検出作業。竈の付設はほぼ北から北東に多い。2号住居跡に噴砂痕を確認する。

1月9日 県下一円に大雪。17日に予定した伊商郷土研究同好会による体験発掘の計画は延期。

1月31日 郷土研究同好会他6名の発掘体験。厳寒の作業であったが土中より自ら掘り出す土器にいたく感激の様子。

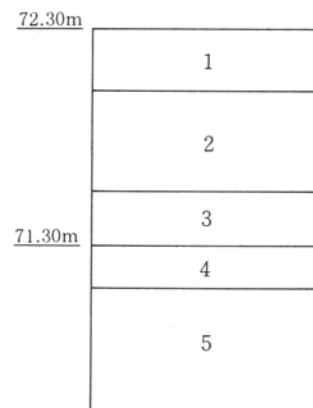
2月13日 アドバルーンによる遺跡全景写真撮影。

3月6日 遺構調査終了。10日より埋め戻し作業を開始し、13日で完了した。

第3節 基本土層

本遺跡はテニスコートに使用されていたため、盛土・填圧により、下層に影響をしている。第2図は調査区西壁中央部の土層を柱状図にしたものである。

- | | |
|------------|--------------------|
| 1. 褐色土 | 表土（盛土）。 |
| 2. 暗灰色土 | 砂質土であるが填圧のため強く締まる。 |
| 3. 暗褐色土 | 白色細粒子を多量に含む。 |
| 4. 暗黄褐色土 | 砂礫層。 |
| 5. 黄褐色土シルト | |



第2図 基本土層概念図

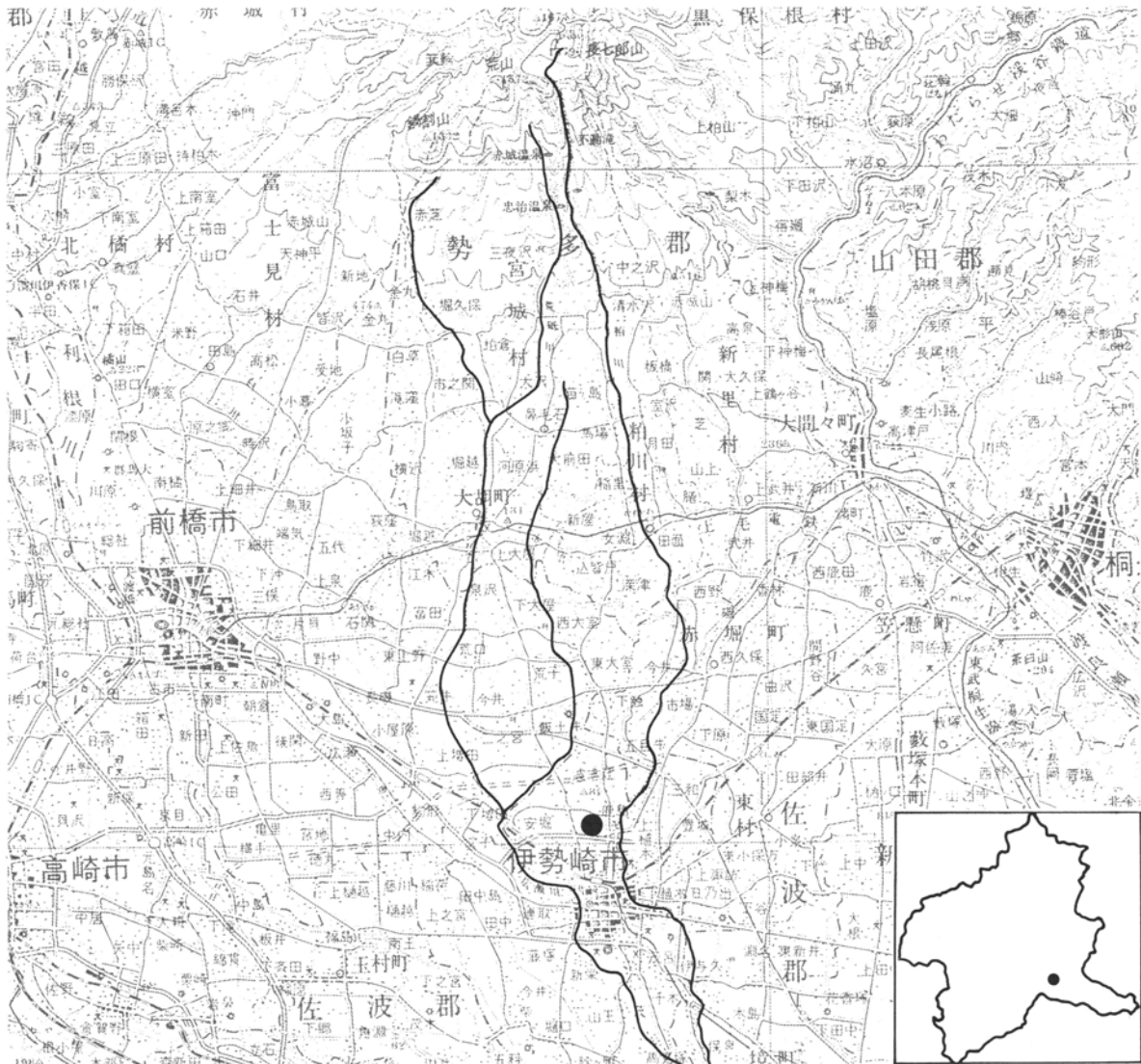
第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の立地

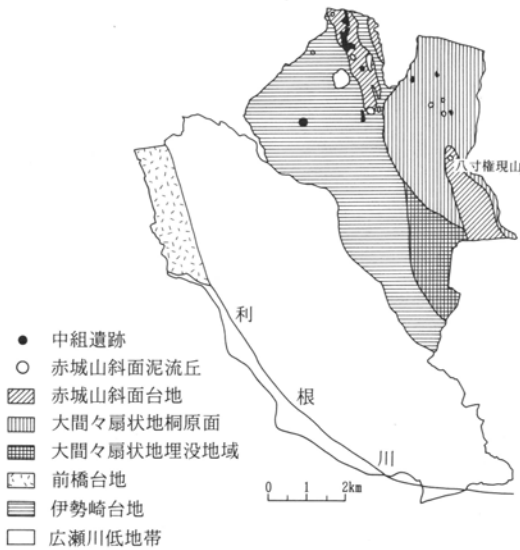
中組遺跡は、群馬県南東部・伊勢崎市に位置する。遺跡の南約800mにJR両毛線が走り、南東約1.7kmには伊勢崎駅がある。伊勢崎駅の南には市街地が広がっている。

本遺跡は、この伊勢崎市の北部・波志江町1116番地に所在する県立伊勢崎商業高等学校の敷地内にある。遺跡は標高約70mに位置し、周辺には水田と桑畑が広がる。北西約1.3kmで神沢川と荒砥川が合流し、さらにその先、南西約1.3kmで広瀬川と合流し南流している。北東約2.0kmには新田開発を目的として造成された伊勢崎市内最大の溜池である波志江沼がある。

遺跡は、赤城山麓を南流する荒砥川・神沢川などの山麓浸食によって形成された広大な沖積地帯の一角にある。この沖積地帯に散在する台地や微高地上には数多くの集落遺跡や古墳が存在する。この台地や微高地は赤城斜面から大量に発生した砂質物質が比較的短時間に流出、堆積し形成されたものである。



第3図 中組遺跡位置図 (国土地理院 20万分の1「長野」・「宇都宮」)



これらの地形は伊勢崎台地と呼ばれ、神沢川と広瀬川を西限とし、粕川を東限とする範囲に広がる。この範囲が広瀬川低地帯よりも一段高い台地地形であることは、広瀬川左岸側に連続する比高6～8mの浸食崖の存在から明らかである。本遺跡もこれらの河川による水成堆積物で形成された砂質土壌を基層にする微高地上に営まれた竪穴住居跡を主とする集落である。住居跡は基層となる砂層を掘り込み砂の少ない暗褐色土を埋土にするが、表土層からは土器片が多量に出土する。これは、後世の土地改良が深く及び、当時の地表面を破壊しているためであろう。

参考文献 『中組遺跡』群馬県教育委員会 1985
 『中組遺跡』伊勢崎市教育委員会 1981
 『伊勢崎市史』自然編 1987

第4図 伊勢崎の地形分布図(『伊勢崎市史』自然編)

第2節 歴史的環境

中組遺跡が所在する波志江町周辺遺跡の時代ごとの概要は次の通りである。

旧石器時代の遺跡は、本遺跡より北の扇状地形部に多く、堀下八幡遺跡(38)や波志江西宿遺跡(30)、波志江中宿遺跡(31)、伊勢山遺跡(29)などから多くの旧石器が出土している。

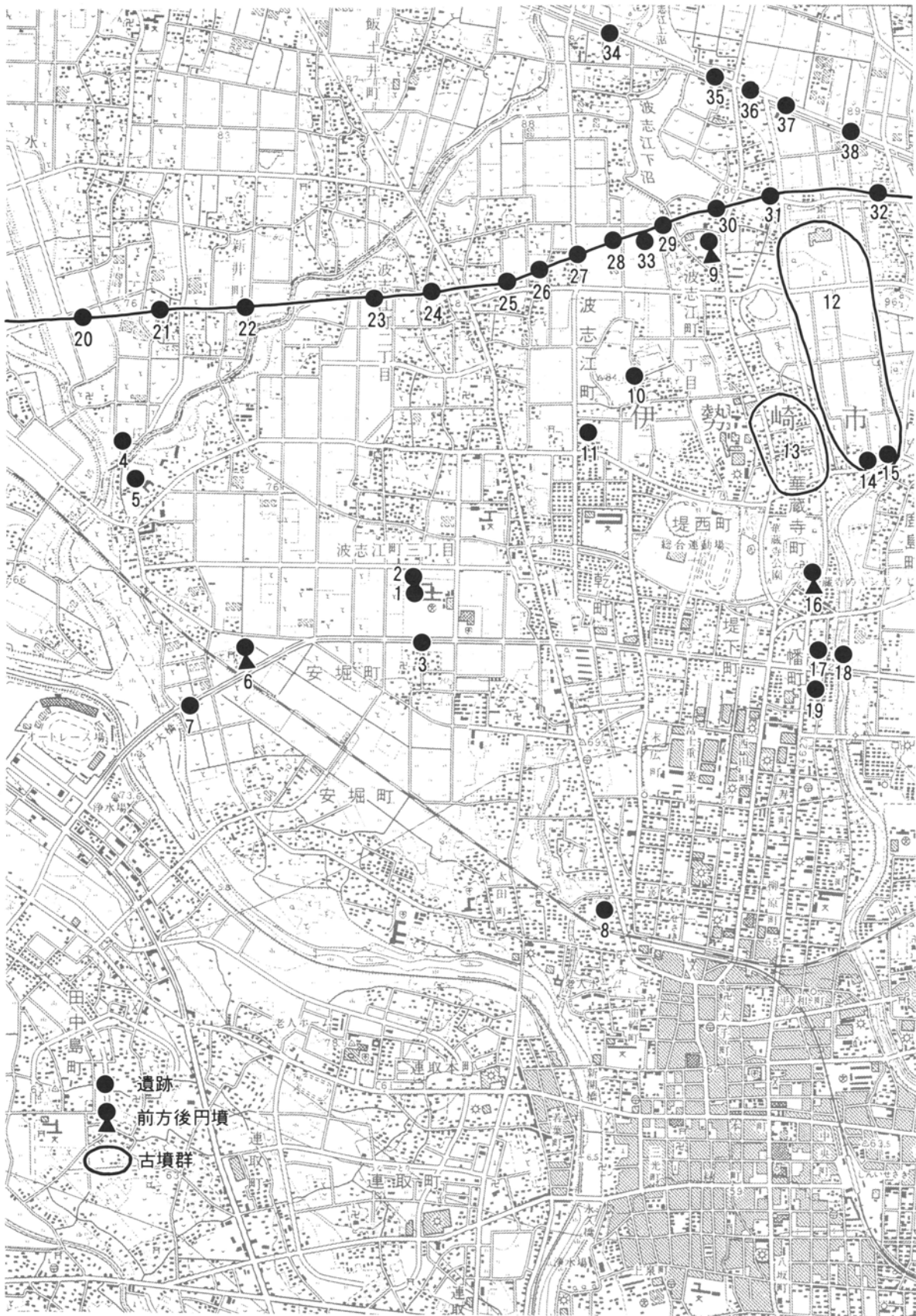
縄文時代の遺跡は本遺跡北西約1.3kmの荒砥川と神沢川の合流一帯に、縄文中期の竪穴住居跡が検出されている荒砥前原遺跡(4)や配石遺構が検出された晩期の八坂遺跡(5)がある。本遺跡からは縄文時代の遺構は検出されていないが、表土や土坑跡、溝跡から中期～後期の土器小片が出土している。

弥生時代の遺跡は本遺跡西約1kmにある西太田遺跡(7)から中期から後期にかけての竪穴住居跡が検出されている。本遺跡南に隣接する中組遺跡(3)からも竪穴住居跡が検出され、櫛描波状文を持つ土器小片も出土している。また、喜多町遺跡(8)では、壺、甕、台付甕、器台などの伊勢湾を中心とした東海系の特色を示す土器が出土している。

古墳時代の遺跡は、赤城南麓の扇状地形を浸食する小河川の縁辺に立地している遺跡が多く、前期の遺跡として竪穴住居跡と方形周溝墓跡が検出された間之山遺跡(14)、方形周溝墓跡が検出されている中組遺跡(3)がある。中期の遺跡は八幡町B遺跡(17)、西太田遺跡(7)がある。また、本遺跡東約1.6kmには県内で最も古い古墳の一つとされる華蔵寺裏山古墳(16)があり、本遺跡南西0.7kmにはこの地域の首長の墓と考えられているお富士山古墳(6)がある。後期の遺跡は竪穴住居跡が115軒検出された岡屋敷遺跡(25)や、八幡町D遺跡(18)、八幡町遺跡(19)、台所山古墳群(13)などがある。本遺跡からも古墳時代前期から後期にかけての竪穴住居跡が検出されている。

古墳時代の水田跡が検出された遺跡としては、下増田越渡遺跡(20)、新井大田関遺跡(22)、波志江中屋敷西遺跡(26)、波志江中屋敷遺跡(27)、波志江中屋敷東遺跡(28)などがある。特に波志江中屋敷東遺跡(28)は畦畔から建築部材や木器が大量に出土している。

奈良・平安時代の遺跡は、本遺跡を含め北に隣接する中組遺跡(2)や南に隣接する中組遺跡(3)から竪穴住居跡が検出されている。また、西太田遺跡(7)や下増田越渡遺跡(20)、上西根遺跡(15)などからも竪穴住居跡が検出されている。



第5図 周辺遺跡分布図（国土地理院 2万5千分の1「伊勢崎」・「大胡」）

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

周辺遺跡一覧表

	遺跡名	所在地	遺跡の概要	文献等
1	中組遺跡	伊勢崎市波志江町	本遺跡。	本書
2	中組遺跡	伊勢崎市波志江町	奈良時代の住居跡、掘立柱建物跡、溝跡。	『中組遺跡』 県教委1985
3	中組遺跡	伊勢崎市安堀町	弥生時代の住居跡、奈良・平安時代の住居跡、方形周溝墓跡。	『中組遺跡』 伊教委1981
4	荒砥前原遺跡	前橋市荒口町	縄文時代中期の住居跡、弥生時代住居跡、古墳時代前期住居跡、築造時期不明の直径23mの円墳。	『荒砥前原遺跡・赤石城址』 群埋文1985
5	八坂遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代の配石遺構、縄文後期～晩期の包含層(土器、石器、土偶)。	『伊勢崎市史』 通史編1987
6	お富士山古墳	伊勢崎市安堀町	全長125mの前方後円墳、5世紀中葉の首長墓の可能性が高い。	『お富士山古墳』 伊教委1989
7	西太田遺跡	伊勢崎市安堀町	弥生時代中期～平安時代の住居跡、奈良時代の砂鉄集積遺構、粘土集積遺構、掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡、土坑墓跡。	『西太田遺跡』 伊教委1983
8	喜多町遺跡	伊勢崎市喜多町	壺、甕、台付甕など東海の特徴を示す弥生～古墳の土器が出土。	『伊勢崎市史』 通史編1987
9	波志江伊勢山古墳	伊勢崎市波志江町	旧三郷村71号墳、横穴式両袖型石室の円墳。	尾崎喜左雄『横穴式古墳の研究』
10	波志江権現山遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代早期の土器、石器が出土。	『伊勢崎市史』 通史編1987
11	西稲岡遺跡	伊勢崎市波志江町	古墳時代の溝跡、奈良・平安時代の溝跡、井戸跡。	『大沼下遺跡・西稲岡遺跡』 伊教委1977
12	蟹沼東古墳群	伊勢崎市波志江町	5世紀半～7世紀後半の古墳群、縄文時代と古墳時代前期の住居跡、陥穴跡、方形周溝墓跡。	『蟹沼東古墳群』 伊教委1987
13	台所山古墳群	伊勢崎市波志江町	凝灰岩質の箱式石棺の主体部をもつ。円筒埴輪、土師器坏出土。	『伊勢崎市史』 通史編1987
14	間之山遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代草創期の土器片、弥生時代後期の住居跡、古墳時代前期の住居跡、方形周溝墓跡。	『蟹沼東古墳群・宮貝戸下遺跡』 伊教委1978
15	上西根遺跡	伊勢崎市鹿島町	古墳時代後期～奈良・平安時代の住居跡、方形周溝墓跡。	『上西根遺跡』 伊教委1985
16	華藏寺裏山古墳	伊勢崎市華藏寺町	4世紀の主軸長約40mの前方後円墳、前方後方墳の可能性もあり、粘土槨の可能性もある。複口縁壺型土器出土。	『伊勢崎市史』 通史編1987
17	八幡町B遺跡	伊勢崎市八幡町	古墳時代中期・後期の住居跡、平安・近世の溝跡。	『八幡町遺跡(B)』 伊教委1988
18	八幡町D遺跡	伊勢崎市八幡町	古墳時代後期住居跡、井戸跡、溝跡、土坑跡。	『八幡町遺跡(D)』 伊教委1990
19	八幡町遺跡	伊勢崎市八幡町	古墳時代後期住居跡、溝跡、土坑跡。	『八幡町遺跡』 伊教委1999
20	下増田越渡遺跡	前橋市上増田町 下増田町二之宮町	古墳時代の方形周溝墓跡、As-C混水田跡、Hr-FA水田跡、溝跡、奈良・平安時代の住居跡、As-B下水田跡、溝跡。	『年報16・17』 群埋文1997・1998
21	萩原遺跡	前橋市二之宮町 新井町	縄文時代の石鎌、凹石、古墳時代～平安時代の住居跡、掘立柱建物跡、As-B下水田跡、溝跡、近世の井戸跡。	『年報16・17・18・19』 群埋文1997～2000
22	新井大田関遺跡	前橋市新井町	古墳時代の水田跡、溝跡、平安時代の住居跡。	『年報16』 群埋文1997
23	波志江中野面遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代中期、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡、方形周溝墓跡。	『年報18』 群埋文1999
24	波志江西屋敷遺跡	伊勢崎市波志江町	古墳時代の掘立柱建物跡、奈良・平安時代の住居跡、溝跡。	『年報18・19』 群埋文1999-2000
25	岡屋敷遺跡	伊勢崎市波志江町	古墳時代後期、奈良・平安時代の住居跡、中近世の屋敷跡、掘立柱建物跡、井戸跡、墓跡。	『年報18・19』 群埋文1999-2000
26	波志江中屋敷西遺跡	伊勢崎市波志江町	古墳時代の水田跡、溝跡、奈良・平安時代の住居跡、溝跡、中近世の館跡、堀跡、掘立柱建物跡、井戸跡、水田跡。	『年報17・18』 群埋文1998-1999
27	波志江中屋敷遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代早期の住居跡、古墳時代の水田跡、平安時代の堅穴住居跡、中近世の環壕屋敷跡、堀跡、掘立柱建物跡。	『年報18・19』 群埋文1999-2000
28	波志江中屋敷東遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代前期の土坑跡、古墳時代の水田跡、溝跡、As-B下水田跡、溝跡、土坑跡。	『年報17・18』 群埋文1999
29	伊勢山遺跡	伊勢崎市波志江町	旧石器時代の遺物、近世の墓跡。	『年報19』 群埋文2000
30	波志江西宿遺跡	伊勢崎市波志江町	旧石器時代の遺物、縄文時代早期の土器、打製石斧、石鎌が出土。古墳時代の住居跡、掘立柱建物跡、中近世の溝跡、土坑跡、井戸跡。	『年報18・19』 群埋文1999-2000
31	波志江中宿遺跡	伊勢崎市波志江町	旧石器時代の遺物、古墳時代前期の住居跡、粘土探掘坑跡、溝跡、As-B下水田跡、溝跡、中近世の井戸跡、土坑跡、溝跡。	『年報17・18』 群埋文1998-1999
32	五日牛新田遺跡	佐波郡赤堀町	縄文時代草創期、弥生時代、古墳時代の住居跡、溝跡、土坑跡。	『年報17・18』 群埋文1998-1999
33	大沼下遺跡	伊勢崎市波志江町	古墳前期～奈良・平安時代の住居跡、古墳時代の溝跡、井戸跡。	『大沼下遺跡・西稲岡遺跡』 伊教委1977
34	波志江今宮遺跡	伊勢崎市波志江町	6世紀末～7世紀初頭の円墳、帆立貝形古墳、形象埴輪、円筒埴輪、金属器、奈良時代の住居跡、As-B下水田跡、近代の炭窯跡。	『波志江今宮遺跡』 群埋文1995
35	波志江六反田遺跡	伊勢崎市波志江町	旧石器時代の遺物、縄文時代の燃糸文土器、平安時代の住居跡、水田跡、近世の掘立柱建物跡、土坑跡、井戸跡、溝跡。	『書上本山・波志江六反田・波志江天神山遺跡』 群埋文1992
36	波志江天神山遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代の陥穴跡、近世以降の掘立柱建物跡、土坑跡、井戸跡。	『書上本山・波志江六反田・波志江天神山遺跡』 群埋文1992
37	波志江中峰岸遺跡	伊勢崎市波志江町	As-Bテフラに埋没した水田跡と溝跡。	『飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡』 群埋文1995
38	堀下八幡遺跡	佐波郡赤堀町堀下	旧石器時代の遺物、縄文時代前期の住居跡、土坑跡、奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物跡、近世以降墓跡、井戸跡。	『堀下八幡遺跡』 群埋文1990

*群埋文：財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 県教委：群馬県教育委員会 伊教委：伊勢崎市教育委員会

第3章 調査遺構と出土遺物

第1節 遺跡の概要

中組遺跡は、赤城山麓を南流する荒砥川・神沢川などの山麓浸食によって形成された広大な沖積地帯の一角にある。遺跡はこの沖積地帯に枝状に延びる砂質土壌を基層にする微高地上に営まれ、竪穴住居跡を主体とする集落遺跡である。住居跡は基層となる砂層を掘り込み砂分の少ない暗褐色土を埋土にするが、埋土中からは土器片が多量に出土する。これは、後世の土地改良が深く及び、従来の地表面を破壊しているためであろう。

調査によって検出された遺構は、古墳時代と奈良時代前後の13軒の竪穴住居跡を中心に土坑跡・井戸跡・溝跡などである。全体が検出された古墳・奈良両時代の住居跡には、北東あるいは東側に竈が付設されている共通性がみられる。

竪穴住居跡は13軒検出されている。奈良時代前後の竪穴住居跡は8軒で、このうち3軒が重複している。重複する住居跡間には大きな時間差は見られず、かなりの短期間のうちに廃絶と建築が繰り返されていたと考えられる。他に3軒が古墳時代の住居跡と重複する。これらの住居跡に付設された竈は構築に石材や土師器の甕を芯材に用いたりして支脚として使用しているものがある。

この時代の住居跡から出土する遺物は比較的少なく、その大半は土師器杯である。

古墳時代の竪穴住居跡は前期と中期のものが合わせて5軒検出されている。古墳時代中期に属する住居跡は奈良時代の住居跡と比べて比較的大型であるが、掘形は極めて浅く辛うじて輪郭を残す程度のもが多い。これらの住居跡の竈は石材や土器などを用いているものは無く、構築材として良質の白色粘土を使用しているものが多い。

この時代の住居跡からは、甕・甌・椀など比較的多くの遺物が出土している。古墳時代の前期に属する住居跡は1軒である。この住居跡は竈が出現する以前のもので、床面から炉跡が検出されている。

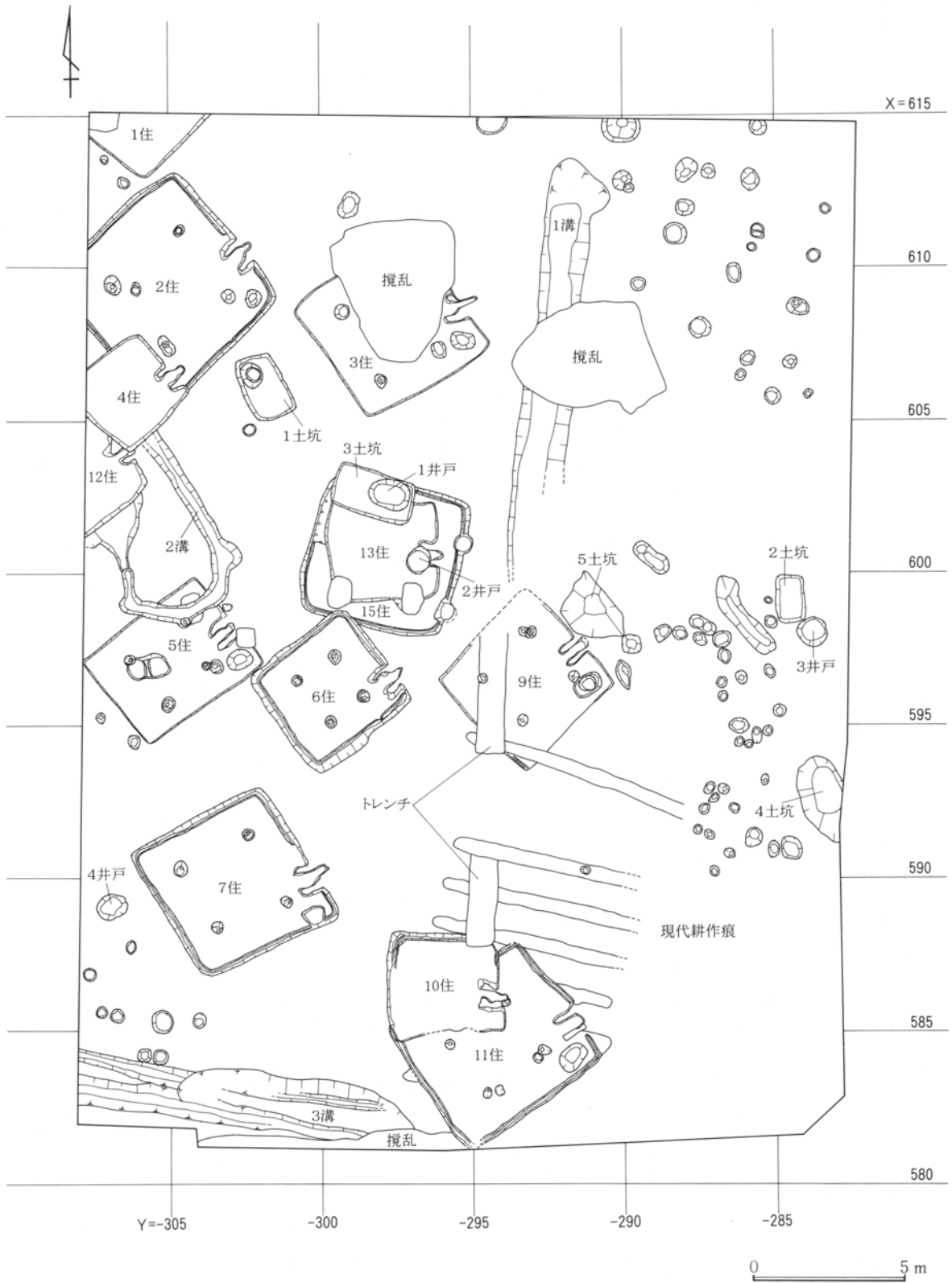
土坑跡は5基検出されている。このうち古墳時代のもものが2基、江戸時代以降のもものが1基、時期が不明なものが2基である。このうち古墳時代の土坑跡は、この集落に伴うものであると考えられる。遺物は土師器小片等が多く出土している。

井戸跡は4基検出されている。全ての井戸跡は素掘りであり、奈良時代以降のものであると考えられる。このうちの2基は住居跡と重複している。遺物は土師器杯などの小片が少量出土している。1基のみ須恵器甕片や須恵器杯、石材などを故意に投棄し充填したと考えられるものが検出されている。

溝跡は3条検出されている。1条は2軒の竪穴住居跡と重複し、住居跡との新旧関係から奈良時代前半と考えられる。他の2条は近世のもと考えられる。

縄文時代や弥生時代などの石器や土器の小片も土坑跡や溝跡の埋土から出土したが、これらの時代に伴う遺構は検出されなかった。

先の昭和59年に本遺跡の北接部で行われた中組遺跡の調査では奈良時代の竪穴住居跡を中心とした集落であったが、今回の調査によって本遺跡は少なくとも古墳時代前期には集落が営まれていたことが判明した。また、本遺跡の遺構の分布状況から今回の調査区より西方に古墳・奈良両時代の集落を中心とした遺跡が密度濃く展開する可能性を指摘することができる。



第6図 遺構全体図

第2節 遺構と遺物

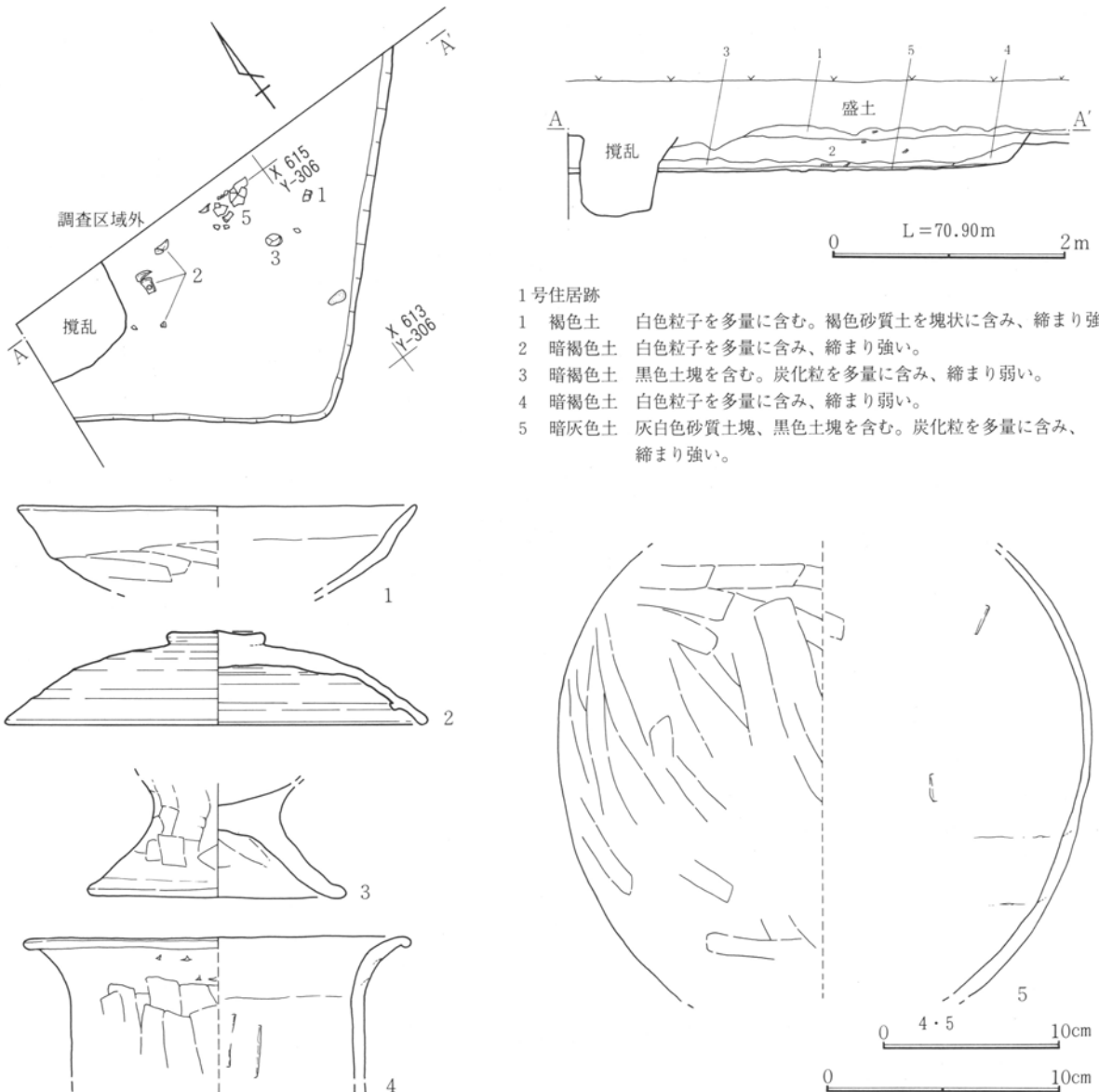
I. 竪穴住居跡

1号住居跡

本住居跡は調査区北西部に位置する。住居跡北西部は調査区域外に入り全容は不明である。本住居跡は西壁2.0m・南壁3.0mの範囲まで検出した。

平面形は残存状態から比較的壁線の整った方形を呈すると考えられる。壁高は20cmを測る。主軸方位は、南壁線基軸N-37°-Eを示す。床面はほぼ平坦をなすが踏み締まりは弱い。床土は灰白色砂質土を含む暗灰色土である。竈、貯蔵穴、柱穴、周溝などの内部施設は検出されなかった。北東部に攪乱がある。

遺物は床面から土師器甕・須恵器蓋（かえり付）などが出土し、埋土からは土師器小型甕台部や編み物用石製錘が9個出土している。本住居跡の時期は出土遺物より古墳時代後期と考えられる。

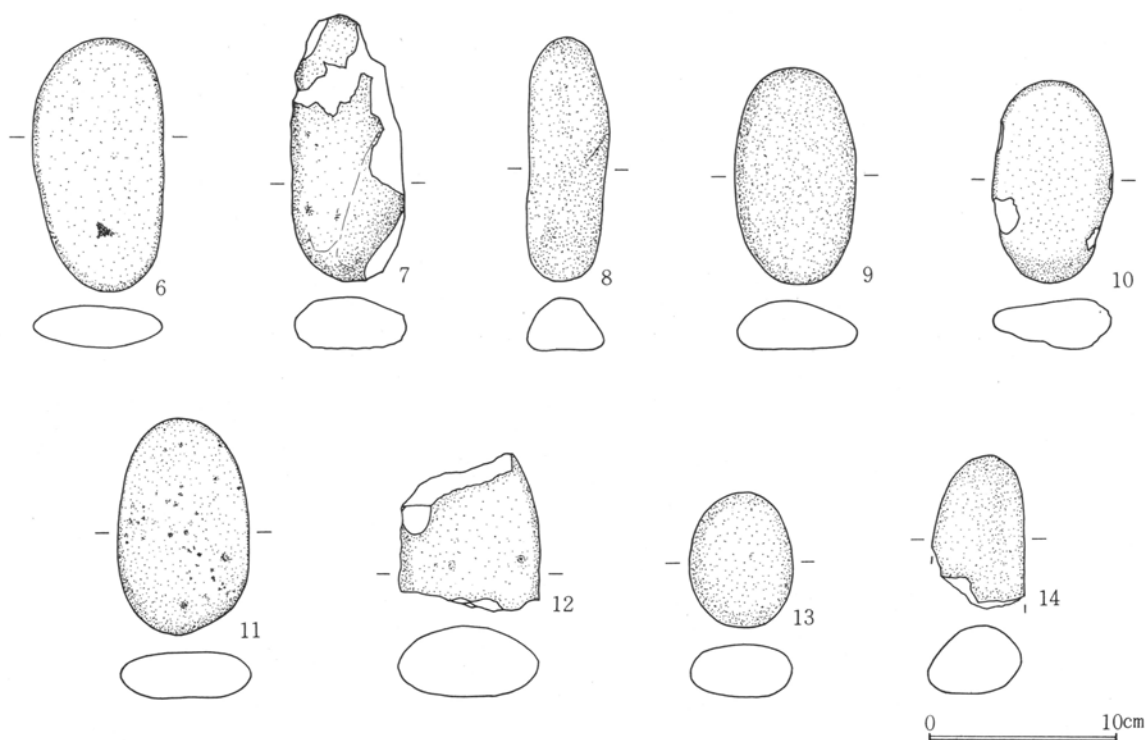


1号住居跡

- 1 褐色土 白色粒子を多量に含む。褐色砂質土を塊状に含み、締まり強い。
- 2 暗褐色土 白色粒子を多量に含み、締まり強い。
- 3 暗褐色土 黒色土塊を含む。炭化粒を多量に含み、締まり弱い。
- 4 暗褐色土 白色粒子を多量に含み、締まり弱い。
- 5 暗灰色土 灰白色砂質土塊、黒色土塊を含む。炭化粒を多量に含み、締まり強い。

第7図 1号住居跡・出土遺物(I)

第3章 調査遺構と出土遺物



第8図 1号住居跡出土遺物(2)

1号住居跡遺物観察表

挿図番号 PL番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
7図1 PL 3	土師器 杯	杯部小片	(17.0)・ —	埋土	口縁部横撫で。底部外面は篋削り。 器表摩滅。	①良好②橙 ③細砂粒
7図2 PL 3	須恵器 蓋	ほぼ完形	18.0・4.1 3.9	床直	轆轤右回転。外面回転篋削り。つまみは貼付。 内面轆轤目。口縁部内面返りあり。	①還元焰②灰白 ③細砂粒
7図3 PL 3	土師器 台付甕	台部のみ	—・11.0 —	埋土	外面篋削り。底部撫で。 内面篋削り。	①良好②にぶい黄橙 ③粗砂粒
7図4	土師器 甕	口～胴上 小片	(22.0)・ —	埋土	口縁部は外反する。口縁部横撫で。胴部篋削り。 内面口縁部横撫で。胴部横方向篋撫で。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
7図5 PL 3	土師器 甕	胴部	—・ —	床直	外面全面篋削り。 内面篋撫で。胴部下位に輪積み痕。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒

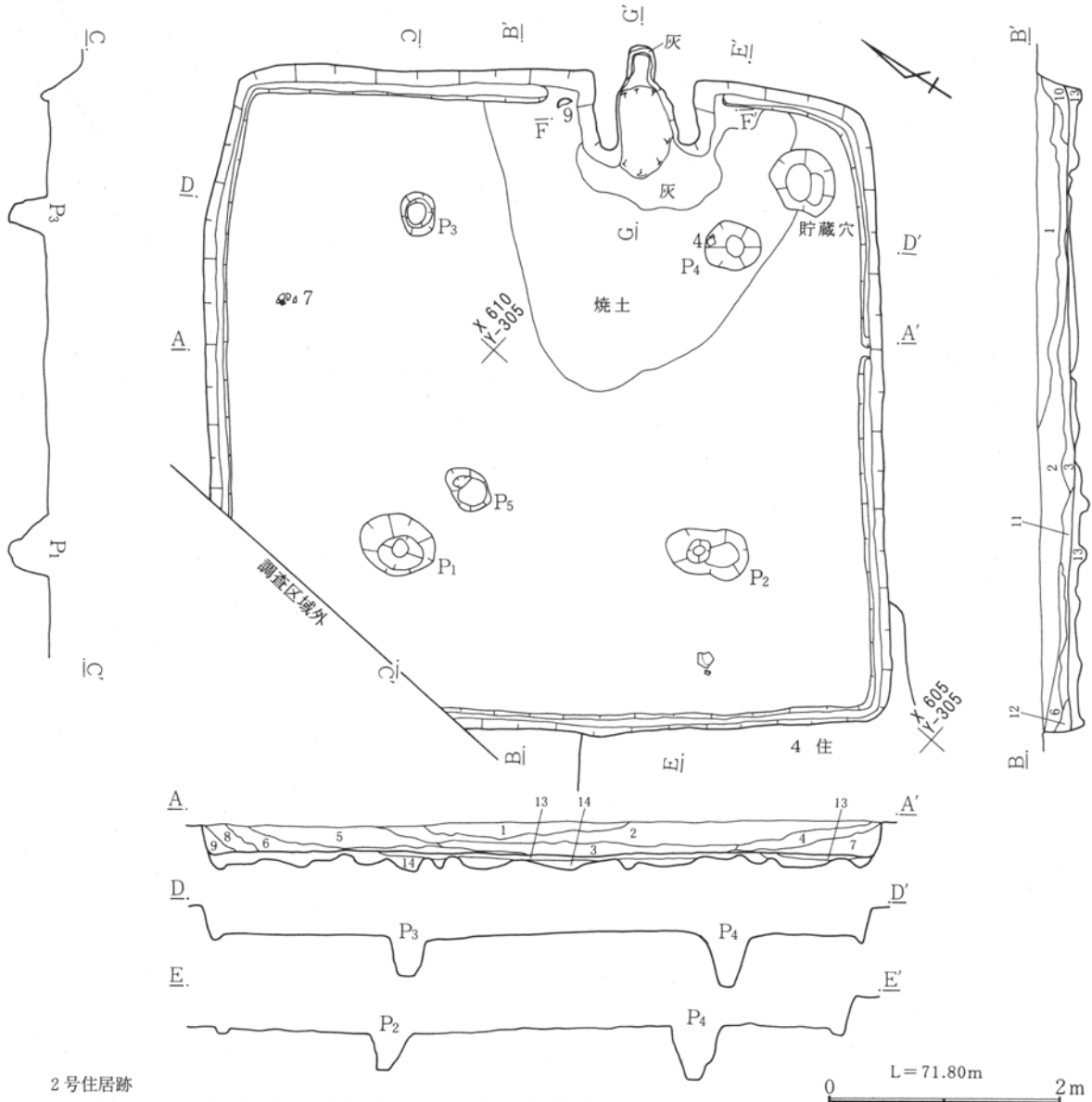
1号住居跡石製品観察表

挿図番号 PL番号	器種 器形	部位 残存	長・幅 (cm) 厚・重 (g)	出土 位置	特徴・その他	石材
8図6 PL 3	石製錘	完形	13.4・6.9 2.2・356.9	埋土	扁平。河床礫。	細粒輝石安山岩
8図7 PL 3	石製錘	ほぼ完形	14.1・6.0 2.9・414.4	埋土	棒状。河床礫。右側縁剥離。	砂岩
8図8 PL 3	石製錘	完形	13.0・4.4 2.8・261.8	埋土	棒状。河床礫。	変質デイサイト
8図9 PL 3	石製錘	完形	11.5・6.5 2.5・286.2	埋土	扁平。河床礫。	変質安山岩
8図10 PL 3	石製錘	完形	10.7・6.3 2.7・216.4	埋土	扁平。端部に近い側縁剥離。河床礫。	溶結凝灰岩
8図11 PL 3	石製錘	完形	11.5・7.0 2.6・335.2	埋土	扁平。河床礫。	流紋岩
8図12 PL 3	石製錘	端部欠	(8.4)・7.3 3.8・354.9	埋土	棒状。上部、下部欠損。河床礫。	粗粒輝石安山岩
8図13 PL 3	石製錘	完形	7.2・5.5 2.9・156.2	埋土	楕円形。河床礫。	粗粒輝石安山岩
8図14 PL 3	石製錘	端部欠	(8.1)・4.9 3.6・245.1	埋土	棒状。河床礫。	輝緑岩

2号住居跡

本住居跡は調査区西部に位置する。住居跡北西部隅は調査区域外に入る。他の遺構跡との重複関係は、南西部隅で4号住居跡と重複する。新旧関係は本住居跡がこれより古い。

平面形は各壁線の中央が僅かに膨らむ南北に長軸をもつ方形を呈する。規模は長軸5.8m・短軸5.6m・壁高は24~25cmを測り、床面積は29.75㎡である。主軸方位は竈基軸N-50°-Eを示す。床面は平坦で柱穴内側は踏み締まりが良好で安定している。竈前面は、著しく灰・焼土粒が流出しており、床面は硬く締まっている。居住中に敷き踏み固めた様相がある。



2号住居跡

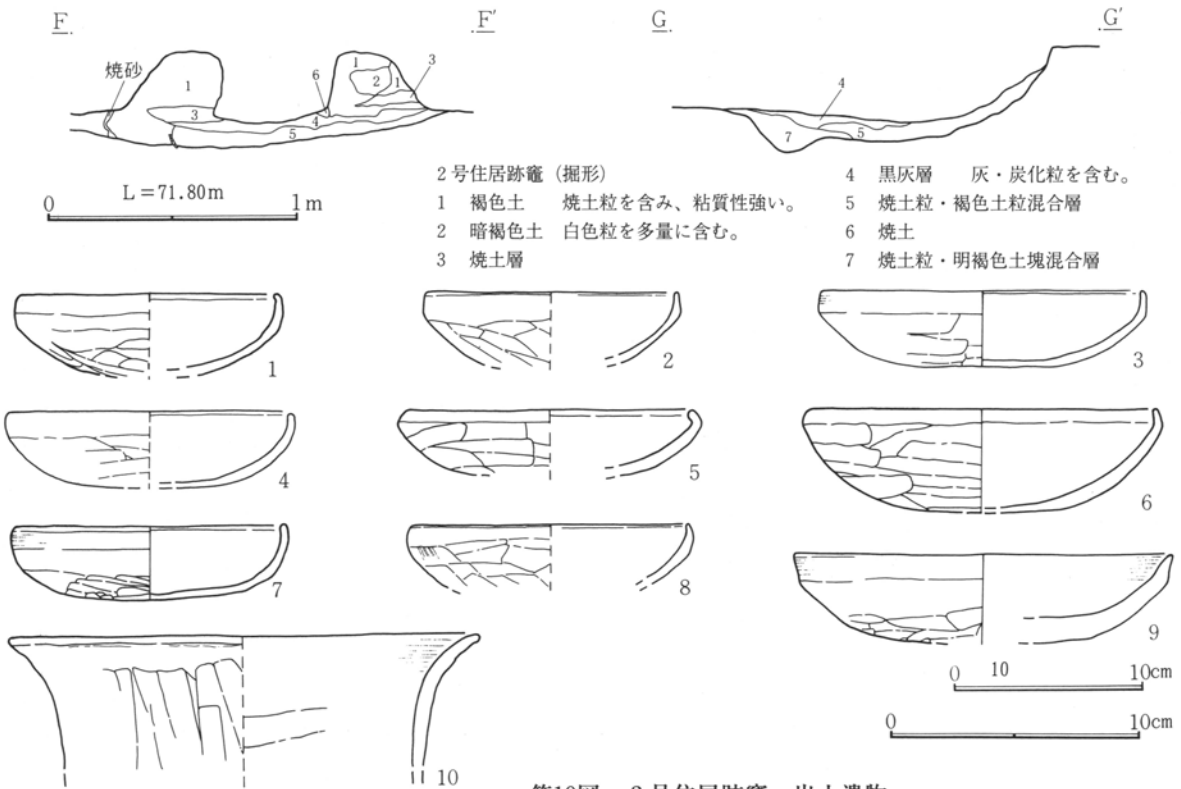
- | | |
|------------------------------------|-------------------------|
| 1 明橙色土 焼土粒・白色粒子を多量に含み、締まり強い。粘質性強い。 | 9 暗褐色土 灰黄砂質土塊を含む。 |
| 2 暗褐色土 焼土粒・白色粒子を多量に含み、締まり強い。砂質性強い。 | 10 褐灰色土 砂質土。 |
| 3 明橙色土 焼土粒(大粒)・灰白色粘土粒を多量に含み、締まり強い。 | 11 暗褐色土 白色粒子を多量に含む。砂質土。 |
| 4 黒褐色土 白色粒子を多量に含む。砂質土。 | 12 暗灰色土 灰白色砂質土塊を多量に含む。 |
| 5 褐色土 白色粒子を多量に含む。砂質土。 | (掘形) |
| 6 暗褐色土 砂質土で白色粒子を多量に含む。 | 13 暗褐色土 白色粒子を多量に含む。砂質土。 |
| 7 灰白色土 灰白色砂質土塊。 | 14 暗褐色土 灰白色砂質土塊を多量に含む。 |
| 8 褐色土 焼土粒(大粒)を多量に含み、締まり強い。 | |

第9図 2号住居跡

第3章 調査遺構と出土遺物

竈は東壁南側に寄って付設され、規模は袖部長さ80cm、焚き口幅45cmである。燃燒部は住居内にあり、煙出穴が壁外へ僅かに突出する。構築状態は袖部が住居内に大きく張り出し、袖材に褐色粘質土を被覆し焼土層を介在させる。貯蔵穴は南東壁隅の竈右脇にあり、規模は径55×50cm・深32cmである。形状は略円形を呈する。柱穴は4穴検出され、底面は柱痕と考えられる痕跡がある。P1～P4の規模はP1上径53cm・柱痕径24cm・深35cm、P2上径38cm・柱痕径10cm・深30cm、P3上径34cm・柱痕径18cm・深34cm、P4上径45cm・柱痕径12cm・深46cmである。周溝は四壁下に巡り、規模は幅5～10cm・深5cm前後である。

遺物は床面から土師器小片数点が出土しただけで須恵器類はなく、住居廃棄の際、家財を持ち出したと考えられる。本住居跡の時期は出土遺物より古墳時代後期と考えられる。



第10図 2号住居跡竈・出土遺物

2号住居跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
10図1	土師器 杯	1/4	(10.4)・ —	埋土	口縁部上半横撫で、下半撫で。底部にかけて篋削り。 内面横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
10図2	土師器 杯	小片	(10.0)・ —	埋土	口縁部横撫で。底部にかけて篋削り。 内面横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
10図3	土師器 杯	1/4	(12.8)・ 3.0	埋土	口縁部横撫で。底部にかけて篋削り。 内面横撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
10図4	土師器 杯	1/4	(11.4)・ 3.0	掘形	口縁部横撫で。底部にかけて篋削り。黒斑あり。 内面底部丁寧な撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
10図5	土師器 杯	小片	(10.2)・ —	埋土	口縁部横撫で。底部にかけて篋削り。 内面横撫で。口縁部内傾する。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
10図6 P L 4	土師器 杯	1/2	13.8・ 4.1	埋土	口縁部横撫で。底部にかけて粗い篋削り。 内面口縁～底部にかけて横撫で。	①良好②にぶい橙 ③粗砂粒
10図7 P L 4	土師器 杯	ほぼ完形	13.0・ 2.9	床直 掘形	口縁上半部横撫で、下半撫で。底部にかけて篋削り。 内面口縁～底部にかけて横撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
10図8	土師器 杯	小片	(11.0)・ —	埋土	口縁部横撫で。底部にかけて篋削り。 内面丁寧な撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
10図9	土師器 杯	小片	(15.0)・ —	埋土	口縁部上半横撫で、下半撫で。底部にかけて篋削り。 内面底部にかけて横撫で。底部指頭痕。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
10図10	土師器 甕	口縁小片	(25.0)・ —	埋土	口縁部外反する。胴部篋削り。 内面口縁部横撫で。胴部横撫で。	①良好②にぶい黄橙 ③粗砂粒

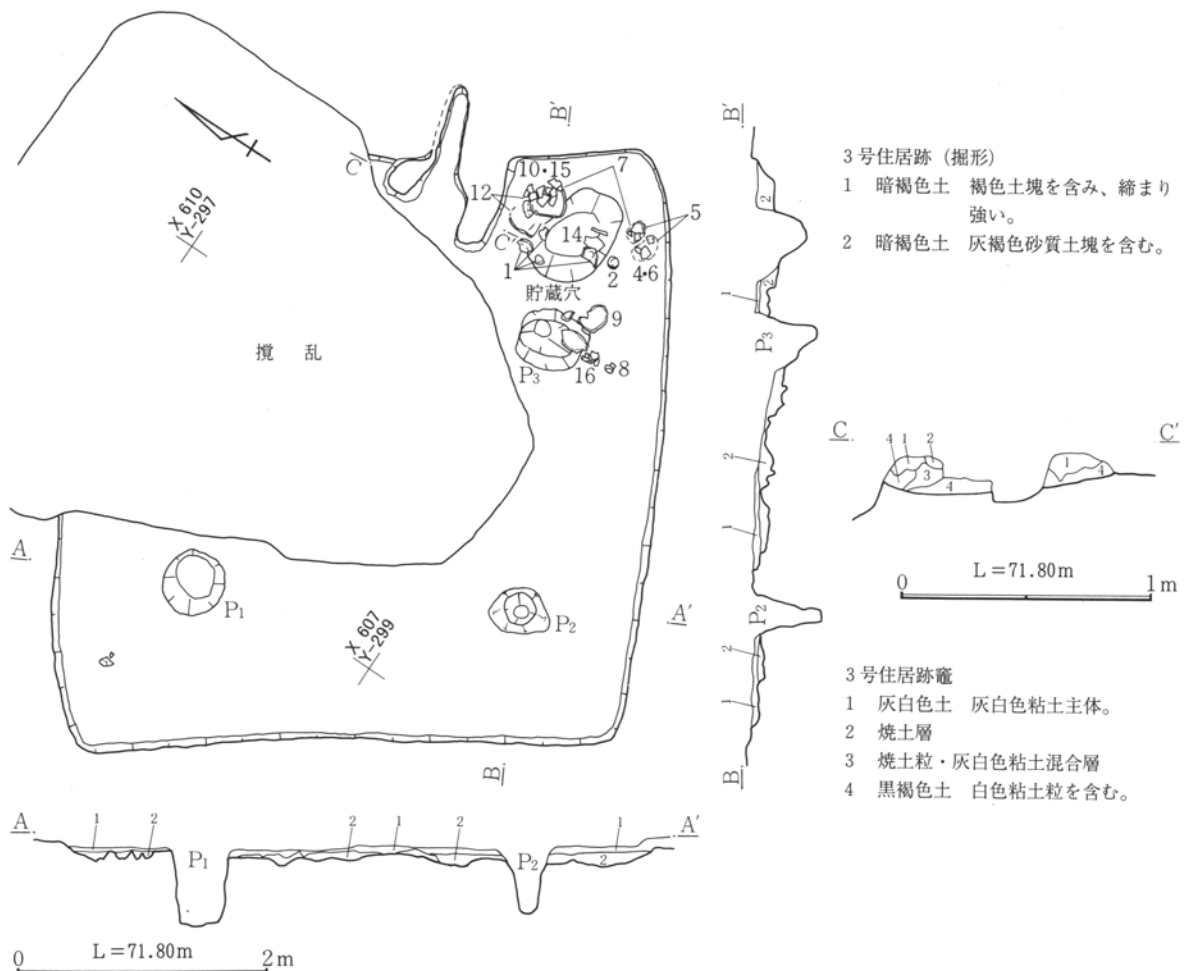
3号住居跡

本住居跡は調査区北部に位置する。他の遺構跡との重複関係はないが、北西部の1/3以上が攪乱により消失している。

平面形は等規模の方形を呈する。規模は各辺ともに4.65m・壁高は3cm前後を測り、床面積は20.98㎡である。主軸方位は竈基軸N-72°-Eを示す。床面は北部の攪乱が中央部まで及び不明であるが、ほぼ平坦で柱穴外側は踏み締まりが弱く不安定である。床土は厚さ5cmほどの暗褐色土で、締まりの強い褐色土塊を混合する。床面掘形埋土は灰褐色砂質土塊を混合する暗褐色土で小さな凹凸が著しい。

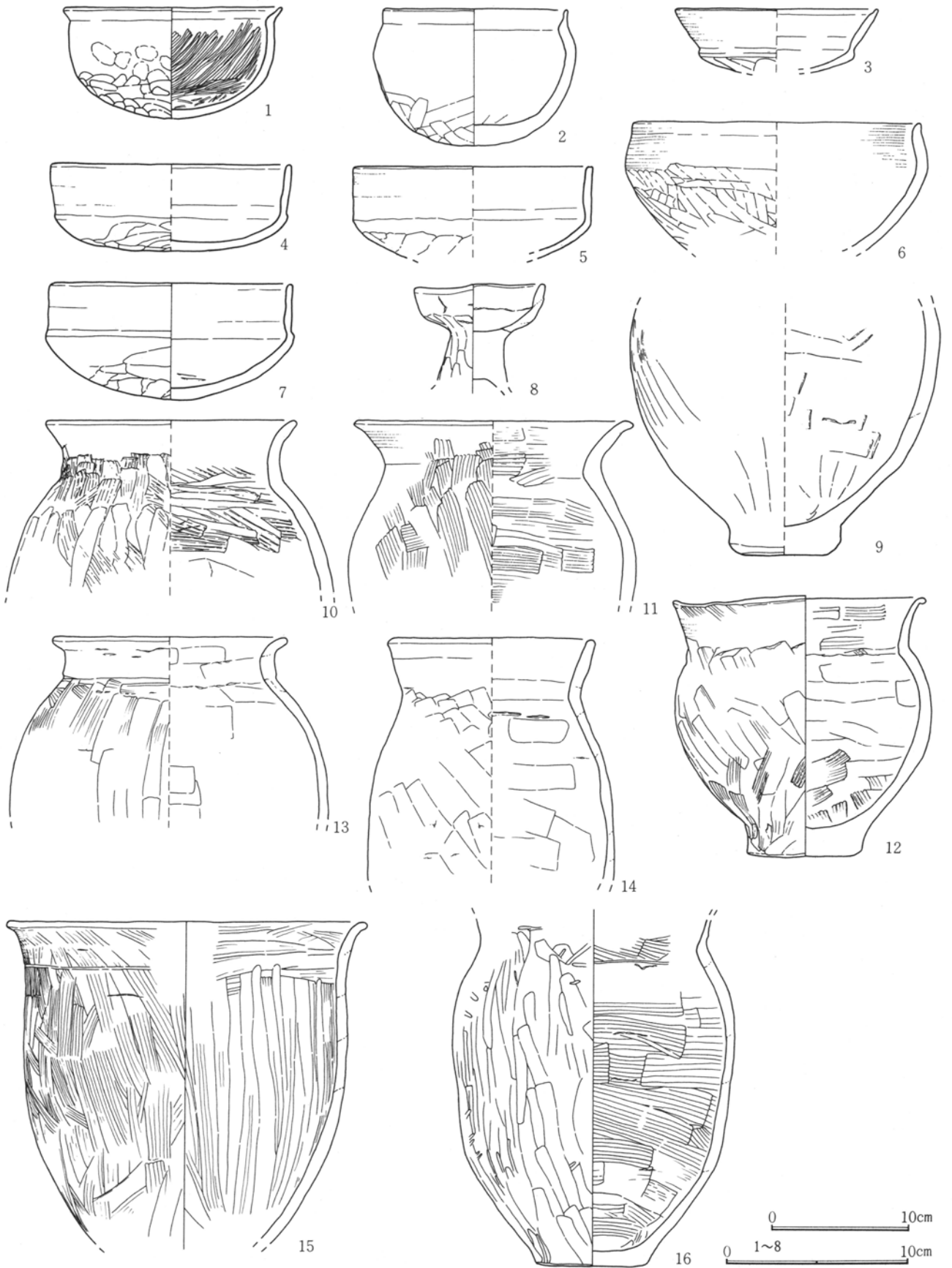
竈は東壁南側に寄って付設され、規模は袖部長さ75cm、焚き口幅推定40cmである。燃烧部は住居内にあり、煙道は壁外へ約60cm大きく突出する。構築状態は袖部が住居内に大きく張り出し、袖材及び煙道壁面は白色粘土を用いて被覆し、基盤には黒褐色土との混合土を介在させる。貯蔵穴は東壁南隅の竈右脇にあり、規模は径80×55cm・深40cmである。形状は楕円形を呈する。柱穴は攪乱で消失した1穴を除き3穴検出された。P1～P3の規模はP1上径50cm・底径36cm・深60cm、P2上径46cm・柱痕径16cm・深50cm、P3上径50cm・柱痕径12cm・深50cmである。周溝は検出されなかった。

遺物は床面から土師器甕・土師器杯・手捏ねなどが出土し、貯蔵穴内から土師器甕・土師器碗が出土している。本住居跡の時期は出土遺物より古墳時代中期と考えられる。



第11図 3号住居跡・竈

第3章 調査遺構と出土遺物



第12図 3号住居跡出土遺物

3号住居跡遺物観察表

挿図番号 PL番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
12図1 PL5	土師器 椀	ほぼ完形	11.8・ 6.0	貯蔵穴	口唇部外反し、横撫で。口縁部撫で、指頭痕あり。底部篋削り。内面口縁部斜方向篋磨き。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
12図2 PL5	土師器 椀	口唇部欠	10.0・ 7.4	掘形	口唇部外反し、横撫で。口縁部撫で。底部篋削り。内面篋撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
12図3	土師器 杯	小片	(11.0)・ -	P3 埋土	口縁部下に明瞭な稜をもつ。口縁部横撫で。底部篋削り。内面撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
12図4 PL5	土師器 杯	1/4	(13.4)・ 4.7	埋土 床直	口縁部下に明瞭な稜をもつ。口縁部横撫で。底部篋削り。内面撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
12図5 PL5	土師器 杯	1/4	(12.8)・ -	埋土 床直	口縁部下に明瞭な稜をもつ。口縁部横撫で。底部篋削り。内面撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
12図6 PL5	土師器 鉢	口～体 1/3	(15.4)・ -	埋土 床直	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部横撫で。底部篋削り。内面撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
12図7 PL5	土師器 杯	1/3	13.0・ 6.3	床直 掘形	口縁部下に明瞭な稜をもつ。口縁部横撫で。底部篋削り。内面撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
12図8 PL5	手捏ね 高杯	裾部欠	7.0・ -	床直	口縁部に輪積み痕。杯部から脚部にかけては縦方向の篋削り。内面撫で。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
12図9 PL5	土師器 甕	胴中～底	-・ 6.0	貯蔵穴	断面に輪積み痕。胴部縦方向篋削り。内面篋撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
12図10 PL5	土師器 甕	口～胴上	18.0・ -	埋土 竈埋土	口縁部横撫で。胴部は縦方向刷毛目。内面胴部篋撫で。	①良好②橙③細砂粒
12図11	土師器 甕	口～胴上 小片	(20.0)・ -	埋土	口縁部横撫で。胴部は縦方向刷毛目。内面胴部篋撫で。	①良好②橙③細砂粒
12図12 PL5	土師器 甕	口～底 3/4	18.3・ 18.9	貯蔵穴 床直	口縁部横撫で。胴部は縦方向刷毛目。内面胴部篋撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
12図13	土師器 甕	口～胴中 小片	(17.0)・ -	竈埋土 埋土	口縁部に輪積み痕。口縁部横撫で。胴部は縦方向刷毛目。内面胴部篋撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
12図14	土師器 甕	口～胴中 小片	(15.0)・ -	貯蔵穴 床直	口縁部に輪積み痕。口縁部横撫で。胴部は縦方向篋削り。内面胴部篋撫で。	①良好②灰褐 ③細砂粒
12図15 PL5	土師器 甕	口～胴下	26.0・ -	床直 掘形	口縁部横撫で後胴部から口縁部にかけて縦方向刷毛目。内面胴部は縦方向の篋撫で。	①良好②明赤褐 ③細砂粒
12図16 PL5	土師器 甕	口唇部欠	-・ 8.2	貯蔵穴 埋土	口縁部横撫で。胴部縦方向の篋削り。内面篋撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒

4号住居跡

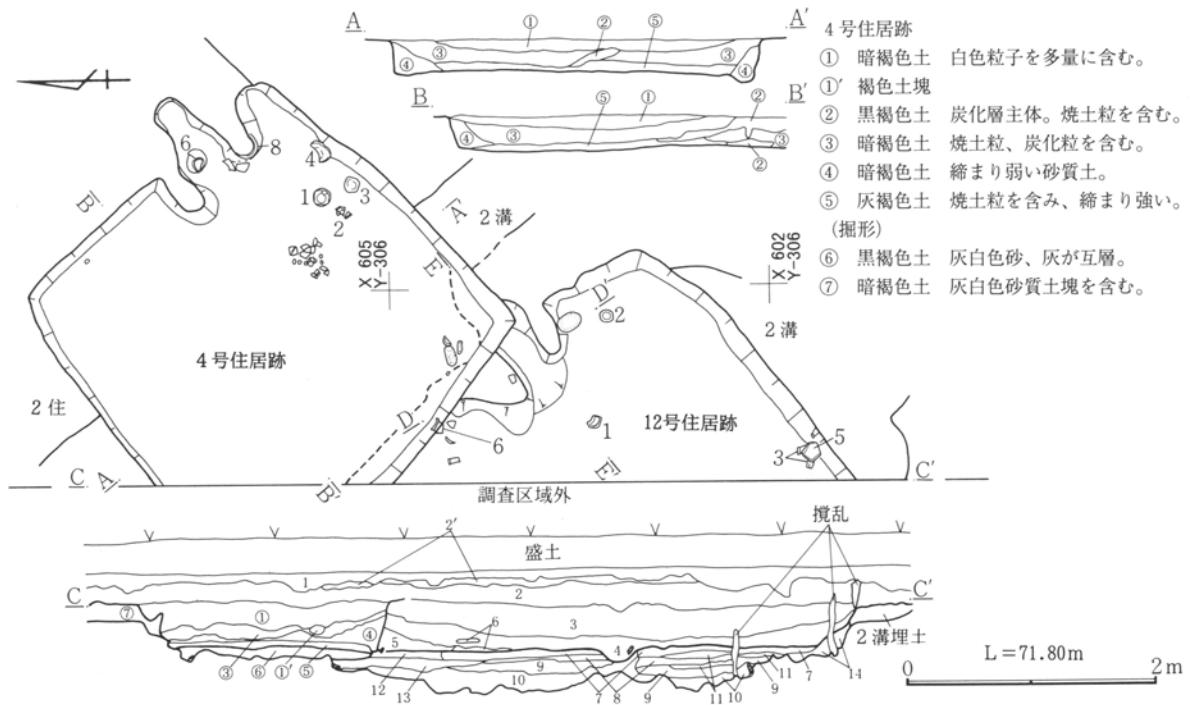
本住居跡は調査区西部に位置する。住居跡西部隅は調査区域外に入る。他の遺構跡との重複関係は、北東部で2号住居跡、南西部で12号住居跡と重複し、南壁で2号溝跡とも切り合い関係にある。新旧関係は本住居跡がこれらいずれよりも新しい。

平面形は等規模の方形を呈する。規模は各辺3.0m・壁高30cmを測り、床面積は7.55㎡である。主軸方位は竈基軸N-48°-Eを示す。床面は平坦で全体に硬く締まっている。床土は厚さ3～4cmほどの灰褐色土で、焼土粒を多く含む。竈前面には焼土粒が広がり、硬く締まっている。居住中に敷き踏み固めた様相がある。床面掘形埋土は灰白色砂質土と炭化粒を含む黒褐色土である。

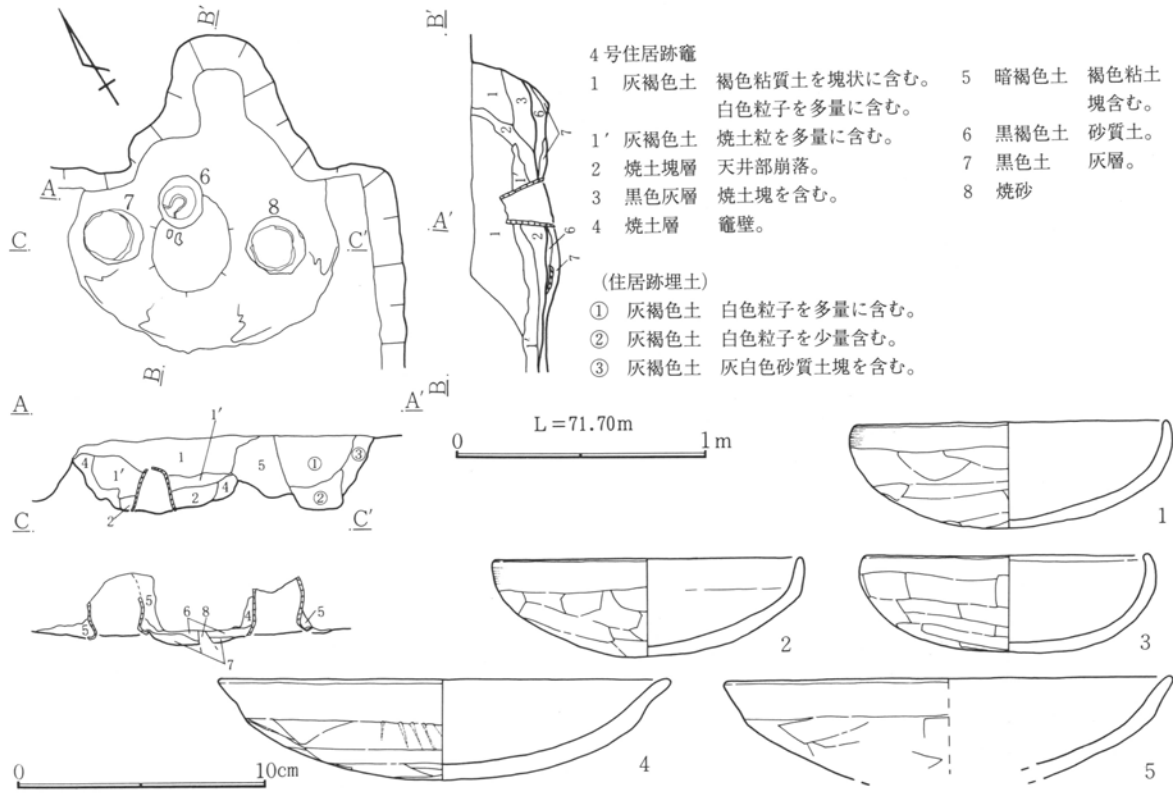
竈は東壁南側に寄って付設され、規模は袖部長さ55cm、焚き口幅30cmである。燃焼部は東壁線上にあり、土師器甕を倒置し支脚とする。煙道はやや太く壁外に約45cm突出する。構築状態は両袖に芯材として土師器長胴甕を倒置し、褐色粘質土にてこれを被覆し構築する。長胴甕はいずれも意図的に胴下部から底部を欠いて用いていたようである。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物は南壁際に床面から土師器杯が数点出土している。本住居跡の時期は出土遺物より奈良時代と考えられる。

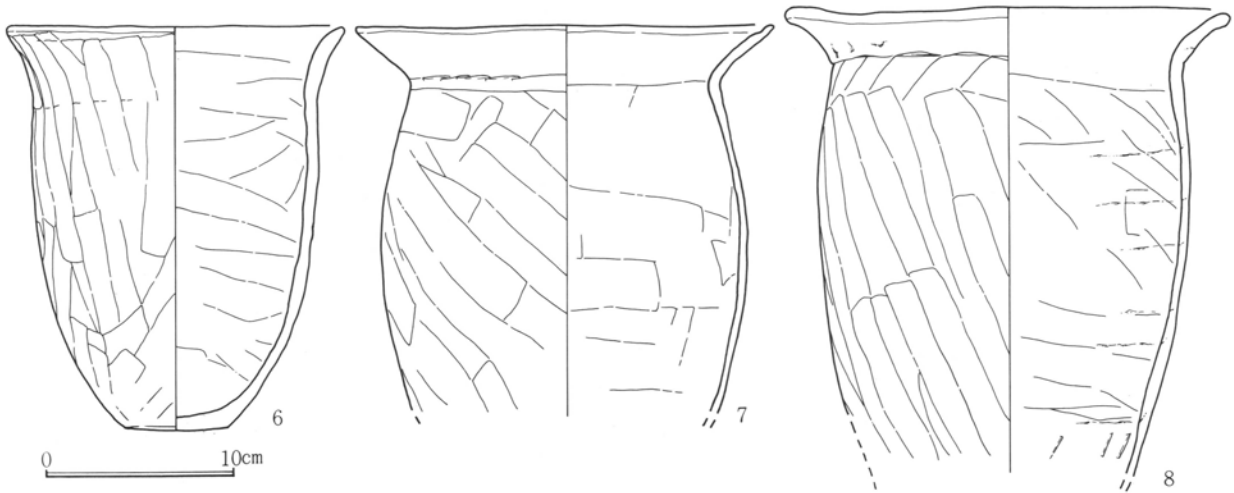
第3章 調査遺構と出土遺物



- 12号住居跡 (掘形)
- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 灰褐色土 砂質土。 | 7 黒褐色土 褐色粘質土、灰土が薄層で互層。 |
| 2 暗褐色土 細白色粒子、焼土粒を多量に含む。 | 8 黒褐色土 褐色粘質土、灰白色砂質土が互層。 |
| 2' 黒褐色土 細白色粒子、焼土粒を含む。 | 9 黒褐色土 褐色粘質土、灰白色砂質土が互層。 |
| 3 暗褐色土 焼土粒を多量に含む。 | 10 黒褐色土 焼土粒、炭化粒、灰白色砂質土を含む。 |
| 4 暗褐色土 焼土粒、炭化粒を多量に含む。 | 11 暗褐色土 灰白色砂質土を含み、締まり弱い。 |
| 5 暗褐色土 焼土粒を含む。 | 12 褐色土 炭化粒を含む。 |
| 6 明橙色土 粘土塊。竈材と同質土。 | 13 褐色土 炭化粒、焼土粒を多量に含む。 |
| | 14 黒褐色土 締まり弱い。 |



第13図 4・12号住居跡・竈・出土遺物(1)



第14図 4号住居跡出土遺物(2)

4号住居跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
13図1 P L 6	土師器 杯	完形	12.3・— 4.2	床直	口縁部上半横撫で、下半から底部は篋削り。 内面横撫で。	①良好②橙③細砂粒
13図2 P L 6	土師器 杯	ほぼ完形	12.4・— 3.9	床直	口縁部上半横撫で、下半から底部は篋削り。 内面横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
13図3 P L 6	土師器 杯	完形	11.2・— 3.8	床直	口縁部上半横撫で、下半から底部は篋削り。内面横撫 で。	①良好②橙③細砂粒
13図4 P L 6	土師器 盤	2/3	17.9・— 4.0	床直	口縁部外反、口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部横撫で。 底部篋削り。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
13図5	土師器 盤	小片	(17.8)・— —	埋土	口縁部外反、口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部横撫で。	①良好②橙③細砂粒
14図6 P L 6	土師器 甕	ほぼ完形	18.0・(5.4) 21.4	竈材	口縁部から胴部下位篋削り。 内面胴部篋撫で。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
14図7 P L 6	土師器 長甕	口～胴中	22.3・— —	竈材	口縁部横撫で。胴部斜め方向の篋削り。内面胴部篋撫 で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
14図8 P L 6	土師器 長甕	口～胴中	23.5・— —	竈材	頸部下位から上位への篋削り。胴部は上位から下位へ の斜方向篋削り。内面胴部は篋撫で。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒

12号住居跡

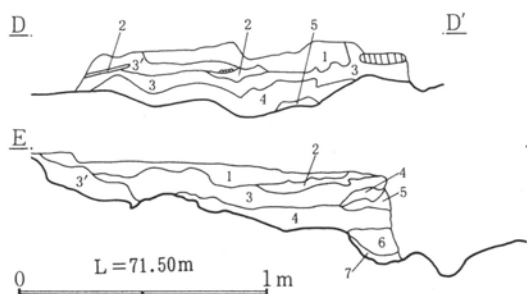
本住居跡は調査区西部に位置する。住居跡西半分は調査区域外に入り全容は不明である。他の遺構跡との重複関係は、北東部で4号住居跡、南東部で2号溝跡と重複する。新旧関係は本住居跡が4号住居跡より旧く、2号溝跡より新しい。

本住居跡は南壁2.5m・東壁3.0mの範囲まで検出した。平面形は残存状態から方形を呈すると考えられる。壁高は30cmを測る。主軸方位は竈基軸N-51°-Eを示す。床面は平坦で硬く締まり、全体に焼土粒層が分布し、居住中に敷き踏み固めた様相がある。床面掘形埋土は深く、褐色粘土・灰・焼土・炭化粒を混合した薄層が整合良く互層をなしている。

竈は東壁南に寄って付設され、煙道の一部は4号住居跡によって消失されていたため、残存状態は良好とはいえない。規模は袖部長さ約60cm、焚き口幅推定30cmである。燃烧部は住居内にあり、煙道は壁外へ約65cm大きく突出する。構築状態は袖材に褐色粘質土を用いてこれを被覆する。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

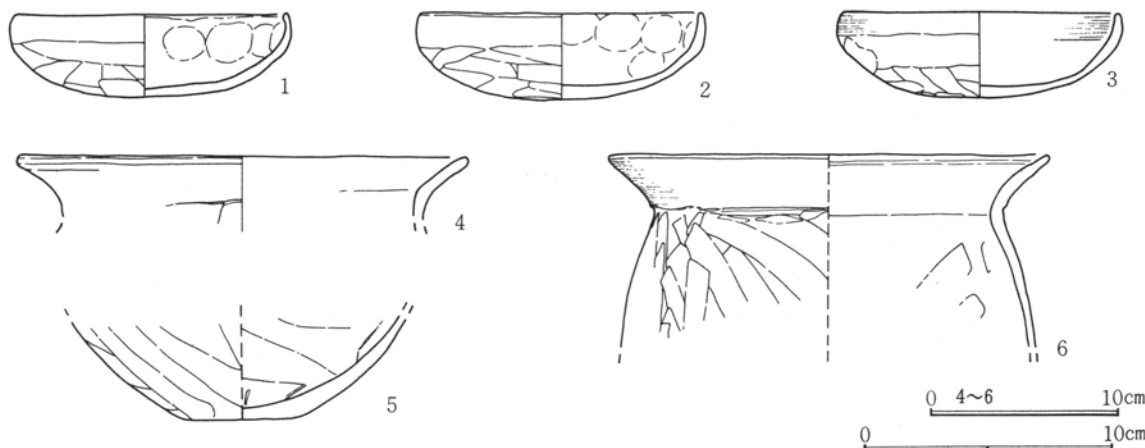
遺物は竈周辺及び南壁際の床面から土師器杯類が数点出土している。本住居跡の時期は出土遺物より古墳時代後期から奈良時代と考えられる。

第3章 調査遺構と出土遺物



12号住居跡竈

- 1 明褐色土 明赤褐色焼土を少量含む。粘質土。
- 2 暗灰色土 明赤褐色焼土を少量含む。粘質土。
- 3 褐色土 黒色灰土、明褐色焼土を少量含む。粘質土。
- E' 3' 褐色土 3よりやや明るい土。
- 4 褐色土 明赤褐色焼土塊を多量に含む。粘質土。
- 5 褐色土 灰白色砂質土を多量に含む。
- 6 褐色土 白色細粒子を少量含む。浅黄橙色粘質土を塊状に含む。粘質土。
- 7 黒褐色土 灰白色砂質土、浅黄橙色粘質土を塊状に含む。粘質土。



第15図 12号住居跡竈・出土遺物

12号住居跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
15図1 P L 7	土師器 杯	3/4	10.9・ 3.3	埋土	口縁部上半横撫で、下半撫で。底部篋削り。 内面横撫で。	①良好②橙③細砂粒
15図2 P L 7	土師器 杯	ほぼ完形	11.5・ 3.4	床直	口縁部上半横撫で。下半から底部は篋削り。 内面横撫で。	①良好②橙③細砂粒
15図3 P L 7	土師器 杯	ほぼ完形	11.0・ 3.8	床直	口縁部上半横撫で、下半撫で。底部篋削り。 内面横撫で。	①良好②橙③細砂粒
15図4	土師器 甕	口縁のみ	(24.0)・ -	竈掘形	口縁部横撫で。頸部篋削り。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
15図5 P L 7	土師器 甕	胴下半 ~底	-・ 6.0	埋土	胴部斜め方向の篋削り。底部篋削り。 内面篋撫で。	①良好②橙③細砂粒
15図6 P L 7	土師器 甕	口~胴上 半	23.4・ -	埋土	口縁部横撫で。胴部上半斜め方向の篋削り。 内面胴部篋撫で。	①良好②橙③細砂粒

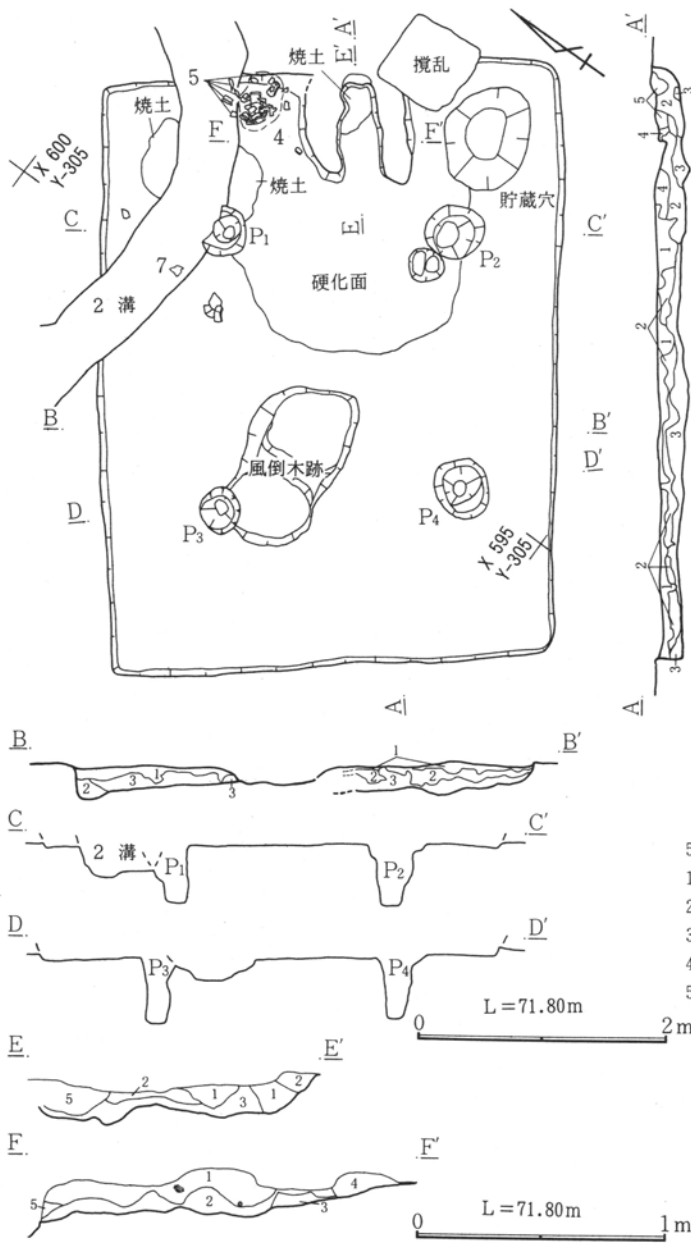
5号住居跡

本住居跡は調査区西中央部に位置する。他の遺構跡との重複関係は、北部隅で2号溝跡と重複する。新旧関係は本住居跡がこれより古い。住居跡中央で風倒木跡があり、東壁竈付近に攪乱がある。

平面形は北東-南西方向に長軸をもつ長方形を呈する。規模は長軸4.65m・短軸3.6m・壁高5cm前後を測り、床面積は15.98㎡である。主軸方位は竈基軸N-53°-Eを示す。床面はほぼ平坦であり、竈前面1.5×2.0mの範囲は床面が硬く締まっている。床土は白色粒子を含む暗褐色土である。床面掘形埋土は褐色土と灰白色土が不整合に混合する。竈右隅に焼土粒の薄層が1.0×0.7mの範囲で広がり、2号溝跡によって分断されている。

竈は東壁南側に寄って付設され、規模は袖部長さ85cm、焚き口幅は30cmである。焼部は住居内にあり、煙出穴は上面削平のためか東壁線より突出しない。構築状態は袖部が住居内に大きく張り出し、袖材に橙色

第2節 遺構と遺物



土及び黄橙色の粘質土を用いてこれを被覆する。貯蔵穴は東壁南隅の竈右脇にあり、規模は径80×65cm・深29cmである。形状は楕円形を呈する。柱穴は4穴検出され、底面は柱痕と考えられる痕跡がある。P1～P4の規模はP1上径40cm・柱痕径16cm・深46cm、P2上径46cm・柱痕径16cm・深50cm、P3上径32cm・柱痕径16cm・深46cm、P4上径40cm、柱痕径12cm・深52cmである。周溝は検出されなかった。

遺物は竈左脇床面から甑1個体が出土している。甑や土師器甕の一部は2号溝跡埋土中にあり、溝開削時に流入したとも考えられる。

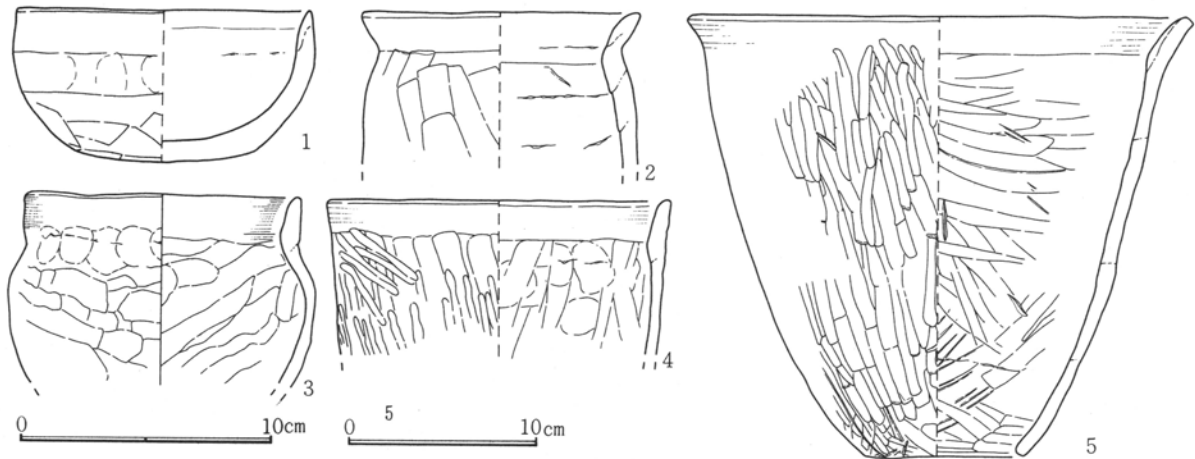
本住居跡の時期は出土遺物より古墳時代中期と考えられる。

5号住居跡(掘形)

- 1 暗褐色土 白色細粒子を含む。赤褐色砂質土を少量含む。
- 2 褐色土 赤褐色砂質土を多量に含む。
- 3 灰白色土 浅黄色砂質土を含む。砂質土。
- 4 暗灰色土 褐色砂質土を少量含む。
- 5 浅黄色土 粘質土(竈袖材)。

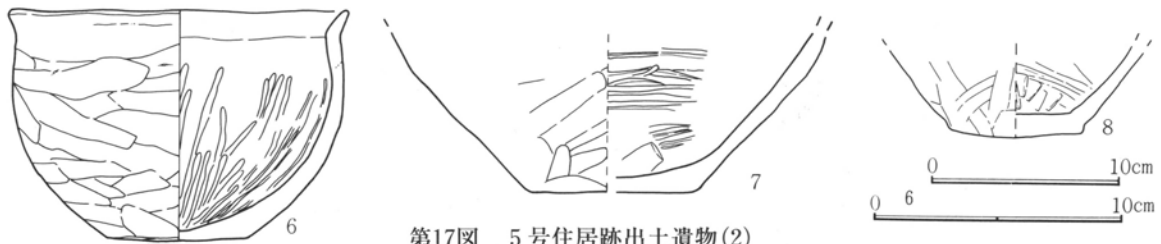
5号住居跡竈

- 1 黒褐色土 砂質土。
- 2 暗褐色土 焼土粒を少量含む。粘質土。
- 3 褐色土 焼土粒を少量含む。粘質土。
- 4 橙色土 白色粒を含む。粘質土(竈袖材)。
- 5 焼土粒 黄白色粘土粒を含む。



第16図 5号住居跡・竈・出土遺物(1)

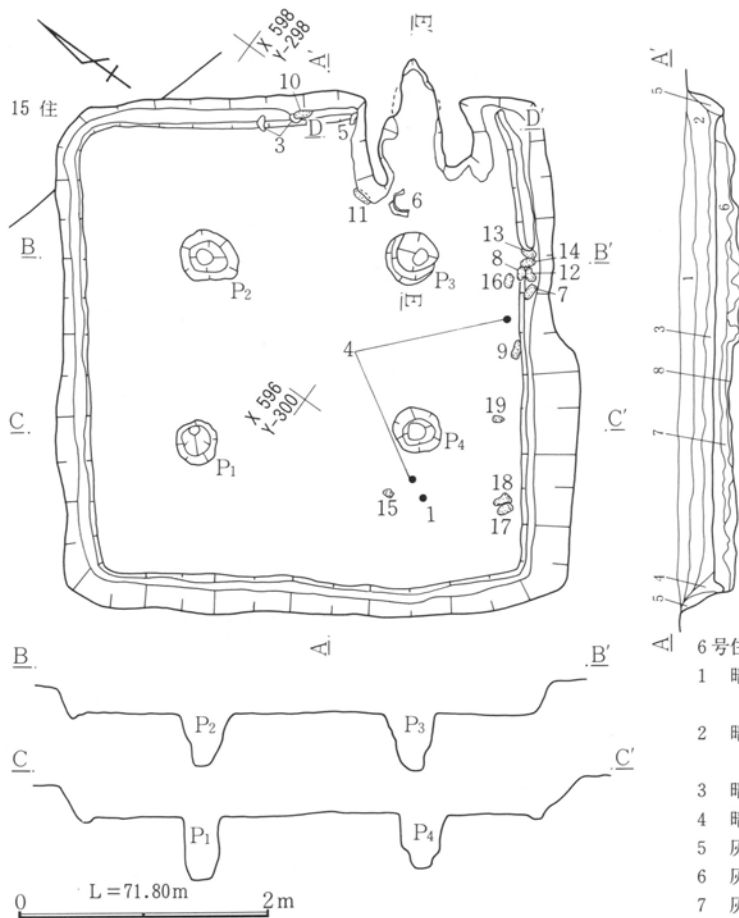
第3章 調査遺構と出土遺物



第17図 5号住居跡出土遺物(2)

5号住居跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
16図1 P L 8	土師器 椀	1/3	(11.6)・ 6.0	竈埋土	口縁部横撫で。体部撫で。底部篋削り。 内面横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
16図2	土師器 小型甕	口縁小片	(11.0)・ —	竈埋土	口縁部横撫で。胴部縦方向篋削り。 内面胴部篋撫で、接合痕あり。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
16図3 P L 8	土師器 小型甕	口~胴中	11.0・ —	埋土	口縁部横撫で。頸部指頭痕。胴部横方向の篋削り。 内面胴部篋撫で。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
16図4	土師器 甕	口縁小片	(13.6)・ —	床直	口縁部横撫で。胴部縦方向の篋削り。 内面胴部篋撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
16図5 P L 8	土師器 甕	口~底 1/3	26.6・8.3 23.3	床直 2溝埋土	口縁部横撫で。口縁部下半から胴部は下位から口縁部 にかけての縦方向篋削り。内面篋撫で。	①良好②橙③細砂粒
16図6 P L 8	土師器 鉢	口~底 1/2	13.9・(5.6) 9.1	埋土	口縁部横撫で。胴部横方向篋削り。底部篋削り。 内面胴部粗い斜方向篋磨き。	①良好②黒褐 ③細砂粒
16図7 P L 8	土師器 甕	胴下半~ 底部片	—・8.2 —	2溝埋 土	胴部~底部篋削り。 内面篋撫で。	①良好②灰褐 ③細砂粒
16図8 P L 8	土師器 甕	底部片	—・(7.0) —	埋土	胴部~底部篋削り。 内面篋撫で。	①良好②灰黄褐 ③細砂粒



第18図 6号住居跡

6号住居跡

本住居跡は調査区中央部西側に位置する。南壁の一部が崩落しているため壁線が中央部より大きく外へ広がる。基層が砂質土のため上端の壁面が緩やかである。他の遺構跡との重複関係は北部隅で15号住居跡と重複する。新旧関係は本住居跡がこれより新しい。

平面形はほぼ等規模の方形を呈する。規模は長軸4.1m・短軸3.9m・壁高27cmを測り、床面積は13.58㎡である。

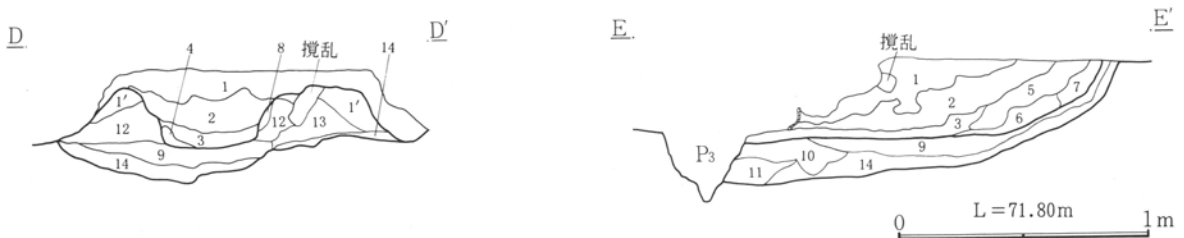
6号住居跡

- 1 暗褐色土 白色粒を多量に含み、中央部に焼土粒を多量に含み、締まり弱い。砂質土。
- 2 暗褐色土 白色粒を多量に含む。焼土粒を含み、締まり弱い。砂質土。
- 3 暗灰褐色土 白色粒を多量に含む。焼土粒を含む。
- 4 暗褐色土 白色粒子を含み、締まり弱い。砂質土。
- 5 灰白色土 暗褐色土塊を含む。
- 6 灰褐色土 砂粒を多量に含み、締まり強い。
- 7 灰褐色土 暗褐色土を塊状に含む。砂質土。
- 8 灰褐色土 暗褐色土小塊を少量含む。砂質土。

主軸方位は竈基軸N-55°-Eを示す。床面はほぼ平坦で4柱穴を結ぶ内側の範囲は特に踏み締まりが良好で硬いが柱穴外側は砂質土が強く内側に比べやや軟弱である。

竈は東壁に南に大きく寄って付設され、規模は袖部長さ約80cm、焚き口幅は40cmである。燃烧部は住居内にあり、やや幅広な煙道が壁外に約40cm突出する。構築状態は袖部が住居内に大きく張り出し、袖材に焼土粒を混合した明橙色粘質土を用い、上被覆には明褐色粘質土を暗褐色土に混合し重ねる。柱穴は4穴検出され、底面には柱痕と考えられる痕跡がある。P1～P4の規模はP1上径34cm・柱痕径18cm・深53cm、P2上径44cm・柱痕径16cm・深43cm、P3上径43cm・柱痕径18cm・深45cm、P4上径38cm・柱痕径12cm・深41cmである。周溝は四壁下に巡り、規模は幅10cm・深7～8cmである。

遺物は竈前面の床面から土師器甕口縁部が出土し、南壁際に編み物用石製錘が10個集中して出土している。本住居跡の時期は出土遺物より古墳時代後期から奈良時代と考えられる。

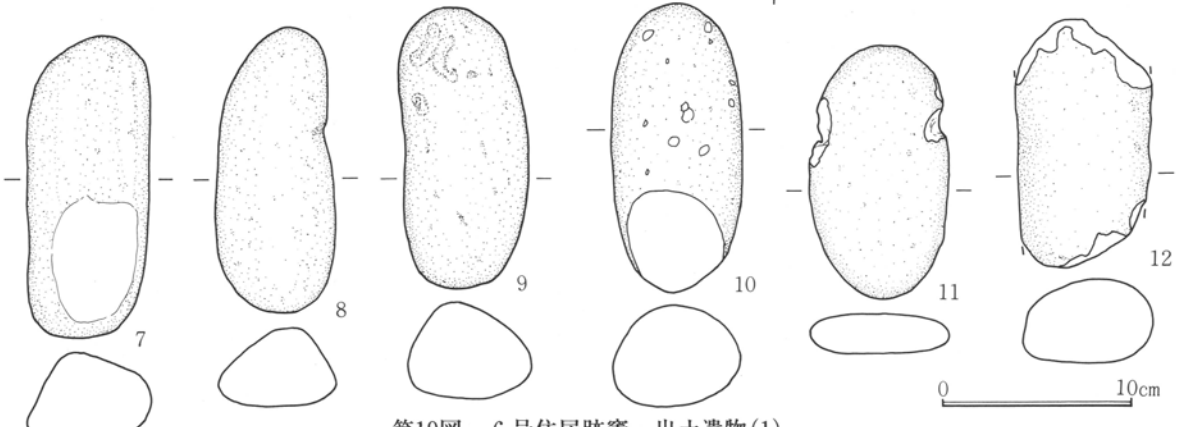
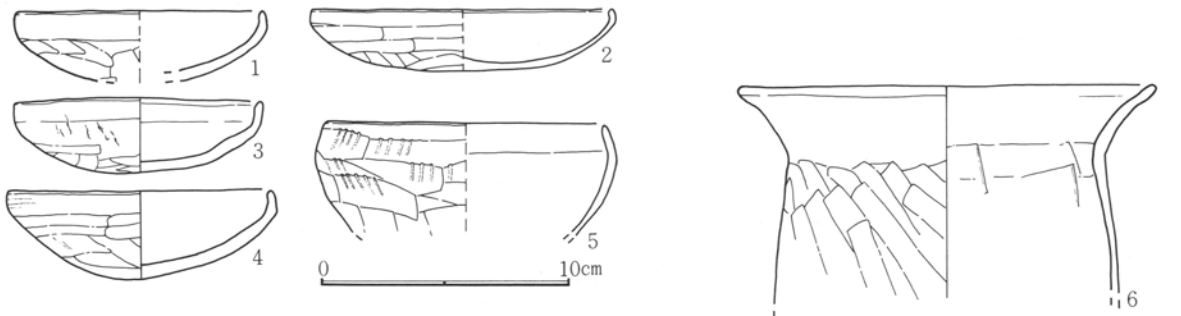


6号住居跡竈

- 1 暗褐色土 焼土粒、明褐色粘土粒を多量に含む。締まり強い。
- 1' 明褐色土 明褐色粘土塊を多量に含む。
- 2 焼土粒・明褐色粘土粒混合層
- 3 灰白色土 灰層。
- 4 暗褐色土 焼土粒を少量含む、締まり弱い。
- 5 焼土塊層 天井崩落。
- 6 黒褐色土 灰層。

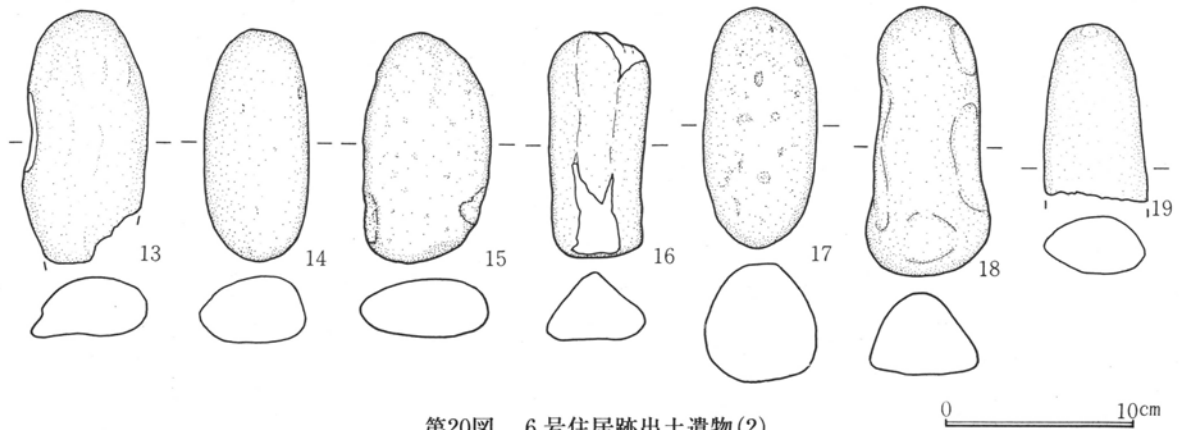
7 明橙色土 粘質土。

- 8 焼土壁
- 9 暗褐色土 明橙色粘土塊を含み、締まり弱い。
- 10 明橙色土 締まり強い。粘質土。
- 11 暗褐色土 明橙色粘質土塊を含み、締まり弱い。粘質土。
- 12 焼土塊 明橙色粘質土を含む。
- 13 褐色土 締まり強い。粘質土。
- 14 暗褐色土 締まり弱い。粘質土。



第19図 6号住居跡竈・出土遺物(1)

第3章 調査遺構と出土遺物



第20図 6号住居跡出土遺物(2)

6号住居跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
19図1	土師器 杯	小片	(10.0)・ —	掘形	口縁部上位横撫で。中位から底部篋削り。 内面横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
19図2	土師器 杯	1/4	(12.0)・ —	埋土	口縁部上位横撫で。中位から底部篋削り。 内面横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
19図3 P L 8	土師器 杯	完形	9.8・ 3.0	床直	口縁部上半横撫で、下半無調整。底部篋削り。 内面横撫で。	①良好②橙③細砂粒
19図4 P L 8	土師器 杯	完形	10.4・ 3.5	掘形	口縁部上位横撫で。中位から底部篋削り。 内面横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
19図5	土師器 杯	1/4	(11.0)・ —	床直	口唇部横撫で。口縁部から体部横方向篋削り。 内面横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
19図6 P L 8	土師器 甕	口~胴上	22.0・ —	床直	口縁部から頸部横撫で。胴部斜方向篋削り。 内面篋撫で。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒

6号住居跡石製品観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	長・幅 (cm) 厚・重 (g)	出土 位置	特徴・その他	石材
19図7 P L 9	石製錘	ほぼ完形	16.0・6.7 4.5・810.0	床直	棒状。河床礫。	変質安山岩
19図8 P L 9	石製錘	完形	15.1・6.4 4.1・600.0	床直	棒状。河床礫。	デイサイト
19図9 P L 9	石製錘	完形	14.9・6.5 5.1・730.0	床直	棒状。河床礫。	溶結凝灰岩
19図10 P L 9	石製錘	端部欠	15.3・7.0 5.3・755.0	床直	棒状。河床礫。端部欠損。	粗粒輝石安山岩
19図11 P L 9	石製錘	完形	13.4・7.3 2.1・320.9	床直	扁平。両側縁打ち欠く。河床礫。	粗粒輝石安山岩
19図12 P L 9	石製錘	端部欠	(13.1)・6.9 4.4・705.0	床直	棒状。端部欠損。河床礫。	変質玄武岩
20図13 P L 9	石製錘	端部欠	(13.3)・6.7 3.2・399.2	床直	棒状。右側縁中央打ち欠く。河床礫。	粗粒輝石安山岩
20図14 P L 9	石製錘	完形	12.3・5.6 3.5・442.3	床直	棒状。河床礫。	粗粒輝石安山岩
20図15 P L 9	石製錘	完形	12.3・6.8 3.1・337.5	床直	扁平。両側縁端部付近打ち欠く。河床礫。	粗粒輝石安山岩
20図16 P L 9	石製錘	ほぼ完形	12.0・5.3 3.6・381.9	床直	棒状。河床礫。	珪質頁岩
20図17 P L 9	石製錘	完形	12.2・6.0 6.2・685.0	床直	棒状。河床礫。	粗粒輝石安山岩
20図18 P L 9	石製錘	完形	14.3・6.6 6.2・600.0	床直	棒状。河床礫。	粗粒輝石安山岩
20図19 P L 9	石製錘	端部欠	(9.4)・5.3 3.0・198.4	埋土	棒状。端部一部表面剥離。河床礫。	粗粒輝石安山岩

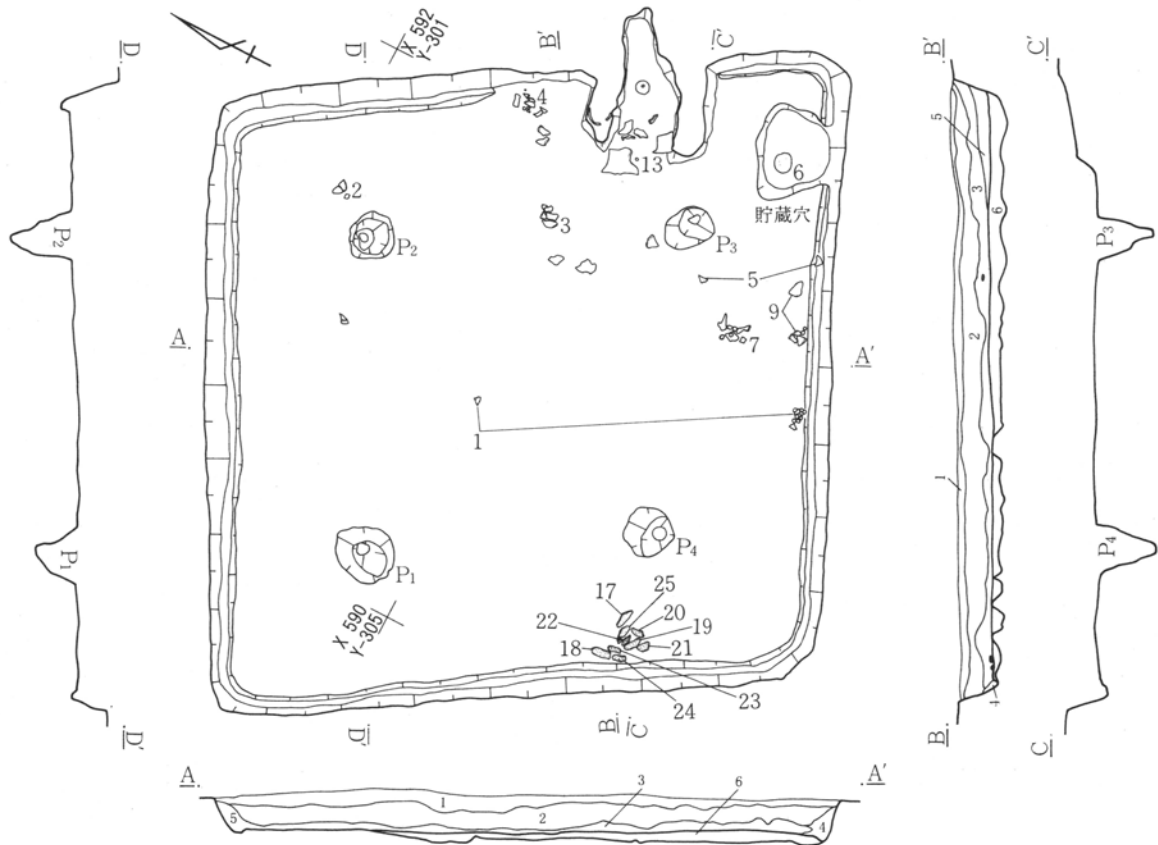
7号住居跡

本住居跡は調査区南西部に位置する。

平面形は等規模の方形を呈する。規模は各辺ともに4.95mで壁高は40cmを測り、床面積は22.18m²である。主軸方位は竈基軸N-60°-Eを示す。床面はほぼ平坦で4柱穴を結ぶ内側及び、竈前面は特に踏み締まりが強い。床面掘形埋土は黒褐色土で浅黄橙色砂質土を混合させる。

竈は東壁南側に寄って付設され、規模は袖部長さ80cm、焚き口幅は50cmである。燃烧部は住居内にあり、幅広い煙道部が壁外へ約45cm突出する。構築状態は袖部が住居内に大きく張り出す。両袖には芯材として土師器甕を倒置し、明褐色土、褐色土、暗褐色土の粘質土を互層に被覆する。貯蔵穴は南壁東側の竈右脇にあり南壁と接している。規模は径75×60cm・深25cmで形状は不整楕円形を呈する。柱穴は4穴検出され、底面には柱痕と考えられる痕跡がある。P1～P4の規模はP1上径40cm・柱痕径12cm・深35cm、P2上径32cm・柱痕径16cm・深48cm、P3上径30cm・柱痕径8cm・深45cm、P4上径40cm・柱痕径20cm・深50cmである。周溝は四壁下に巡り、規模は幅10cm前後である。

遺物は貯蔵穴内から土師器杯が出土している。南壁際に土師器杯類、焚き口に甕が出土し、西壁際に9個の編み物用石製錘が集中して出土している。本住居跡の時期は出土遺物より古墳時代後期から奈良時代と考えられる。

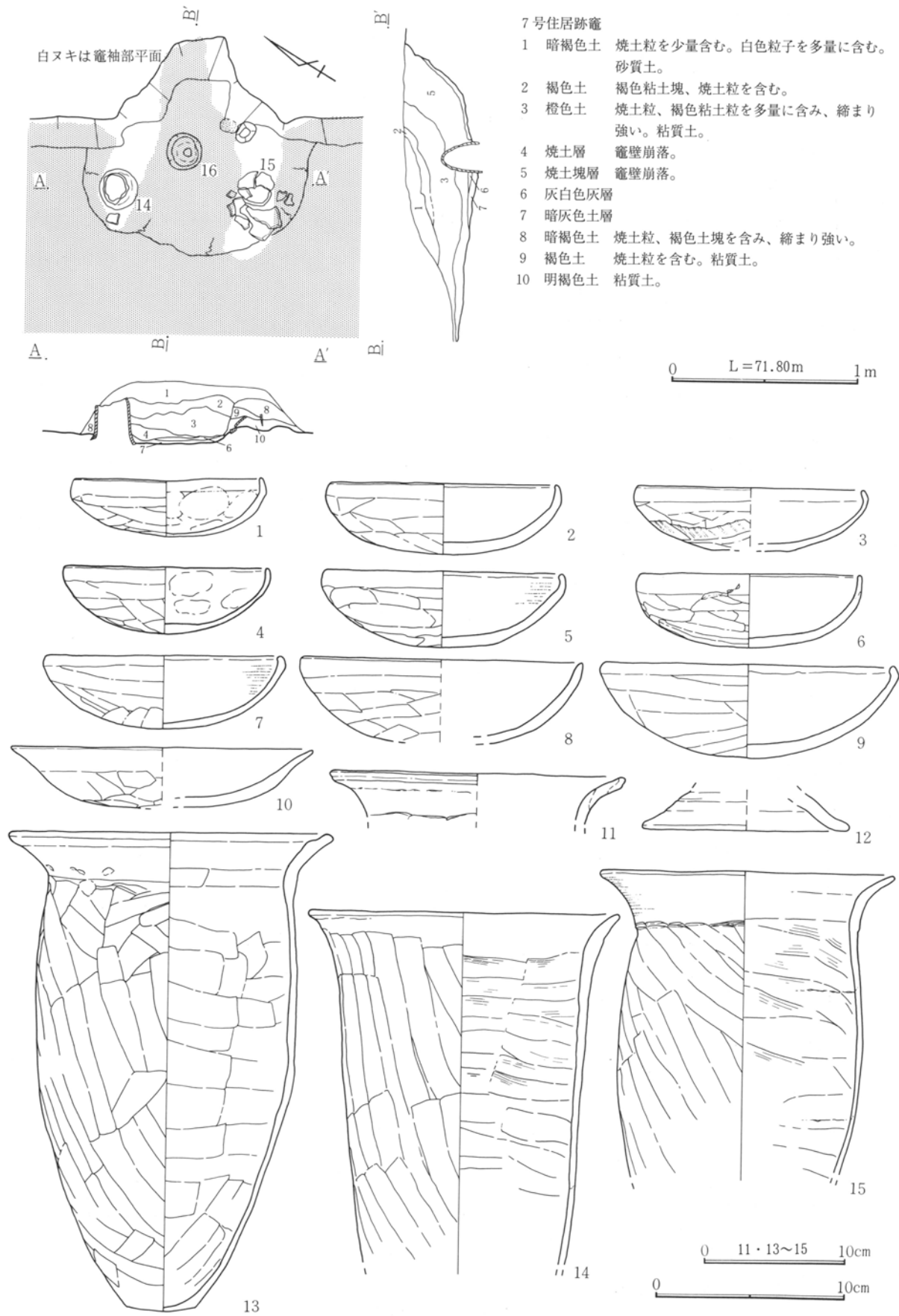


7号住居跡

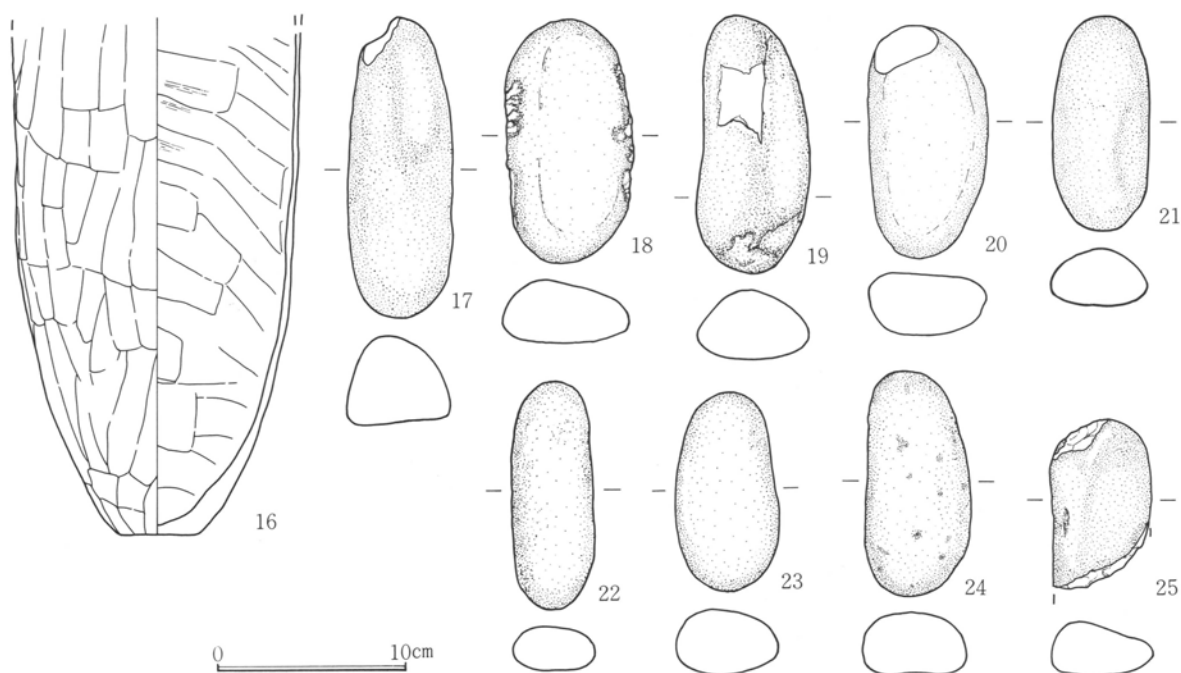
- 1 黒褐色土 白色粒子を少量含む。砂質土。
- 2 褐色土 白色粒子、焼土粒を多量に含み、締まり強い。
- 3 褐色土 白色粒子を少量含み、灰、焼土粒を多量に含む。
- 4 黒褐色土 灰白色砂質土を少量含む。
- 5 黒褐色土 灰白色砂質土を塊状に含む。
- 6 黒褐色土 浅黄色砂質土を少量含む。

0 L=71.80m 2m

第21図 7号住居跡



第22図 7号住居跡竈・出土遺物(1)



第23図 7号住居跡出土遺物(2)

7号住居跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
22図1 P L 9	土師器 杯	完形	9.8・ 3.0	床直	口縁部横撫で。底部にかけて篋削り。 内面横撫で。指頭痕あり。	①良好②橙③細砂粒
22図2 P L 9	土師器 杯	1/2	12.0・ 3.8	床直	口縁部上半横撫で、下半から底部は篋削り。 内面横撫で。	①良好②橙③細砂粒
22図3 P L 9	土師器 杯	1/3	(12.0)・ -	床直	口縁部上半横撫で、下半から底部は篋削り。 内面横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
22図4 P L 10	土師器 杯	ほぼ完形	11.1・ 3.6	床直	口縁部横撫で。底部にかけて篋削り。 内面撫で、指頭痕あり。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
22図5 P L 10	土師器 杯	2/3	13.0・ 4.0	床直 掘形	口縁部横撫で。底部にかけて篋削り。 内面上半横撫で、底部丁寧な撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
22図6 P L 10	土師器 杯	完形	11.7・ 3.9	掘形	口縁部横撫で、紐作り痕あり。底部にかけて篋削り。 内面横撫で。	①良好②明赤褐 ③細砂粒
22図7 P L 10	土師器 杯	2/3	12.6・ 3.9	床直	口縁部上半横撫で、下半から底部は篋削り。 内面横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
22図8	土師器 杯	小片	(15.0)・ -	埋土	口縁部横撫で。底部にかけて篋削り。 内面撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
22図9 P L 10	土師器 杯	3/4	13.4・ 4.9	床直	口縁部横撫で。底部にかけて篋削り。 内面上半横撫で。底部撫で。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
22図10	土師器 杯	小片	(16.0)・ -	埋土	口縁部横撫で。底部にかけて篋削り。 内面上半横撫で。底部撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
22図11	土師器 甕	口縁小片	(21.0)・ -	埋土	口縁部外反。口縁部～頸部にかけて横撫で。口縁中位 接合痕。内面横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
22図12	土師器 甕脚	小片	-・(11.0) -	埋土	外面横撫で。 内面撫で、脚端部横撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
22図13 P L 10	土師器 甕	ほぼ完形	23.0・ 33.7	甕使用 面埋土	口縁部横撫で。口縁部下半斜縦、胴部は下位から縦方 向篋削り。内面篋撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
22図14 P L 10	土師器 甕	口～胴中	22.3・ -	甕材	口縁部横撫で。口縁部下位より縦方向に篋削り。 内面篋撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
22図15 P L 10	土師器 甕	口縁～胴 下半	21.0・ -	甕材	口縁部外反し、横撫で。胴部は下位から斜め縦方向篋 削り。内面篋撫で、接合痕。	①良好②橙③細砂粒
23図16 P L 10	土師器 甕	胴中～底	-・ 4.0	甕材	胴部下位から縦方向に篋削り。 内面撫で。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒

第3章 調査遺構と出土遺物

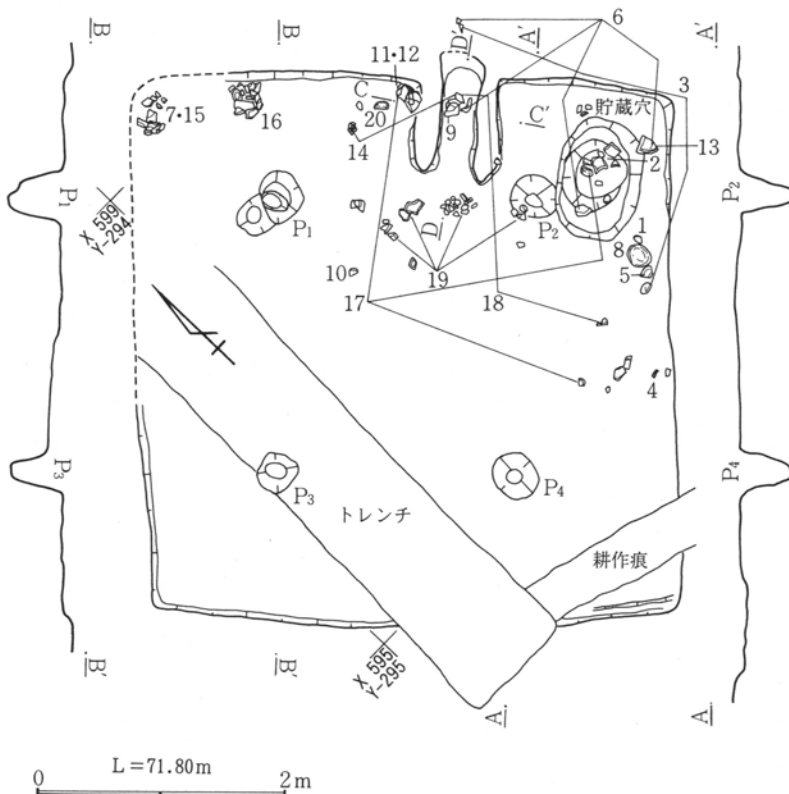
7号住居跡石製品観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	長・幅 (cm) 厚・重 (g)	出土 位置	特徴・その他	石材
23図17 P L 10	石製錘	ほぼ完形	15.8 · 5.6 4.1 · 572.4	床直	棒状。河床礫。	粗粒輝石安山岩
23図18 P L 10	石製錘	完形	12.7 · 6.9 3.3 · 431.6	床直	棒状。両側縁二箇所ずつ打ち欠き。河床礫。	粗粒輝石安山岩
23図19 P L 10	石製錘	完形	13.5 · 6.1 3.7 · 372.2	床直	棒状。河床礫。	輝緑岩
23図20 P L 10	石製錘	ほぼ完形	12.3 · 6.3 3.2 · 394.7	床直	棒状。端部欠損。河床礫。	黑色頁岩
23図21 P L 10	石製錘	完形	11.3 · 5.0 2.9 · 275.3	床直	棒状。河床礫。	粗粒輝石安山岩
23図22 P L 10	石製錘	完形	12.1 · 4.3 2.3 · 227.3	床直	棒状。河床礫。	粗粒輝石安山岩
23図23 P L 10	石製錘	完形	10.5 · 5.5 3.5 · 317.7	床直	棒状。河床礫。	石英閃緑岩
23図24 P L 10	石製錘	完形	12.0 · 5.6 3.4 · 344.7	床直	棒状。河床礫。	粗粒輝石安山岩
23図25 P L 10	石製錘	端部欠	(8.3) · 5.4 2.7 · 204.1	床直	棒状。両端部欠損。河床礫。	粗粒輝石安山岩

9号住居跡

本住居跡は調査区中央部東側に位置する。北部隅は削平により、中央部西側は南西壁から北西壁にかけての幅約80cmの試掘トレンチにより消失している。他の遺構跡との重複関係は南部隅で現代耕作痕と重複する。

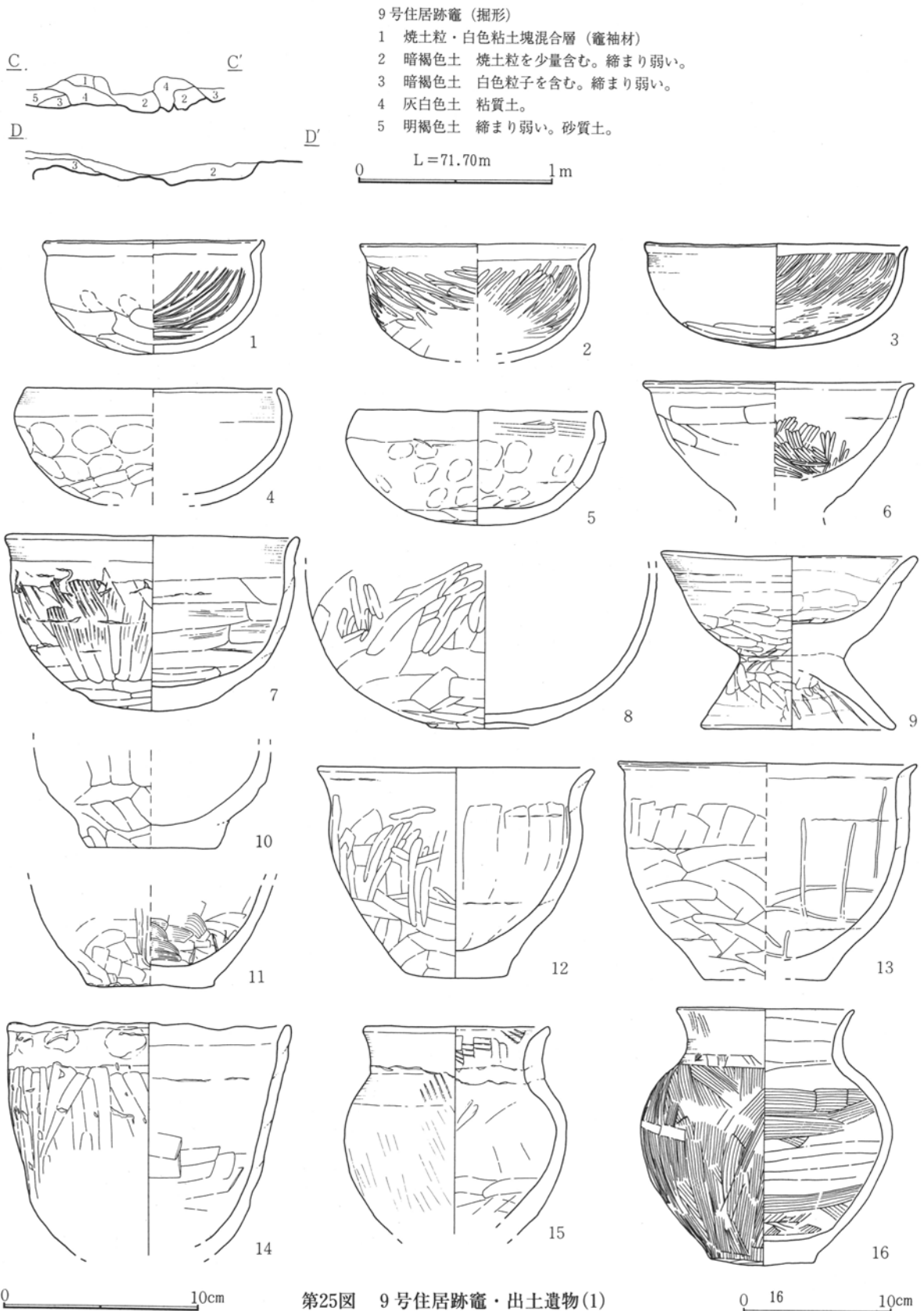
平面形はほぼ等規模な方形を呈する。規模は長軸4.35m・短軸4.25mを測り、床面積は17.35㎡である。壁高は痕跡を残す程度である。主軸方位は竈基軸N-55°-Eを示す。床面は4柱穴内側を結ぶ内側はやや硬く締まるが、柱穴外側は内側に比べ締まりが弱い。床土は灰黄褐色砂質土を混合する黒褐色土であり不整合な層をなしている。床面掘形埋土は赤褐色砂質土塊を混合する灰黄色砂質土である。



竈は東壁やや南側に寄って付設され、規模は袖部長さ約85cm、焚き口幅は30cmを測る。燃烧部は住居内にあり、土師器甕を支脚とした痕跡がある。煙道部は僅かに壁外に突出する。構築状態は袖部が住居内に大きく張り出し、袖材は白色粘土に焼土粒を混合して被覆する。貯蔵穴は東壁南側の竈右脇にある。規模は径95×65cm・深30cmで形状は楕円形を呈する。柱穴は4穴検出され、底面には柱痕と考えられる痕跡がある。P1～P4の規模はP1上径42cm・柱痕径10cm・深45cm、P2上径32cm・柱痕径12cm・深45cm、P3上径26cm・柱痕径12cm・深43cm、P4上径40cm・柱痕径14cm・深43cmである。周溝は存在しないようである。

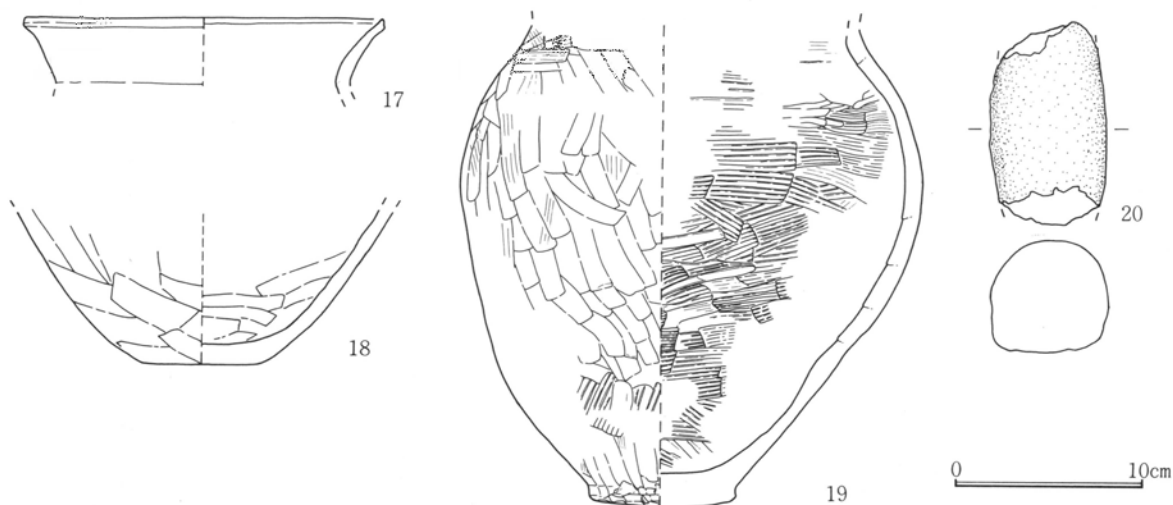
第24図 9号住居跡

遺物は竈周辺及び北東壁際床面から土師器小型甕・鉢などが出土し、貯蔵穴内から土師器高杯・椀などが出土している。本住居跡の時期は出土遺物により古墳時代中期と考えられる。



第25図 9号住居跡竈・出土遺物(1)

第3章 調査遺構と出土遺物



第26図 9号住居跡出土遺物(2)

9号住居跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
25図1	土師器 椀	1/4	(11.0)・ 5.7	埋土 竈埋土	口縁部下半まで横撫で。胴部上面撫で、底部にかけて 篋削り。内面口縁下に強い稜。斜方向に篋磨き。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
25図2	土師器 椀	小片	(12.0)・ —	貯蔵穴	口縁部横撫で。胴部斜め方向に篋磨き。底部篋削り。 内面口縁下に稜をもつ。斜方向に篋磨き。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
25図3 P L 12	土師器 椀	ほぼ完形	13.3・ 5.3	床直	口縁部下位まで横撫で、底部まで撫で。 内面口縁下に弱い稜。胴部斜方向に篋磨き。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
25図4 P L 12	土師器 椀	1/4	(13.0)・ —	埋土 床直	口縁部内湾、横撫で。胴部指頭痕、底部篋削り。内面 横撫で。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
25図5 P L 12	土師器 椀	ほぼ完形	12.0・ 5.8	床直	口縁部横撫で、胴部下位まで指頭痕。篋撫で。 内面粗い篋撫で、指頭痕あり。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
25図6 P L 12	土師器 高杯	杯部のみ	13.6・ —	竈埋土 貯蔵穴	口縁部外反し、下位部まで横撫で。胴部撫で。内面下 位部篋磨き。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
25図7 P L 12	土師器 鉢	2/3	(14.9)・ 8.9	掘形	口縁部下位まで横撫で、胴部刷毛状工具による撫で。 底部篋削り。紐作り痕。内面刷毛状工具による撫で。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
25図8 P L 12	土師器 壺	口縁部欠 損	—・ 4.9	床直	一部赤色塗彩? 胴部篋削り後撫で。 内面表面剥離により不明。	①良好②赤褐 ③細砂粒
25図9 P L 12	土師器 高杯	ほぼ完形	12.9・ 9.0	竈使 用面	脚部貼付。口縁部下位にかけて横撫で。内面横撫で、 底部撫で。脚部横撫で、内面篋削り後横撫で。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
25図10	土師器 小型甕	小片	—・(6.4)	床直	胴部下位から底面篋削り。 内面撫で。	①良好②褐③細砂粒
25図11 P L 12	土師器 小型甕	胴下半~ 底	—・ 6.2	竈埋土	胴部下位篋撫で、底部めくれ。底面無調整。 内面篋削り後撫で。	①良好②明褐 ③細砂粒
25図12 P L 12	土師器 小型甕	1/2	(14.0)・ 10.6	竈埋土	口縁部下位まで横撫で。胴部篋撫で。 内面縦方向に篋撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
25図13 P L 12	土師器 小型甕	口~底 1/4	(15.0)・ 11.0	床直	口縁部下位まで横撫で。胴部篋削り。 内面横撫で後磨き。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
25図14 P L 12	土師器 鉢	口~胴下 半	14.3・ —	床直	口縁部横撫で、指頭痕あり。胴部縦方向に篋撫で。 内面胴部撫で。	①良好②褐③粗砂粒
25図15 P L 12	土師器 小型甕	口~胴中	9.5・ —	掘形	口縁部篋削り後横撫で。胴部篋削り後篋撫で、下位部 摩滅激しい。内面篋削り後撫で。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
25図16 P L 12	土師器 甕	口縁部欠 損	(12.0)・ 17.2	床直 掘形	口縁部刷毛目後横撫で。胴部刷毛目。底部篋削り。 内面刷毛目後撫で。底部撫で。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
26図17	土師器 甕	口縁のみ	(19.0)・ —	竈埋土 貯蔵穴	口縁部横撫で。強い稜。 内面横撫で。	①良好②褐③細砂粒
26図18 P L 12	土師器 甕	胴下半~ 底	—・ 6.4	竈埋土	胴部から底部にかけて篋削り。 内面篋撫で。	①良好②褐③細砂粒
26図19 P L 12	土師器 甕	頸~底	—・ 7.8	竈使 用面	胴部中位篋削り後撫で。下位部から底部にかけて篋削 り。内面刷毛目。底部撫で。	①良好②赤褐 ③細砂粒

9号住居跡石製品観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	長・幅 (cm) 厚・重 (g)	出土 位置	特徴・その他	石材
26図20 P L 12	石製錘?	端部欠	(10.7)・ 6.2 6.0・565.4	床直	棒状。河床礫。	粗粒輝石安山岩

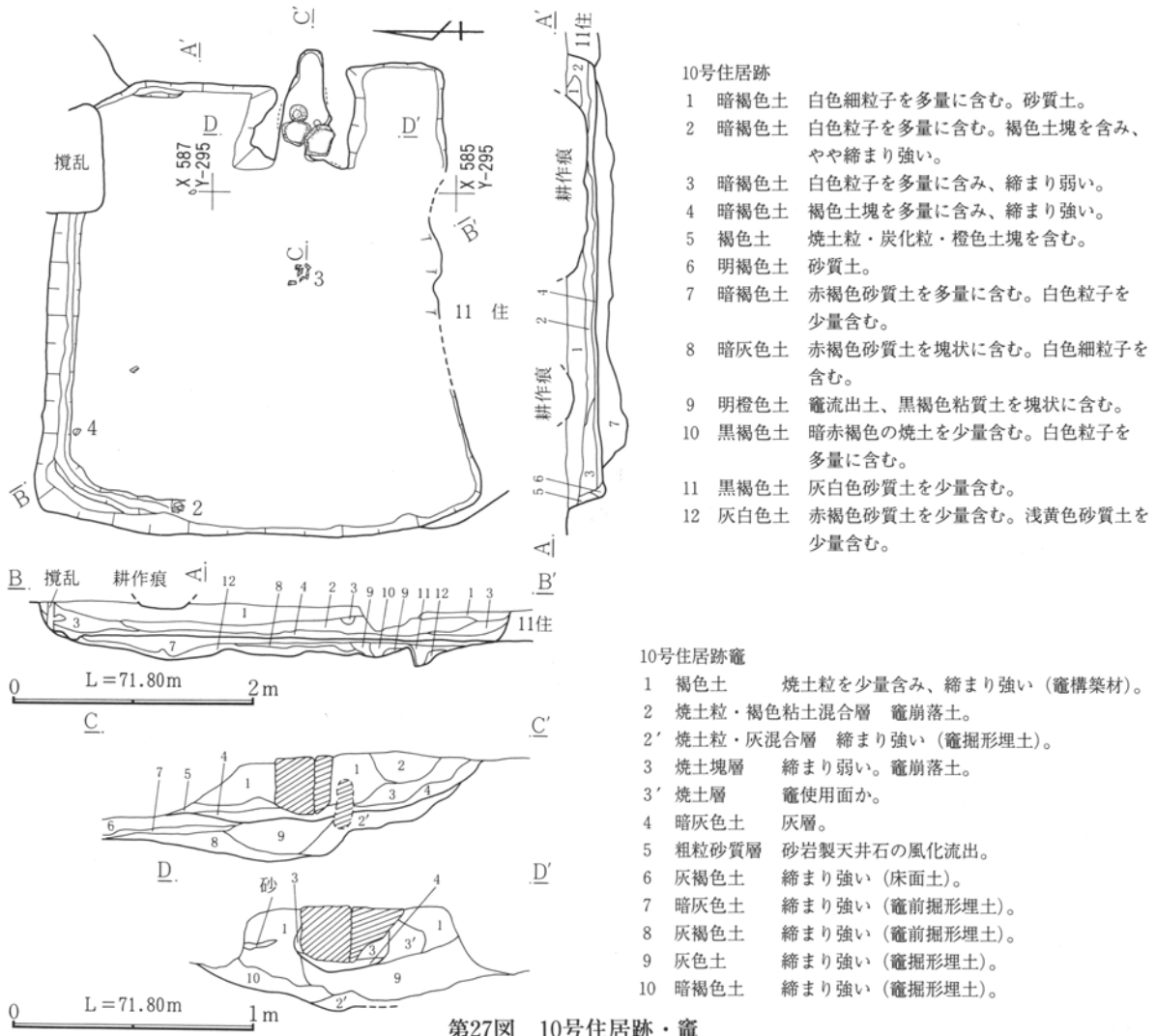
10号住居跡

本住居跡は調査区南端に位置する。他の遺構跡との重複関係は東南部で11号住居跡と重複する。新旧関係は本住居跡がこれより新しい。北東部隅が攪乱により消失している。

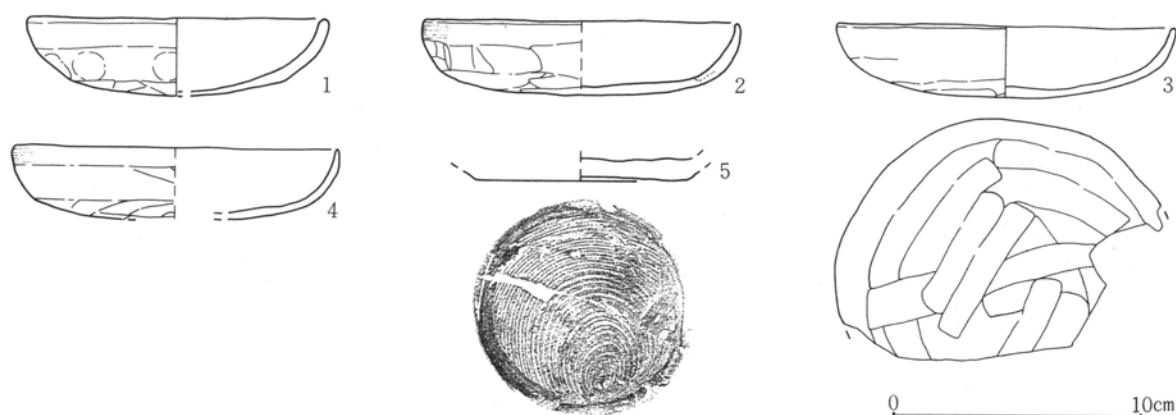
平面形は南壁線が不明確であるが方形を呈すると考えられる。規模は長軸3.65m・短軸3.2m・壁高25cmを測り、床面積は10.88㎡である。主軸方位は竈基軸N-90°-Eを示す。床面は全体的に踏み締まりが良好であり、竈前面は特に硬く締まる。床土は暗褐色土で褐色土塊を多く混合する。床面掘形埋土は暗褐色土で、赤褐色砂質土を多量に含む。

竈は東壁やや南側に寄って付設され、規模は袖部長さ60cm、焚き口部40cmである。燃烧部は住居内にあり、長さ20cmの円柱形の川原石を支脚としている。煙道は幅が広く約25cm壁外へ突出する。構築状態は袖材に褐色粘質土に焼土粒を混合して用いる。焚き口部と燃烧部を画する位置に天井材に使用したと思われる直方体の凝灰岩質加工材が燃烧部に落下した状態が残る。竈掘形埋土は灰色土・暗褐色土を敷き、燃烧部には灰・焼土粒の混合土を充填する。周溝は北壁下から西壁下にかけて巡り、幅10cm前後・深5cmである。貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。

遺物は中央部床面から土師器杯類が数点出土している。本住居跡の時期は出土遺物より古墳時代後期から奈良時代と考えられる。



第3章 調査遺構と出土遺物



第28図 10号住居跡出土遺物

10号住居跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
28図1	土師器 杯	1/3	(12.1)・ 3.0	竈埋土	口縁部下位まで横撫で。胴部指頭痕。底部篋削り。 内面撫で。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
28図2 P L 11	土師器 杯	1/4	(12.4)・ 2.9	竈埋土 床直	口縁部横撫で。胴部弱い篋削り。底部篋削り。 内面底部丁寧な撫で。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
28図3 P L 11	土師器 杯	1/2	(13.4)・ 2.9	埋土 床直	口縁部下位まで横撫で。底部篋削り。 内面底部撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
28図4	土師器 杯	小片	(13.0)・ -	床直	口縁部下位まで横撫で。胴部篋削り後撫で。底部篋削り。 内面底部撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
28図5	須恵器 杯	底部のみ	-・ 8.2	埋土	底部轆轤整形、左回転糸切り後、周辺篋削り。 内面轆轤整形。	①酸化焰、外面燻 ②褐灰③細砂粒

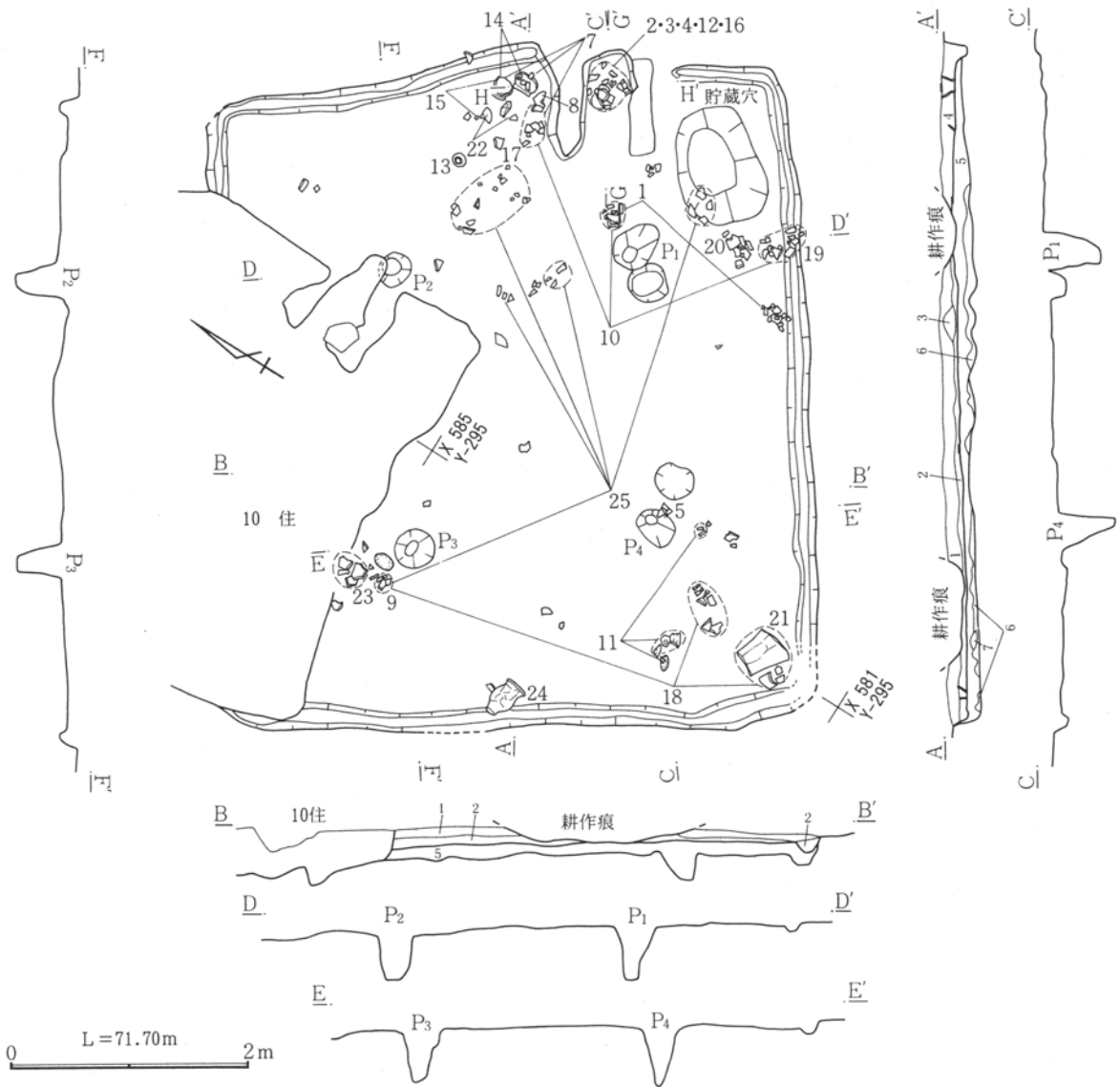
11号住居跡

本住居跡は調査区南端に位置する。他の遺構跡との重複関係は北西部で10号住居跡と重複する。新旧関係は本住居跡がこれより古い。北壁は10号住居跡との重複で1/4が消失している。住居跡埋土中に現代耕作痕が南東から北西にかけて三条あり、これにより北部隅の壁一部と竈右側袖部が消失している。

平面形は北東-南西方向に長軸をもつ方形を呈する。規模は長軸5.5m・短軸4.85m・壁高10cmをはかり、床面積は25.72㎡である。主軸方位はN-59°-Eを示す。床面は竈前面から4柱穴内側は踏み締まりが良好で安定している。床土は暗褐色土で、締まりの強い褐色土塊を混合する。床面掘形埋土は赤褐色砂質土を少量含む暗褐色土である。

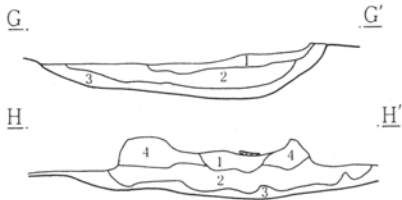
竈は東壁南側に寄って付設され、掘形は浅く残存状態は不良である。規模は袖部長さ100cm、焚き口幅40cmである。煙道部は削平のためか検出されなかった。燃焼部は住居内にある。竈右前方に竈袖材の被熱白色粘土が床直上に分布する。構築状態は袖部が住居内に大きく張り出し、袖材に白色粘土を用いてこれを被覆する。貯蔵穴は東壁南隅の竈右脇にあり、規模は径97×70cm・深52cmで形状は楕円形を呈する。柱穴は4穴検出され、底面には柱痕と考えられる痕跡がある。P1～P4の規模はP1上径36cm・柱痕径14cm・深45cm、P2上径30cm・柱痕径12cm・深36cm、P3上径30cm・柱痕径12cm・深42cm、P4上径34cm・柱痕径8cm・深48cmである。周溝は四壁下に巡り、規模は幅10cm・深5cmである。

遺物は竈燃焼部よりほぼ完形の土師器高杯が出土し、竈周辺の床面からも土師器甕・鉢・甗・杯・高杯など多くの遺物が出土している。また南西隅から完形の甗が出土している。本住居跡の時期は出土遺物より古墳時代中期と考えられる。



11号住居跡

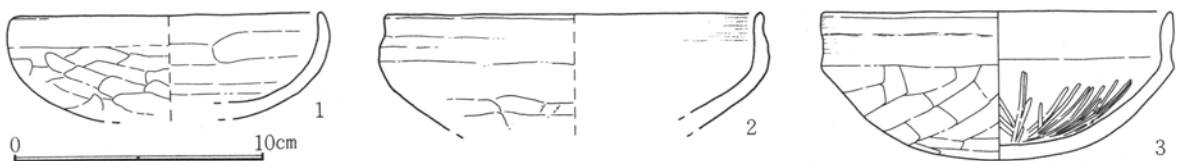
- 1 暗褐色土 白色粒子を多量に含む。褐色土塊含み、締まり強い。
- 2 暗褐色土 褐色土塊を含み、締まり強い。
- 3 褐色土 褐色土塊。粘質性強い。
- 4 暗褐色土 明橙色粘質土小塊を多量に含み、粘質性強い（竈流出土）。
- 5 暗褐色土 赤褐色砂質土、白色粒子を少量含む。
- 6 褐灰色土 赤褐色砂質土、灰白色砂質土を少量含む。
- 7 浅黄色土 粘質性強い。



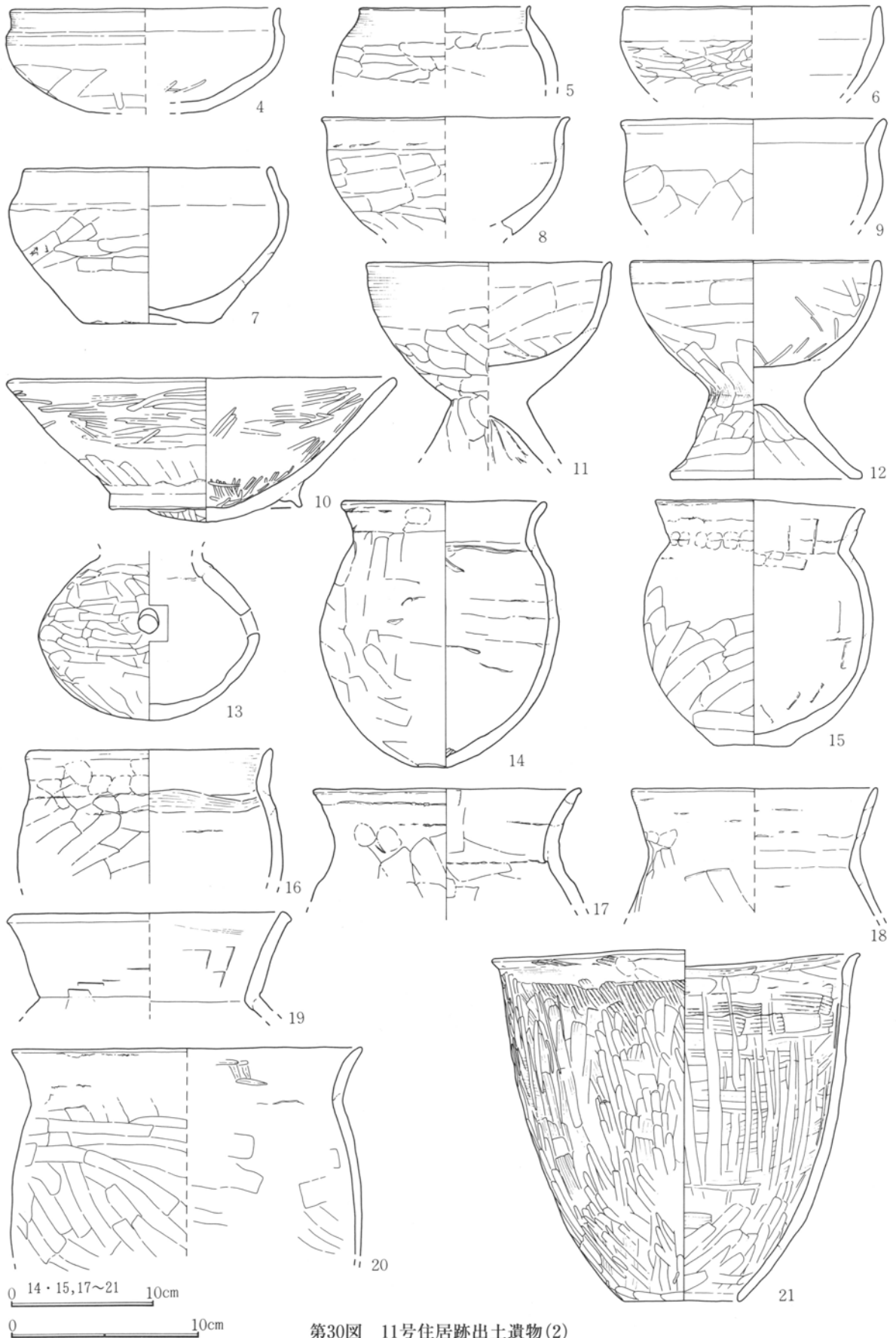
11号住居跡竈

- 1 灰白色粘土・焼土粒混合層 竈崩落土。
- 2 暗灰色土 白色粒子を多量に含み、締まり強い。砂質土。
- 3 暗褐色土 白色粒子を含む。
- 4 灰白色土 粘質土（竈袖材）。

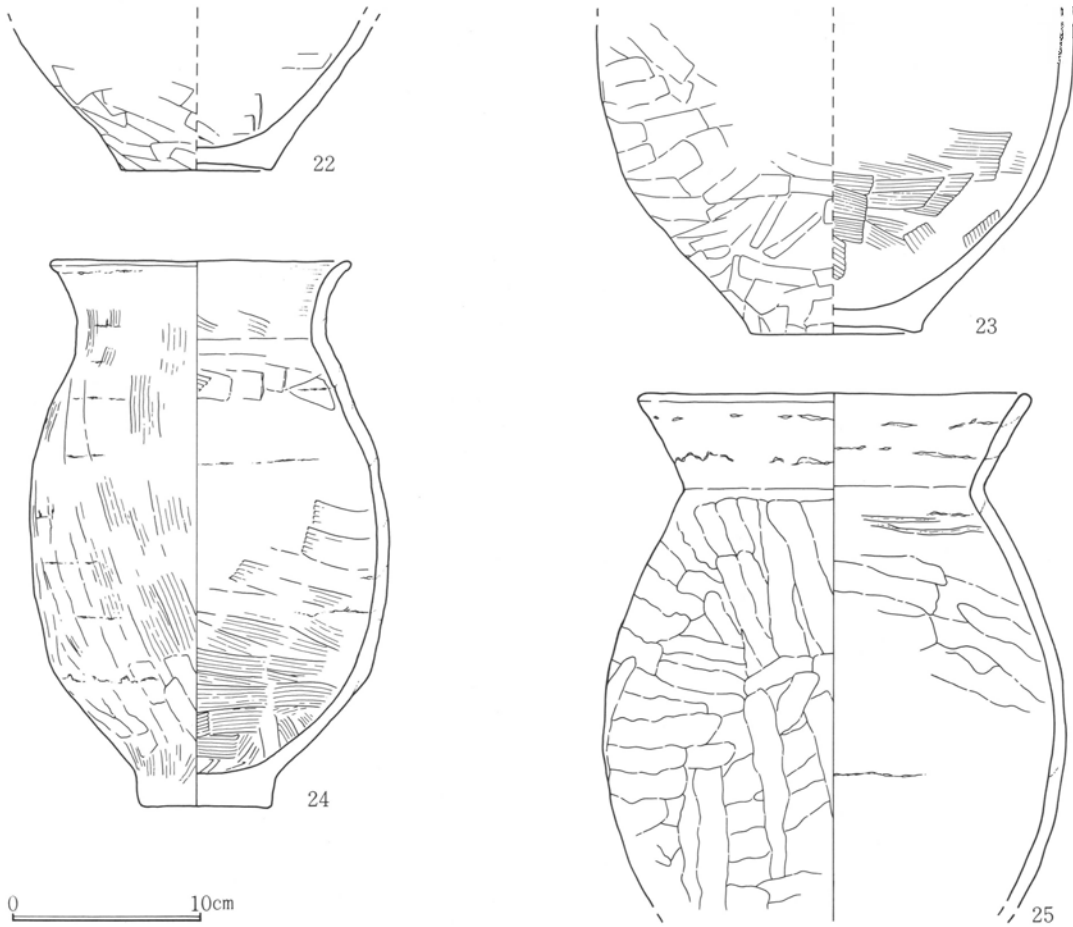
L=71.70m 1m



第29図 11号住居跡・竈・出土遺物(1)



第30図 11号住居跡出土遺物(2)



第31図 11号住居跡出土遺物(3)

11号住居跡遺物観察表

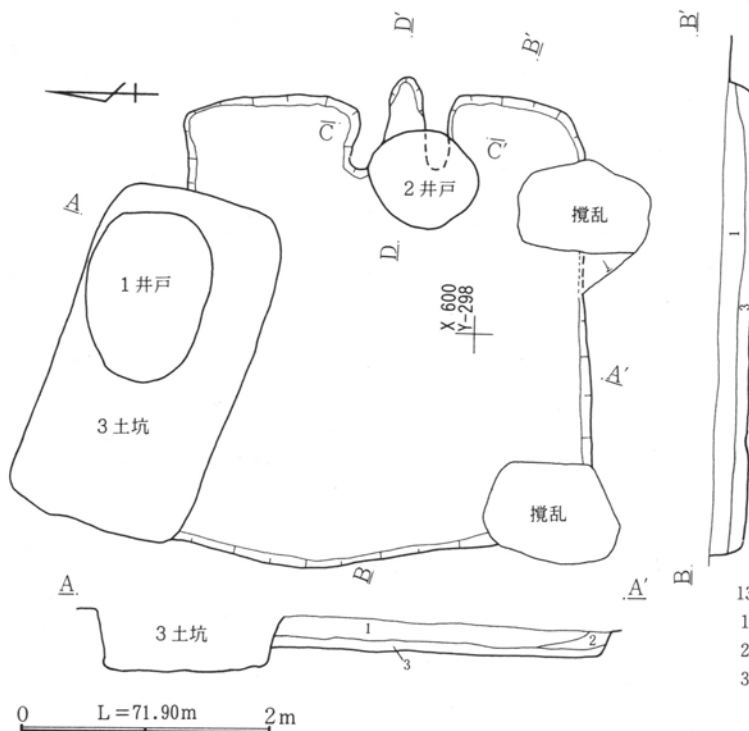
挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
29図1	土師器 杯	小片	(5.8)・ —	埋土	口縁部横撫で。体部篋削り。 内面横撫で。	①良好②赤③細砂粒
29図2	土師器 杯	1/4	(15.0)・ —	竈使 用面	口縁部横撫で。体部弱い篋撫で。下位から底部にかけ て篋削り。内面撫で。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
29図3 P L 13	土師器 杯	1/2	(14.0)・ 5.8	竈使 用面	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部横撫で。体部篋削り。 内面放射状の篋磨き。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
30図4 P L 13	土師器 杯	1/4	(14.2)・ —	竈使 用面	口縁部横撫で。体部から底部にかけて篋削り。 内面底部篋磨き。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
30図5	土師器 小型甕	小片	(9.2)・ —	埋土	口縁部横撫で。胴部篋削り。 内面撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
30図6	土師器 杯	小片	(13.3)・ —	埋土 竈埋土	口縁部横撫で。体部篋削り。 内面口縁下位部まで横撫で。体部撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
30図7 P L 13	土師器 鉢	2/3	(13.2)・ 8.2	埋土	口縁部横撫で。胴部篋削り。 内面胴部撫で。	①良好②橙③細砂粒
30図8 P L 13	土師器 台付椀	椀部 1/4	(13.0)・ —	埋土	口縁部横撫で。体部篋削り。 内面体部撫で。	①良好②赤褐 ③細砂粒
30図9 P L 13	土師器 小型甕	口～胴中	14.0・ —	床直	口縁部横撫で。胴部篋削り。 内面胴部撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
30図10 P L 13	土師器 ?	口～底 2/3	20.5・(10.2) 7.6	埋土	口縁部横撫で。接合痕あり。体部篋磨き、下位部篋削り り。高台貼付。内面撫で後篋磨き。	①良好②暗赤褐 ③細砂粒
30図11 P L 14	土師器 高杯	2/3	(13.0)・ —	埋土	口縁下位部まで横撫で。底部にかけて篋削り。 内面撫で。脚部内面指撫で後篋撫で。脚部貼付。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
30図12 P L 14	土師器 高杯	ほぼ完形	13.2・ 11.5	埋土竈 使用面	口縁下位部まで横撫で。底部にかけて篋削り。 内面撫で。脚部内面指撫で後篋撫で。脚部貼付。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒

第3章 調査遺構と出土遺物

30図13 P L 14	土師器 甕	口縁欠損	胴径11.6 -	床直	胴部篋削り後磨き。注口1孔あり。 内面に接合痕。	①良好②明赤褐 ③細砂粒
30図14 P L 14	土師器 甕	口～底 4/5	14.5 · - 18.6	床直	口縁部横撫で。口縁部下位から胴部にかけて縦方向に 撫で。胴部篋削り。内面横撫で。	①良好②橙③細砂粒
30図15 P L 14	土師器 甕	口～底 1/2	14.8 · 5.2 17.1	床直	口縁部横撫で、中位部に接合痕、下位部に指頭痕。胴 部上位撫で。底部にかけて篋削り。内面篋撫で。	①良好②橙③細砂粒
30図16 P L 14	土師器 小型甕	口～胴中	13.0 · - -	竈使 用面	口縁部横撫で、下位部に指頭痕。胴部篋削り。 内面撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
30図17	土師器 甕	口縁小片	(18.8) · - -	埋土	口縁部横撫で。中位、下位部に接合痕。胴部下位から 斜め縦方向篋削り。内面撫で。	①良好②明赤褐 ③細砂粒
30図18 P L 14	土師器 甕	口～胴上	17.2 · - -	埋土 床直	口縁部横撫で。中位、下位部に接合痕。胴部縦方向に 篋削り。内面撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
30図19	土師器 甕	口縁のみ	(19.8) · - -	床直	口縁部撫で。下位部接合痕。 内面口縁部横撫で。	①良好②橙③細砂粒
30図20	土師器 甕	口～胴部 片	(24.6) · - -	埋土	口唇部部分的返しあり。口縁部横撫で、接合痕あり。 内面横撫で。	①良好②明赤褐 ③細砂粒
30図21 P L 14	土師器 甕	ほぼ完形	25.8 · 8.0 24.7	床直	口縁部横撫で、下位部接合痕。胴部から底部にかけて 篋削り後撫で、篋磨き。内面篋撫で後磨き。	①良好②橙③細砂粒
31図22 P L 14	土師器 甕	胴下半～ 底	- · 8.0 -	埋土 床直	胴部から底部にかけて篋削り。 内面撫で。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
31図23 P L 14	土師器 甕	胴下半～ 底	- · 9.0 -	床直	胴部から底部にかけて篋削り。内面刷毛目。中位部に 接合痕。底部撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
31図24 P L 14	土師器 甕	完形	15.9 · 6.9 28.6	床直	口縁部横撫で、下位部は篋削り後横撫で。胴部篋削り。 接合痕あり。内面上位撫で下位にかけて刷毛目。	①良好②橙③細砂粒
31図25 P L 14	土師器 甕	口～胴下 半	20.9 · - -	床直	口縁部横撫で。接合痕あり。胴部強い篋撫で。 内面篋撫で。	①良好②明赤褐 ③細砂粒

13号住居跡

本住居跡は調査区中央部に位置する。他の遺構跡との重複関係は北部壁西側で3号土坑跡、1号井戸跡と重複し、東部竈西側で2号井戸跡、15号住居跡四壁内に重複する。新旧関係は3号土坑跡、1号井戸跡、2号井戸跡より旧く、15号住居跡より新しい。北部壁は3号土坑により大半を消失し、南東部壁及び南西部壁



の一部は攪乱によって消失している。平面形は西壁中央が緩く膨らむ東西に長軸をもつ方形を呈する。規模は長軸3.55m・短軸3.2m・壁高20cmを測り、床面積は10.55㎡である。主軸方位は竈基軸N-93°-Eを示す。床面はほぼ平坦であり、竈前面は硬く締まっているが他所は全体的に軟弱である。床土は灰白色土が縞状に入る暗褐色土である。床面掘形埋土

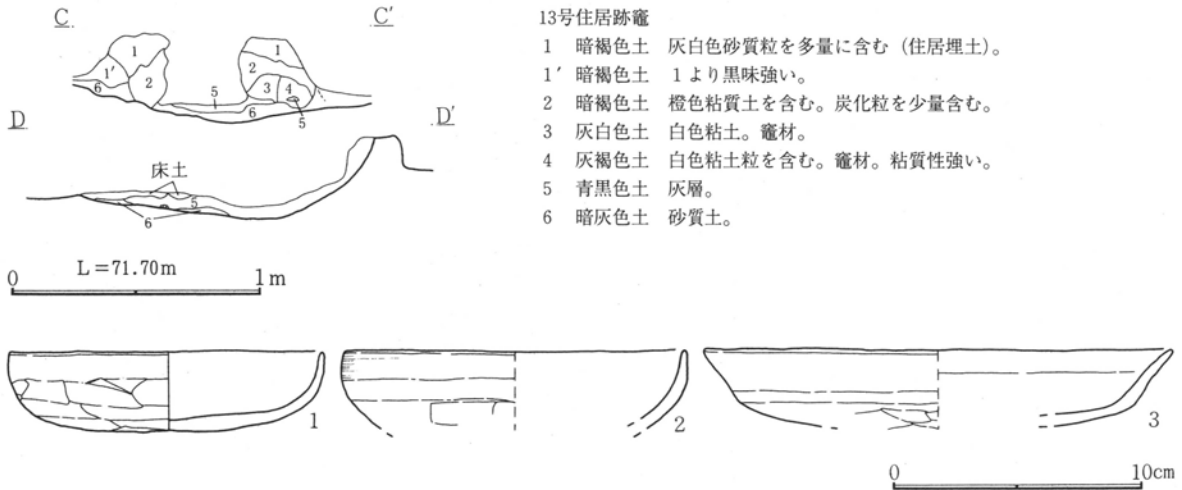
13号住居跡

- 1 明褐色土 白色粒子を多量に含む。砂質土。
- 2 黒褐色土 白色粒子を多量に含む。砂質土。
- 3 暗褐色土 白色粒子を含み、締まり強い。粘質土。

第32図 13号住居跡

は15号住居跡を埋めた灰褐色土を用いる。竈は東壁はほぼ中央に付設され、規模は袖部長さ70cm、焚き口幅40cmである。燃焼部は住居内にあり、煙道は壁線を僅かに突出する。構築状態は袖部が大きく張り出し、袖材には橙色・灰白色粘土を互層に用いてこれを被覆する。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物は住居跡及び竈埋土から土師器杯小片が数点出土している。1号井戸跡及び2号井戸跡からも同時期の土師器杯が出土しているが、本住居跡から流入した可能性が高い。本住居跡の時期は出土遺物より奈良時代と考えられる。



- 13号住居跡竈
- 1 暗褐色土 灰白色砂質粒を多量に含む（住居埋土）。
 - 1' 暗褐色土 1より黒味強い。
 - 2 暗褐色土 橙色粘質土を含む。炭化粒を少量含む。
 - 3 灰白色土 白色粘土。竈材。
 - 4 灰褐色土 白色粘土粒を含む。竈材。粘質性強い。
 - 5 青黒色土 灰層。
 - 6 暗灰色土 砂質土。

第33図 13号住居跡竈・出土遺物

13号住居跡遺物観察表

挿図番号 P L番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
33図1 P L15	土師器 杯	3/4	12.5・ 3.1	竈埋土	口縁部撫で。体部から底部にかけて匏削り。 内面丁寧な撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
33図2	土師器 杯	小片	(13.5)・ -	埋土	口縁部撫で。体部から底部にかけて匏削り。 内面撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
33図3	土師器 杯	小片	(18.6)・ -	竈埋土	口縁部外反し、口縁部下に弱い稜をもつ。底部にかけ て匏削り。内面撫で。	①良好②橙③細砂粒

15号住居跡

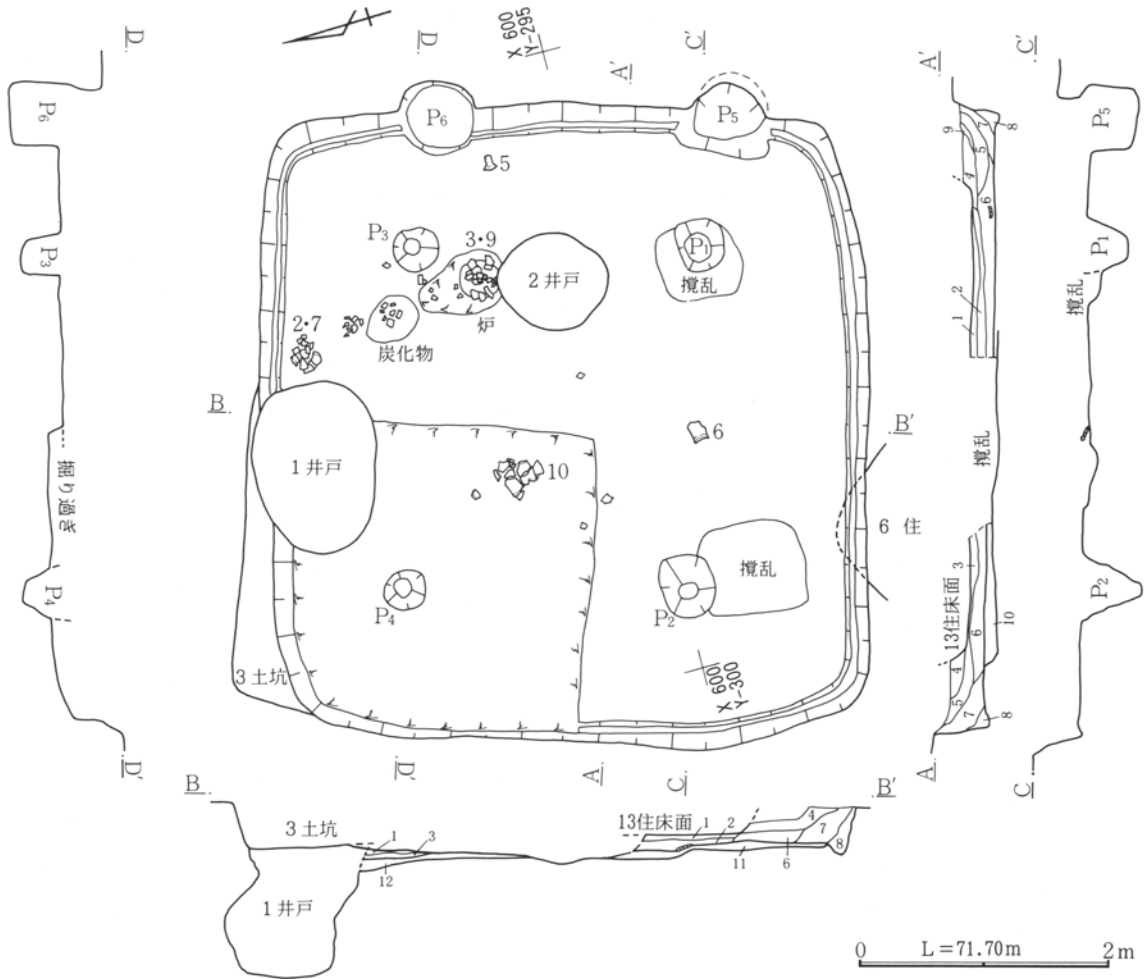
本住居跡は調査区中央部に位置する。他の遺構跡との重複関係は北部壁西側で3号土坑跡、1号井戸跡、南西隅部で6号住居跡と重複し、本住居跡四壁内に13号住居跡、中央部やや東側で2号井戸跡と重複する。新旧関係はこれらいずれの遺構跡よりも古い。

平面形は東西に長軸をもつ方形を呈する。規模は長軸5.0m・短軸4.8m・壁高40cmを測り、床面積は21.05㎡である。主軸方位は東壁基軸N-12°-Eを示す。床面は4柱穴内は僅かに踏み締まるが湿気が多く、周辺は軟弱で踏みしまりは弱い。床土は中央部に13号住居跡の床土である暗褐色土と掘形埋土の灰褐色土を用いる。北東部柱穴近くに炉があり、約5cmほど浅く窪み焼土・炭化物が回りに分散している。火床の被熱度が弱いためか不完全燃焼の木片が残存する。柱穴は4穴検出され、底面には柱痕と考えられる痕跡がある。P1～P4の規模はP1上径35cm・底径20cm・深30cm、P2上径54cm・柱痕径8cm・深46cm、P3上径33cm・底径30cm・深30cm、P4上径34cm・柱痕径16cm・深22cmである。東壁線上南北それぞれに円形のピットが2穴検出された。規模はP5径72×56cm・深64cm（検出面より）P6径64×58cm・深74cm（検出面より）特

第3章 調査遺構と出土遺物

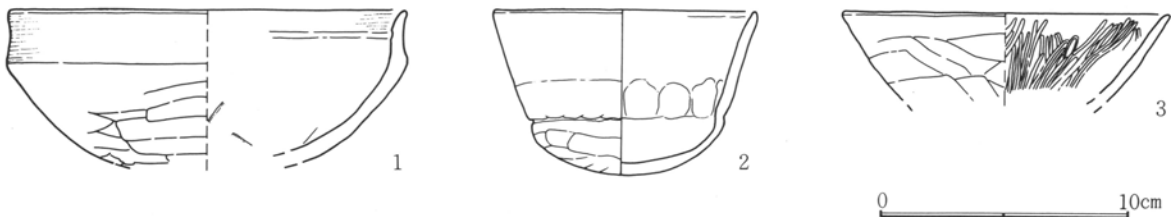
に出土遺物はないが、埋土は本住居跡と同等であり本住居跡に付設する施設の可能性がある。周溝は四壁下に巡り、規模は幅7～8cm・深3～4cmである。貯蔵穴は検出されなかった。

遺物は炉周辺より土師器埴、土師器台付甕、中央部からS字状口縁台付甕が出土している。本住居跡の時期は出土遺物より古墳時代前期と考えられる。

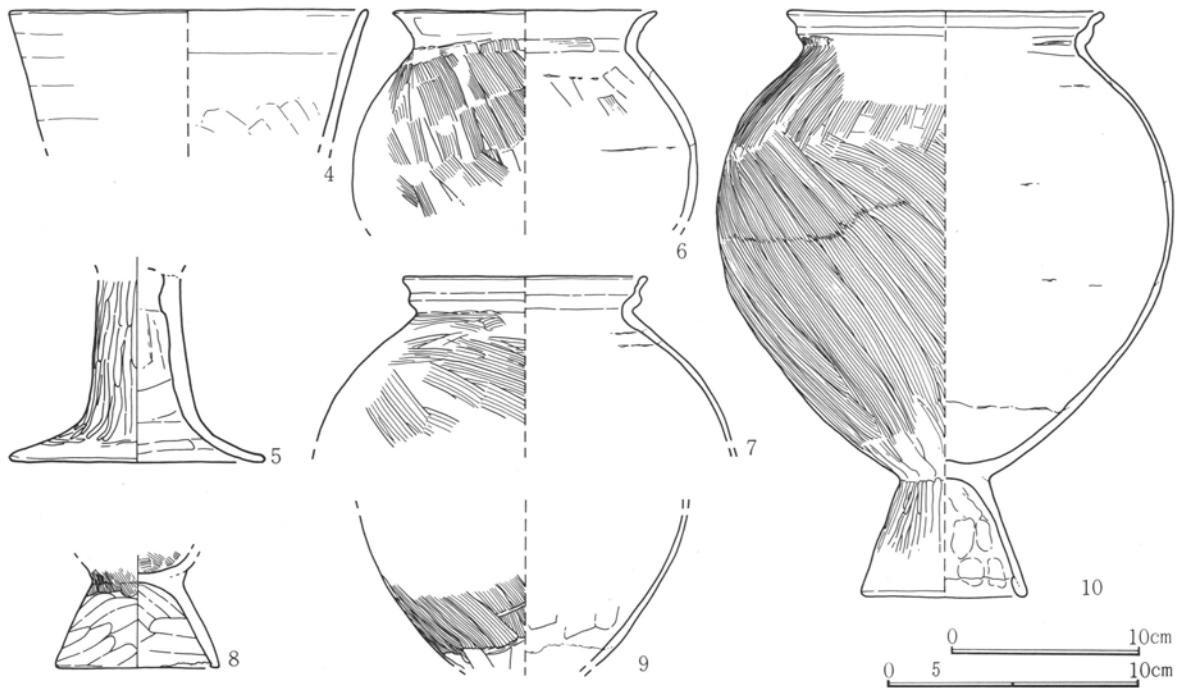


15号住居跡

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色土 褐色土・白色土縞状に入る (13号住の床土)。 | 7 暗褐色土 灰褐色砂質土を含む。締まり弱い。 |
| 2 暗褐色土 13号住床下埋土。 | 8 白色砂層 暗褐色土塊を含む。 |
| 3 灰褐色土 小礫を含む砂層。(13号住床下埋土)。 | 9 暗褐色土 灰褐色砂質土。 |
| 4 暗褐色土 灰褐色砂質土、小礫を含み、締まり弱い。 | 10 暗褐色土 灰白色砂質土の互層。 |
| 5 灰褐色土 暗褐色土、小礫混を含む。砂質土。 | 11 明橙色土 暗褐色土塊を含む砂層。 |
| 6 暗褐色土 灰褐色砂質土を含む。やや粘質性強い。 | 12 黒褐色土 粘質性強い。 |



第34図 15号住居跡・出土遺物(1)



第35図 15号住居跡出土遺物(2)

15号住居跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
34図1	土師器 杯	1/5	(15.8)・ —	埋土	口縁部横撫で。体部篋削り。 内面撫で。底部篋撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
34図2 P L 15	土師器 罎	完形	6.5・ 10.5	床直	口縁部から体部中位にかけて横撫で。底部境目窪み。 底部篋削り。内面篋撫で。指頭痕。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
34図3	土師器 罎	小片	(13.0)・ —	床直	口唇部横撫で。口縁部篋削り。 内面篋磨き。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
35図4	土師器 甑か？	口縁小片	(19.0)・ —	埋土	口縁部横撫で。 内面口唇部撫で。口縁部縦方向の撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
35図5 P L 15	土師器 高杯	脚部のみ	—・10.2 —	埋土	縦方向に篋磨き。脚袖横撫で。接合部から欠損。 内面脚部篋撫で。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
35図6 P L 15	土師器 甕	口～胴部 片	(14.0)・ —	床直	口縁部横撫で。胴部細かい刷毛目状工具の撫で。口縁 下部部に接合痕。	①良好②明褐 ③細砂粒
35図7 P L 15	土師器 台付甕	口～胴中 片	13.0・ —	床直	S字状口縁。口縁部横撫で。胴部横方向に刷毛目。 内面撫で。	①良好②灰褐 ③細砂粒
35図8 P L 15	土師器 台付甕	台部のみ	—・8.8 —	埋土	台部刷毛目後撫で。 内面撫で。	①良好②にぶい黄褐 ③細砂粒
35図9	土師器 台付甕	胴部片	—・ —	床直	胴部刷毛目。下部部篋削り。 内面撫で。	①良好②黒褐 ③細砂粒
35図10 P L 15	土師器 台付甕	口～底 1/3	(16.9)・(8.8) 30.8	床直	S字状口縁。口縁部横撫で。胴部篋削り後刷毛目計4 回。内面撫で。台部篋状工具磨き。台内指頭痕。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒

8・14号住居跡

竈穴住居跡として住居番号を付け調査したが、住居跡とは認められなかったため欠番とした。

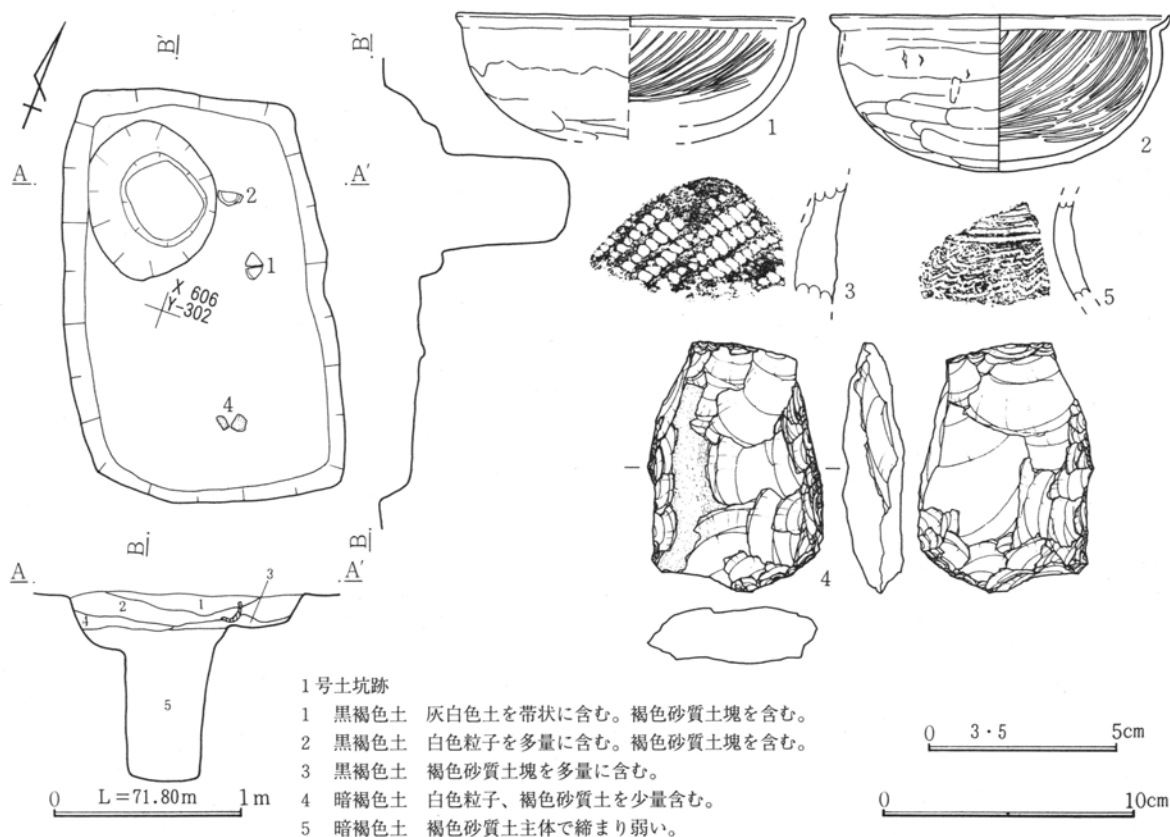
II. 土坑跡

1号土坑跡

本土坑跡は調査区北西部に位置する。

平面形は北側がやや狭まる長方形を呈する。規模は長軸2.18m・短軸1.38m・深22cmを測る。主軸方位はN-25°-Wを示す。埋土は白色粒子を多量に含む暗褐色砂質土を主とする。床面は軟弱であり、壁面は緩く立ち上がる。北側に2段落ち込む土坑跡があり、底面より10cm下に段をなし更に65cm下に段を成す。埋土から本土坑跡に伴うものと考えられる。

遺物は縄文土器、弥生土器の小片・加工痕のある石器(石鎌の再生品?)・内斜口縁椀2点が出土している。本土坑跡の時期は出土遺物から古墳時代中期と考えられる。



1号土坑跡

- 1 黒褐色土 灰白色土を帯状に含む。褐色砂質土塊を含む。
- 2 黒褐色土 白色粒子を多量に含む。褐色砂質土塊を含む。
- 3 黒褐色土 褐色砂質土塊を多量に含む。
- 4 暗褐色土 白色粒子、褐色砂質土を少量含む。
- 5 暗褐色土 褐色砂質土主体で締まり弱い。

第36図 1号土坑跡・出土遺物

1号土坑跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
36図1	土師器 椀	1/4	(13.8)・ —	埋土	口縁部横撫で。体部篋削り後撫で。内面斜方向篋磨き。口縁外反。弱い稜をもつ。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
36図2 P L 16	土師器 椀	2/3	13.6・ 6.2	埋土	口縁部横撫で。体部から底部にかけて篋削り。内面斜方向篋磨き。	①良好②明赤褐 ③細砂粒
36図3	縄文 深鉢	胴部小片	—・ —	埋土	外反する器形を呈す。縄文はR L縦位施文。内面器壁剥落。中期か。	①良好②赤褐 ③細砂粒
36図5	弥生 甕	頸部~胴 部	—・ —	埋土	頸部波状文。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒

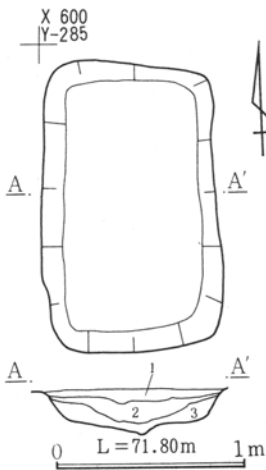
1号土坑跡石製品観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	長・幅 (cm) 厚・重 (g)	出土 位置	特徴・その他	石材
36図4 P L 16	加工痕の ある石器	端部欠	9.9・6.8 2.4・197.0	埋土	上下両端及び左右の側縁に刃部作出を目的とする。一部礫面を残して粗い剥離が被う。側縁部分の加工は平坦な折れ面からなされ石鎌の再生品の可能性がある。	細粒輝石安山岩

2号土坑跡

本土坑跡は調査区東部中央に位置する。
 平面形は長方形を呈する。規模は長軸1.50m・短軸0.9m・深25cmを測る。
 主軸方位はN-1°-Eを示す。埋土は白色粒子を多量に含む暗褐色土を主体とする。壁面は緩く立ち上がる。底面は中心部に緩く傾斜し、いくつかの小さな凹凸がある。

遺物は土師器小片が数点出土している。本土坑跡の時期は出土遺物が少量であるため時期は明確ではないが古墳時代中期と考えられる。



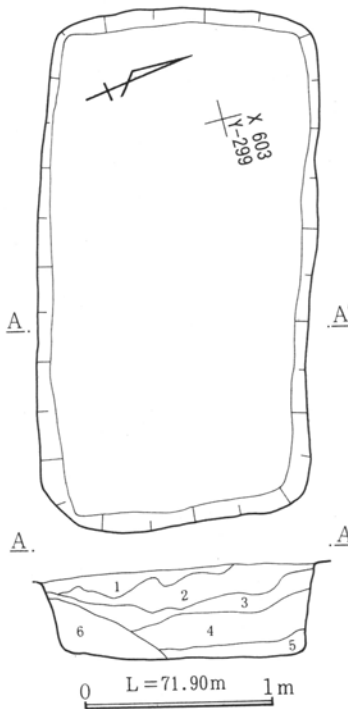
- 2号土坑跡
- 1 暗褐色土 白色粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 白色粒子を多量に含む。橙色粒子を少量含む。
 - 3 暗褐色土 褐色砂質土を含む。

3号土坑跡

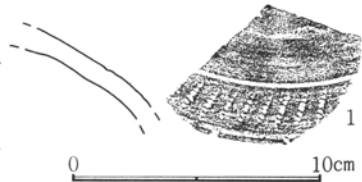
本土坑跡は調査区中央部北側に位置する。他の遺構跡との重複関係は1号井戸跡、13号、15号住居跡と重複する。新旧関係はこれらいずれの遺構跡よりも新しい。

平面形は長方形を呈する。規模は長軸2.75m・短軸1.45m・深50cmを測る。主軸方位はN-64°-Wを示す。壁面は垂直気味に立ち上がり、底面は平坦でやや軟弱である。

遺物は、土師器小片が多量に出土し、須恵器、陶器の小片が数点出土している。本土坑の時期は他の遺構跡との重複関係が多いため出土遺物の時期が幅広く明確にはできないが、江戸時代以降と考えられる。



- 3号土坑跡
- 1 褐灰色土 白色粒子を少量含む。砂質土。
 - 2 暗褐色土 白色粒子を多量に含み、黒色粘質土塊を少量含む。砂質土。
 - 3 褐灰色土 黒色粘質土塊を多量に含む。砂質土。
 - 4 暗褐色土 黒色粘質土塊を多量に含み、白色粒子を少量含む。砂質土。
 - 5 褐灰色土 灰白色の砂質土を少量含む。砂質土。
 - 6 黒褐色土 黒色粘質土塊を多量に含み、赤褐色砂質土を含む。白色粒子少量含む。砂質土。

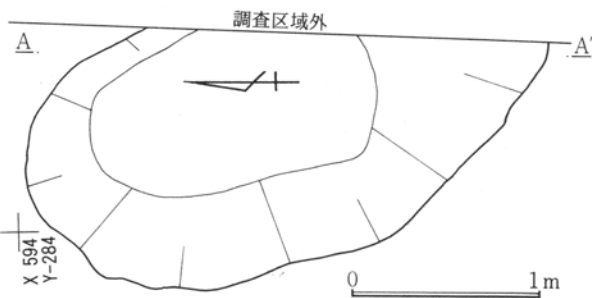


3号土坑跡遺物観察表

挿図番号 P L番号	器種 器形	部位 残存	口径 器高	底径 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
37図1	須恵器 長頸壺	肩部小片	-	-	埋土	肩端部を沈線で区画。沈線区画内に刺突文。	①還元焰②灰黄 ③細砂粒

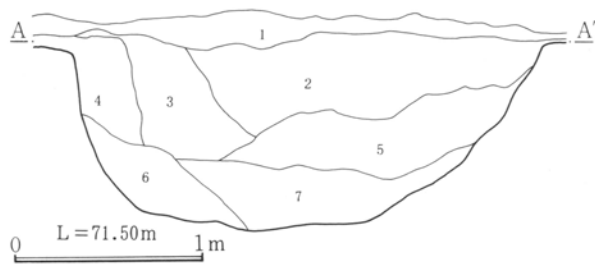
4号土坑跡

本土坑跡は調査区北部南側に位置する。東側半分が調査区外のため全容は不明である。平面形は不定形な楕円形を呈すると考えられる。規模は長軸1.75m・短軸1.45m・深1.18mを測る。主軸方位はN-33°-Wを示す。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。出土遺物がないため本土坑跡の時期は不明である。

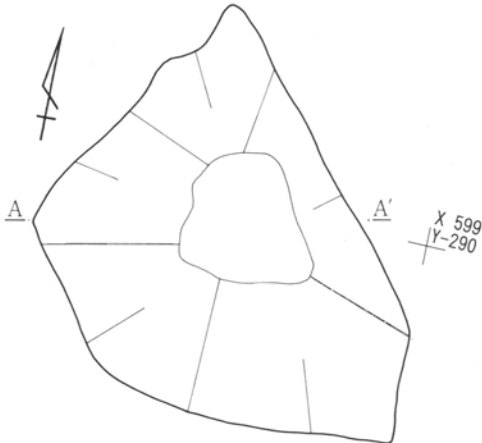


第37図 2・3・4号土坑跡・2号土坑跡出土遺物

第3章 調査遺構と出土遺物



- 4号土坑跡
- 1 黒褐色土 白色粒子を多量に含む。砂質土。
 - 2 褐灰色土 白色粒子を多量に含む、赤褐色砂質土塊を少量含む。砂質土。
 - 3 灰褐色土 赤褐色砂質土塊を含む。砂質土。
 - 4 明褐色土 赤褐色砂質土を多量に含む。砂質土。
 - 5 黒褐色土 白色粒子を少量含む。砂質土。
 - 6 灰白色土 川砂、赤褐色砂質土を少量含む。砂質土。
 - 7 暗灰色土 灰白色砂質土塊を少量含む。砂質土。

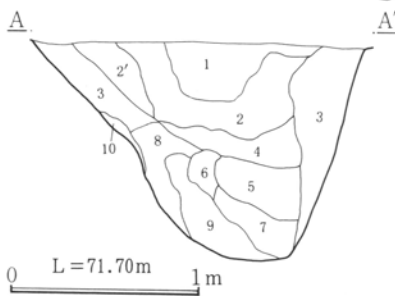


5号土坑跡

本土坑跡は調査区中央部東側に位置する。

平面形は不定形な楕円形を呈する。規模は長軸2.2m・短軸1.6m・深1.15mを測る。主軸方位はN-52°-Wを示す。壁面は東側は垂直気味に立ち上がり、西側は緩やかに立ち上がる。

遺物は、土師器小片が数点出土している。本土坑跡の時期は出土遺物が少量であるため時期は明確にはできない。



5号土坑跡

- 1 暗褐色土 白色粒多く混じる。
- 2 黒褐色土 白色粒、褐色土塊 ϵ 5cmを含む。砂質土。
- 2' 黒褐色土 白色粒混じる。
- 3 灰褐色土 砂質白色粒混じる。
- 4 暗灰褐色土 白色粒、褐色土塊を含む。砂質土。
- 5 灰褐色土 灰色砂塊を含み、締まり弱い。砂質土。
- 6 黒褐色土 黒褐色土塊を含む。
- 7 灰褐色土 砂質土。締まり弱い。
- 8 灰褐色土 砂質土。締まり弱い。
- 9 灰褐色土 砂質土、黄色砂塊混じり、締まり弱い。
- 10 黄白色土 砂塊。基層崩れ。

Ⅲ. 井戸跡

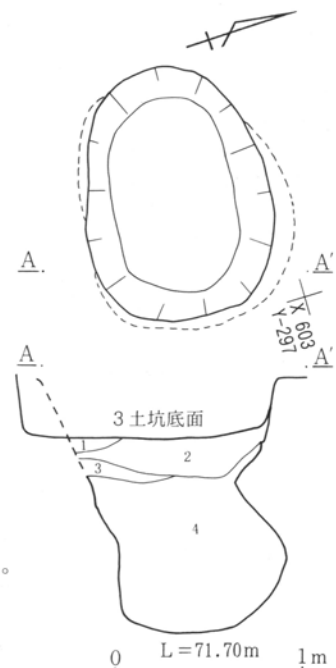
1号井戸跡

本井戸跡は調査区中央部西側に位置する素掘りの井戸である。他の遺構跡との重複関係は3号土坑跡、13号、15号住居跡と重複する。新旧関係は3号土坑跡よりも旧く、13号、15号住居跡よりも新しい。

平面形は楕円形を呈する。規模は長軸1.35m・短軸1.0m・深1.35mを測る。断面形は中位部から下位部にかけて北側壁面が大きく湧水層であるため抉れが著しい。崩落以前は漏斗状を呈していたと考えられる。基盤が砂層のため他の壁面の崩落も著しい。底面の状態は湧水が多く確認できなかった。遺物は土師器杯類が出土している。本井戸跡の時期は

1号井戸跡

- 1 暗褐色土 褐色土・白色土縞状に入る。
- 2 暗灰褐色土 小礫混じる。砂質締まり弱い。
- 3 黒褐色土 粘性あり。
- 4 黒褐色土 明橙色砂質土が縞状に入る。



第38図 4・5号土坑跡・1号井戸跡

他の遺構跡との重複が多いため出土遺物からの判断が難しいが、古墳時代後期から奈良時代と考えられる。



1号井戸跡遺物観察表

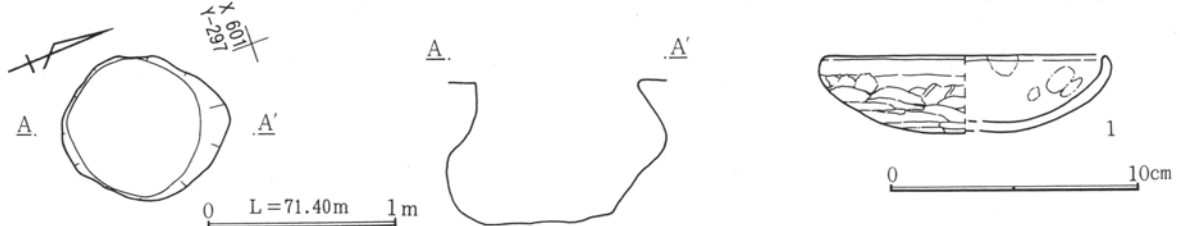
挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
39図1	土師器 杯	小片	(11.4)・ —	埋土	口縁部篋撫で。底部にかけて篋削り。 内面撫で。	①良好②明赤褐 ③細砂粒

2号井戸跡

本井戸跡は調査区中央部に位置する素掘りの井戸である。他の遺構跡との重複関係は13号、15号住居跡と重複する。新旧関係はこれらいずれの遺構跡よりも新しい。

平面形は円形を呈する。規模は径87cm・深76cm・底径70cmを測る。断面形は北壁中位部、南壁下部部が抉れ壁面の崩落が著しい。崩落以前は漏斗状を呈していたと考えられる。底面の状態は湧水が多く未確認である。

遺物は土師器小片が出土している。本井戸跡の時期は他の遺構跡との重複が多く、出土遺物からの判断は難しいため明確にはできないが重複する他の遺構跡との新旧関係から奈良時代以降であると考えられる。



2号井戸跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
39図1	土師器 杯	1/4	(11.1)・ —	埋土	口縁部横撫で、下部部指頭痕。底部にかけて篋削り。 内面口縁下部部指頭痕。底部撫で。	①良好②明赤褐 ③細砂粒

3号井戸跡

本井戸跡は調査区東部中央に位置する素掘りの井戸である。

平面形は円形を呈する。規模は径94cm・深92cmを測る。断面形は漏斗状を呈し、底径60cmを測る。壁面の下部部は抉られており湧水層と考えられる。

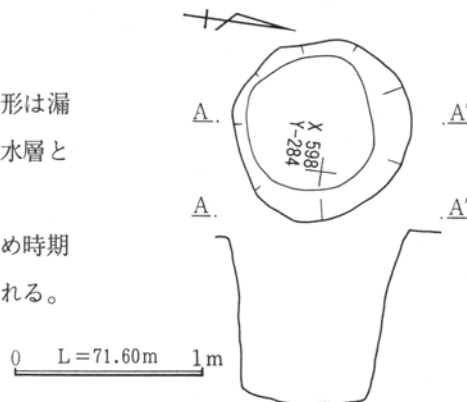
遺物は土師器小片数点が出土している。出土遺物が少量のため時期判断は明確にはできないが奈良時代以降のものであると考えられる。

4号井戸跡

本井戸跡は調査区南西部に位置する素掘りの井戸である。

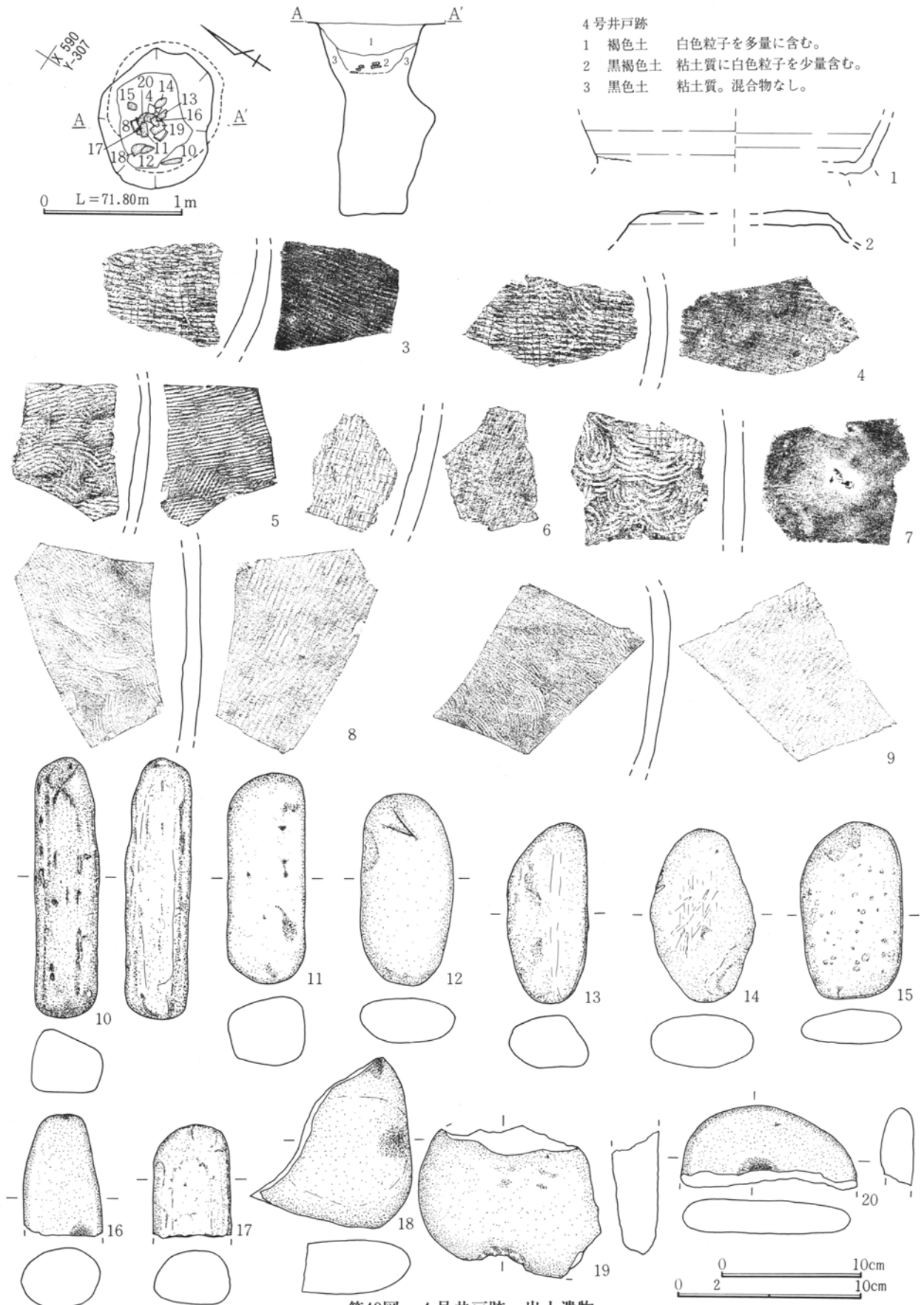
平面形は円形を呈する。規模は径1.0m・深1.3m・底径45cmを測る。断面形は中位から下位にかけて北側壁面が大きく崩落し、抉れが生じている。崩落以前は漏斗状を呈していたと考えられる。埋土中位から下位にかけて須恵器甕片や須恵器蓋、編み物用石製錘（1号、6号、7号、9号住居跡出土と同様なもの）や扁平な礫、凹み石等、多数存在しており故意に投棄充填されたと考えられる。

本井戸跡の時期は出土遺物から奈良時代以降のものであると考えられる。



第39図 2・3号井戸跡・1・2号井戸跡出土遺物

第3章 調査遺構と出土遺物



第40図 4号井戸跡・出土遺物

第2節 遺構と遺物

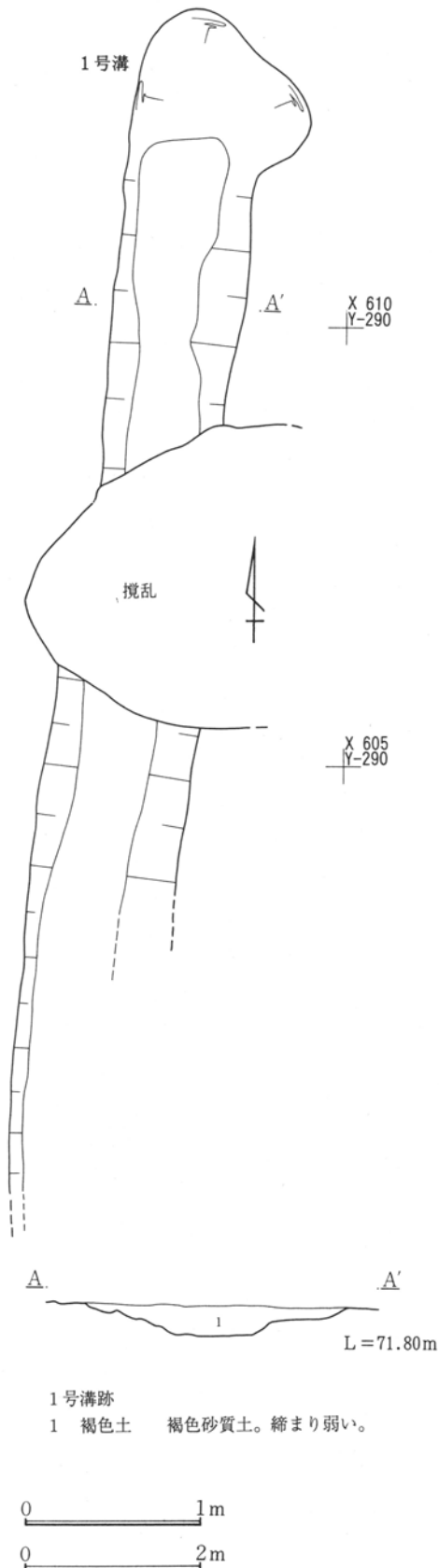
4号井戸跡遺物観察表

挿図番号 P L番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
40図1	須恵器 高台付壺	小片	—・— —	埋土	轆轤整形。高台貼付であるが剥離。胴部下位回転範削り。	①還元焰②灰白 ③細砂粒
40図2	須恵器 壺	小片	—・— —	埋土	短頸壺蓋。轆轤整形、左回転。天井部回転範削り。	①還元焰②灰 ③細砂粒
40図3	須恵器 甕	胴部片	—・— —	埋土	外面平行叩き。内面格子目状あて具痕。	①還元焰②灰 ③細砂粒
40図4	須恵器 甕	胴部片	—・— —	埋土	外面平行叩き。内面格子目状あて具痕。	①還元焰②灰 ③細砂粒
40図5	須恵器 甕	胴部片	—・— —	埋土	外面平行叩き。内面同心円状あて具痕。	①還元焰②灰 ③細砂粒
40図6	須恵器 甕	胴部片	—・— —	埋土	外面平行叩き。内面格子目状あて具痕。	①還元焰②灰 ③細砂粒
40図7	須恵器 甕	胴部片	—・— —	埋土	外面平行叩き。内面同心円状あて具痕。	①還元焰②灰 ③細砂粒
40図8	須恵器 甕	胴部片	—・— —	埋土	外面平行叩き。内面同心円状あて具痕。	①還元焰②灰 ③細砂粒
40図9	須恵器 甕	胴部片	—・— —	埋土	外面平行叩き。内面同心円状あて具痕。	①還元焰②灰 ③細砂粒

4号井戸跡石製品観察表

挿図番号 P L番号	器種 器形	部位 残存	長・幅 (cm) 厚・重 (g)	出土 位置	特徴・その他	石材
40図10 P L17	石製錘	完形	18.6・5.1 4.5・683.0	埋土	棒状。河床礫。	流紋岩
40図11 P L17	石製錘	完形	15.0・5.7 4.9・753.0	埋土	棒状。河床礫。	溶結凝灰岩
40図12 P L17	石製錘	完形	13.6・6.7 3.2・408.7	埋土	扁平。両側縁打ち欠く。両端敲打痕。河床礫。	砂岩
40図13 P L17	石製錘	完形	13.0・5.7 3.7・392.7	埋土	棒状。河床礫。	輝緑岩
40図14 P L17	石製錘	完形	12.4・7.5 3.8・459.4	埋土	扁平。表面磨り跡。左側縁3箇所敲打痕。河床礫。	粗粒輝石安山岩
40図15 P L17	石製錘	完形	12.6・7.3 2.5・412.5	埋土	扁平。河床礫。	粗粒輝石安山岩
40図16 P L17	石製錘	端部欠	(8.8)・5.7 4.2・343.4	埋土	棒状。河床礫。	流紋岩
40図17 P L17	石製錘	端部欠	(8.2)・5.7 3.9・284.4	埋土	棒状。河床礫。	粗粒輝石安山岩
40図18 P L17	石製錘	端部欠	(12.3)・(11.3) 3.9・654.0	埋土	扁平。被熱か?河床礫。	砂岩
40図19 P L17	石製錘	端部欠	(13.0)・(10.9) 3.3・567.0	埋土	扁平。下部中央側縁打ち欠き。河床礫。	粗粒輝石安山岩
40図20 P L17	凹石	端部欠	(6.0)・12.6 2.4・246.8	埋土	扁平。凹径2.3cm・深0.5cm。河床礫。	粗粒輝石安山岩

IV. 溝跡

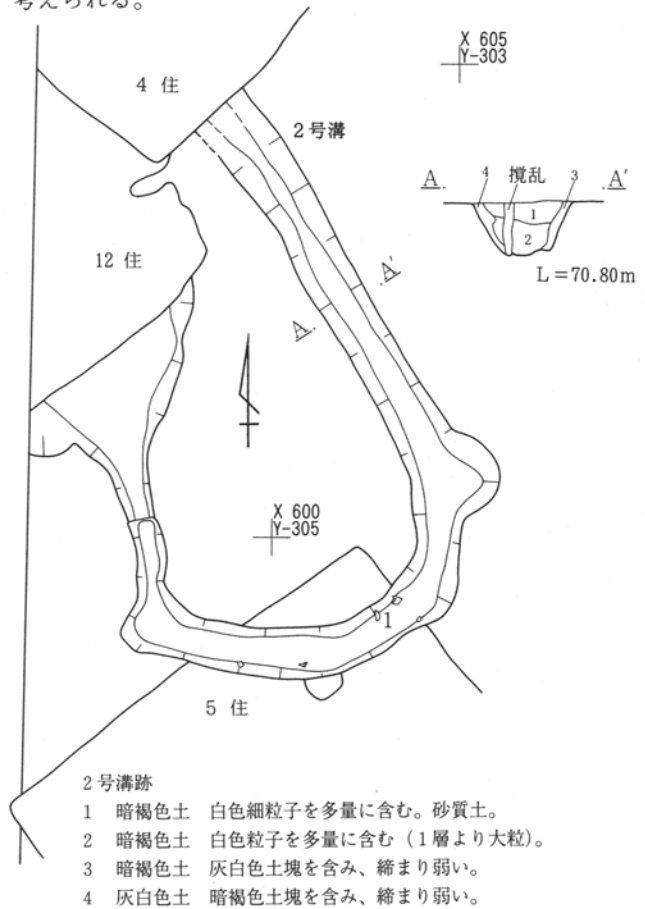


1号溝跡

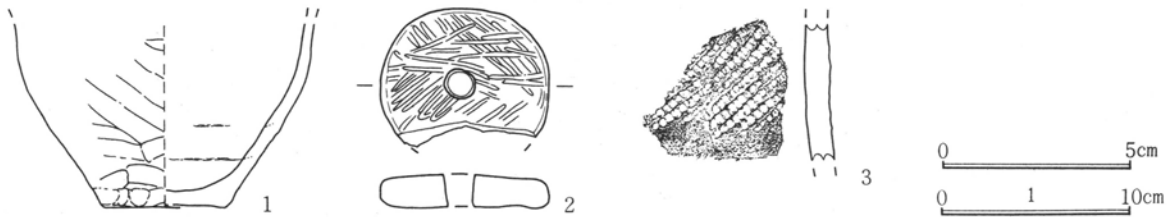
本溝跡は調査区北部X595~610・Y-290グリッドにかけて南北方向に走向する。平面形態は北端部で大きく立ち上がり、南端部は9号住居跡手前で緩く立ち上がる。9号住居跡との重複は見られない。規模は検出長17.5m・幅1.3~1.6m・深16cmを測る。遺物は土師器杯、甕、須恵器甕などの小片が出土している。本溝跡の時期は出土遺物の時期が幅広く明確にはできない。

2号溝跡

本溝跡は調査区西部X595~600・Y-300グリッドに位置する。他の遺構跡との重複関係は4号、5号、12号住居跡と重複する。新旧関係は4号、12号住居跡よりも旧く、5号住居跡よりも新しい。平面形態は北西方向から南東方向にかけて走向し、5号住居跡北壁隅部付近で北西方向に彎曲する。規模は検出長約10m・幅32~96cm・深28cmを測る。遺物は弥生土器小片、土製紡錘車、土師器鉢小片などが出土している。本溝跡の時期は古墳時代後期から奈良時代と考えられる。



第41図 1・2号溝跡



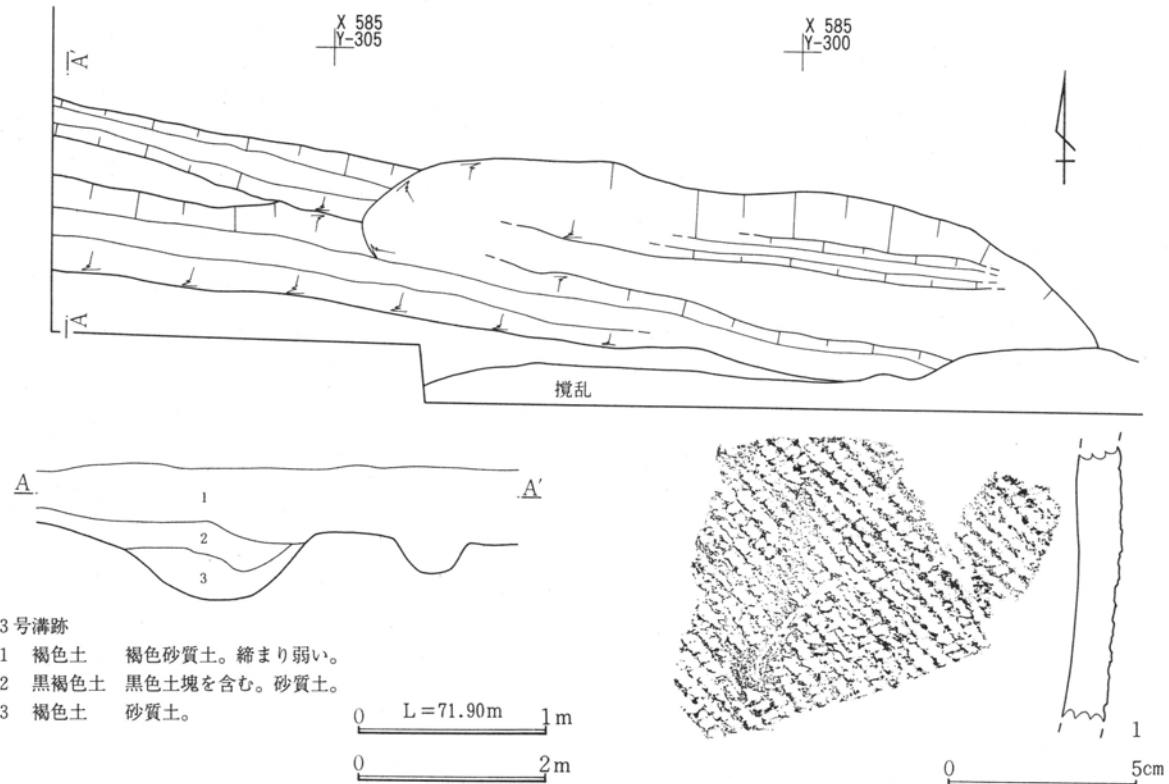
第42図 2号溝跡出土遺物

2号溝跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
42図1	土師器 鉢	胴部～底 部片	—・(7.0) —	埋土	胴部から底部にかけて篋削り。 内面篋撫で。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
42図2 P L 17	土製品 紡錘車	2/3	長4.5・内径0.6 厚み0.9	埋土	表裏面黒色処理で不定方向の篋磨き。	①良好②黒③細砂粒
42図3	弥生 甕	胴部小片	—・— —	埋土	赤井土式土器。LR横位施文。	①良好②暗褐 ③細砂粒

3号溝跡

本溝跡は調査区南西部X580・Y-295～305グリッドにかけて西方向から東方向に走向する。西部では2条に分かれて併走する形態が確認できるが、東部は本溝跡南側に併走する現代攪乱溝跡の影響でその痕跡は確認できない。規模は検出長約9.6m・幅0.9～1.12m・深68cmを測る。遺物は縄文土器小片、土師器杯、甕小片、須恵器甕類などが出土している。本溝跡の時期は出土遺物の時期が幅広く明確にはできない。



3号溝跡

- 1 褐色土 褐色砂質土。締まり弱い。
- 2 黒褐色土 黒色土塊を含む。砂質土。
- 3 褐色土 砂質土。

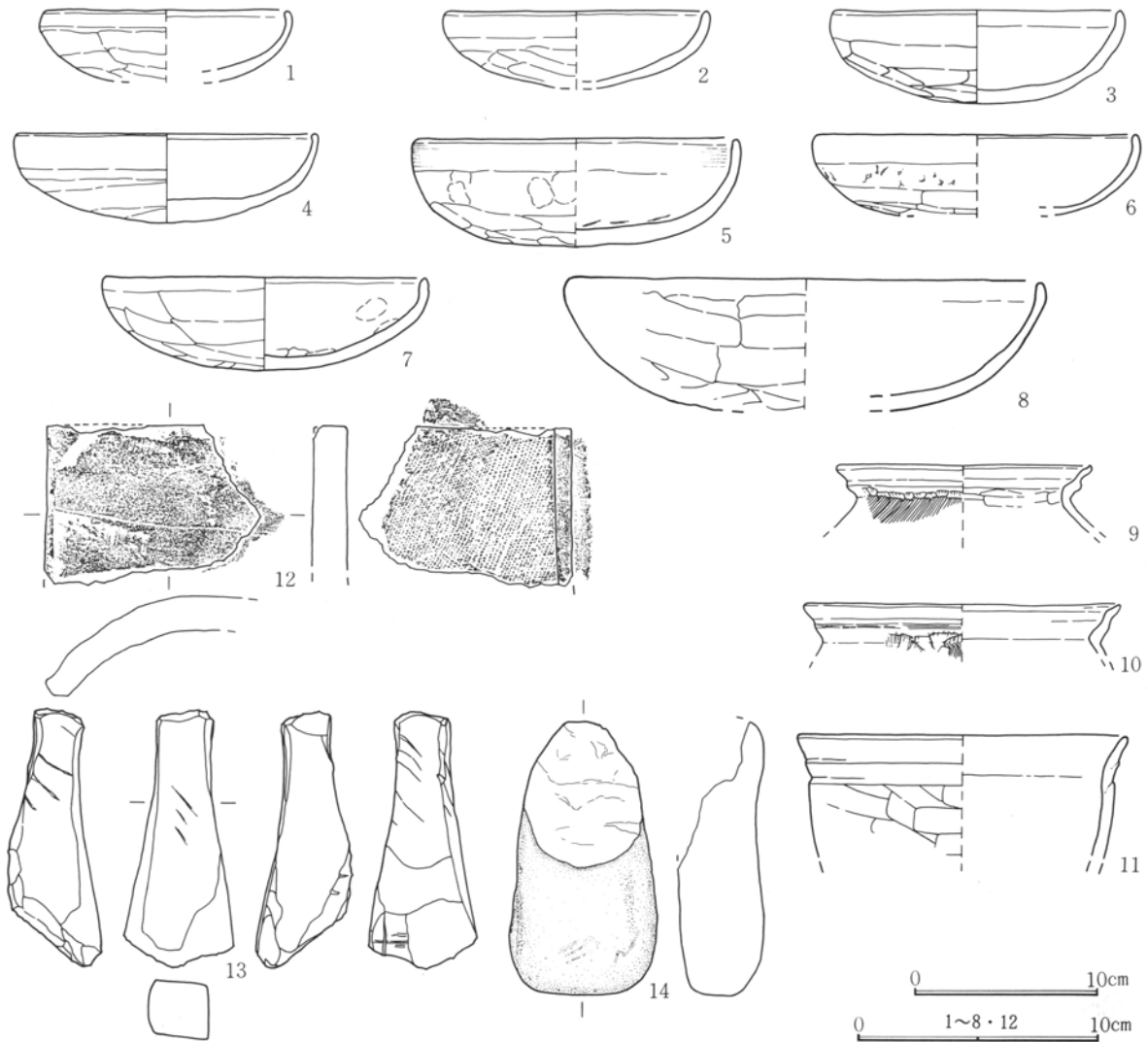
3号溝跡遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
43図1	縄文 深鉢	体部 小片	—・— —	埋土	厚手の体部破片。LR縦位施文。内面器壁剥落。 中期か。	①良好②淡黄 ③粗砂粒

第43図 3号溝跡・出土遺物

V. 遺構外遺物

ここでは、遺構出土以外の遺物を扱う。遺構外で出土した遺物はグリッド毎に取り上げ、各遺構からの出土遺物と接合するさいに照合したが、その帰属が明らかにできなかったものはグリッド出土遺物とし、また、グリッドで取り上げられなかった表土掘削時出土のものは遺構外遺物としてこの項で扱う。



第44図 グリッド出土遺物

グリッド遺物観察表

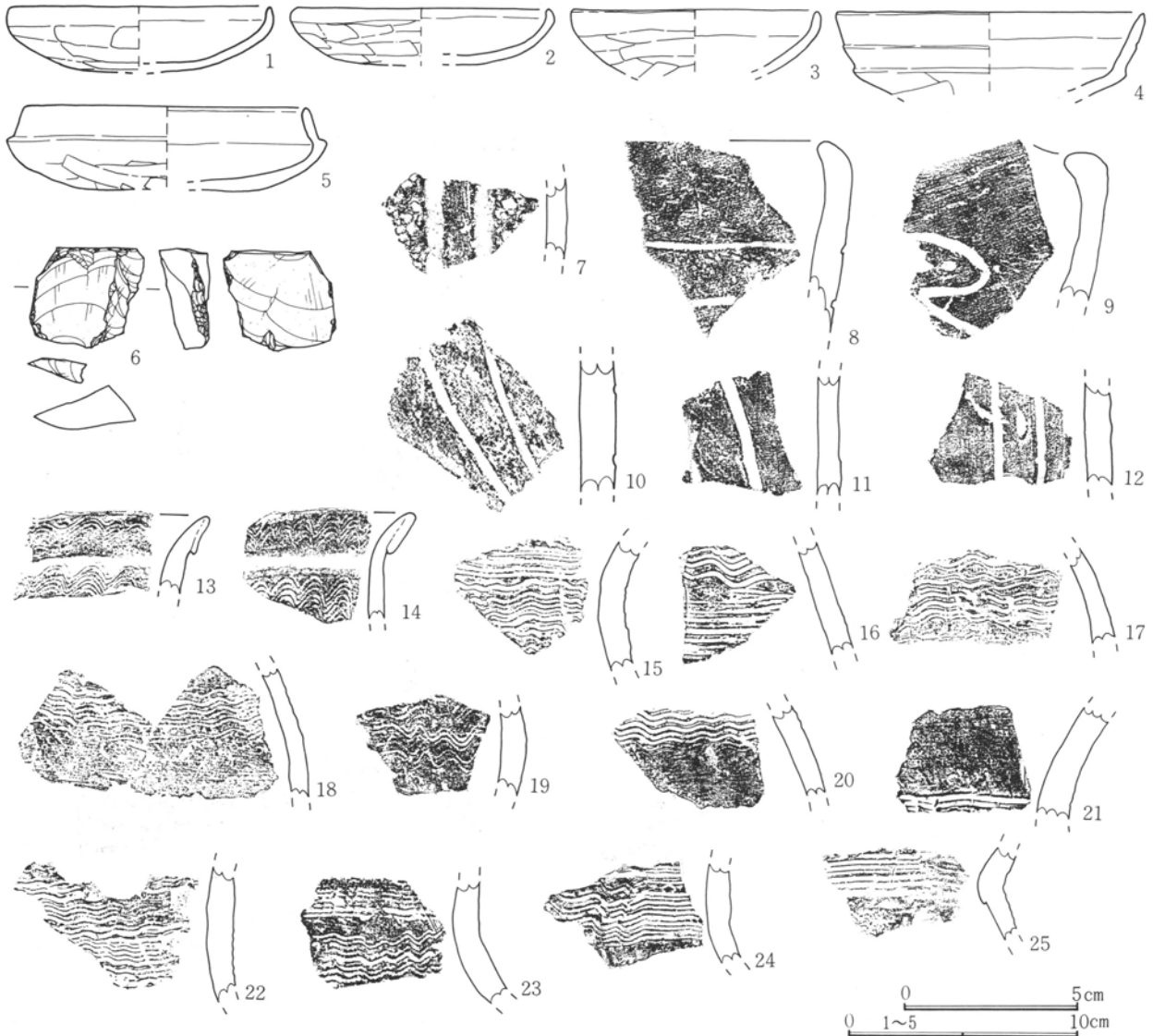
挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
44図1	土師器 杯	小片	(10.0)・ —	X 590 Y-300	口縁部上半横撫で、下半から底部は篋削り。	①良好②明褐 ③細砂粒
44図2	土師器 杯	1/4	(10.8)・ —	X 600 Y-285	口縁部上半横撫で、下半から底部は篋削り。横撫でと篋削りの間に無調整部分が残る。	①良好②橙③細砂粒
44図3 P L 17	土師器 杯	完形	11.7・ 3.8	X 600 Y-290	口縁部上半横撫で、下半から底部は篋削り。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
44図4 P L 17	土師器 杯	1/3	12.4・ 3.6	X 600 Y-290	口縁部上半は横撫で、下半は撫で。底部は篋削り。	①良好②橙③細砂粒
44図5 P L 17	土師器 杯	1/3	(13.2)・ 4.4	X 600 Y-290	口縁部上半は横撫で、下半は無調整、部分的に指頭痕が残る。底部は篋削り。	①良好②橙③細砂粒
44図6	土師器 杯	1/4	(13.0)・ —	X 600 Y-290	口縁部上半は横撫で、下半は無調整。底部は篋削り。	①良好②橙③細砂粒

第2節 遺構と遺物

44図7 P L 17	土師器 杯	ほぼ完形	13.2・ 3.8	—	X 600 Y-285	口唇部横撫で。口縁部から底部は篋削り。	①良好②橙③細砂粒
44図8	土師器 杯	小片	(19.0)・ —	—	X 590 Y-300	口唇部横撫で。口縁部から底部は篋削り。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
44図9	土師器 台付甕	口縁部片	(14.0)・ —	—	X 600 Y-295	S字状口縁。口縁部横撫で。肩部は刷毛目状。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
44図10	土師器 台付甕	口縁部片	(17.2)・ —	—	X 600 Y-290	S字状口縁であるが崩れている。口縁部横撫で。頸部は刷毛目状工具。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
44図11	土師器 鉢	小片	(18.0)・ —	—	X 595 Y-285	口縁部中位に段をもつ。口縁部横撫で。体部篋削り。	①良好②明褐 ③細砂粒
44図12	男瓦	破片	厚 1.5	—	X 600 Y-285	外面端部は面取り。内面布目痕。	①還元焰②灰 ③細砂粒

グリッド石製品観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	長・幅 (cm) 厚・重 (g)	出土 位置	特徴・その他	石材	
44図13 P L 17	砥石	端部欠	(14.0)・ 3.2	5.9 285.5	X 588 Y-305	4面使用。刃物傷跡あり。	粗粒輝石安山岩
44図14 P L 17	石製錘	端部欠	(14.9)・ 8.0	4.5 712.0	X 588 Y-305	棒状。河床礫。上部欠損。	粗粒輝石安山岩



第45図 遺構外遺物

第3章 調査遺構と出土遺物

遺構外遺物観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	口径・底径 器高 (cm)	出土 位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成②色調③胎土
45図1	土師器 杯	1/4	(11.0)・ —	表土	口縁部上半横撫で。下半から底部は篋削り。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
45図2	土師器 杯	1/4	(10.8)・ —	表土	口縁部上半横撫で。下半から底部は篋削り。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒
45図3	土師器 杯	小片	(10.4)・ —	表土	口縁部上半横撫で。下半から底部は篋削り。	①良好②橙③細砂粒
45図4	土師器 杯	小片	(13.2)・ —	表土	有段口縁。口縁部下に明瞭な稜をもつ。口縁部横撫で。底部篋削り。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
45図5	土師器 杯	1/4	(12.0)・ —	表土	口縁部内傾。口縁部下に明瞭な稜をもつ。口縁部横撫で。底部篋削り。	①良好②赤褐 ③細砂粒
45図7	縄文 深鉢	小片	—・ —	表土	磨り消し部と縄文施文部の交互懸垂文構成。縄文はR L縦位充填施文か。加曽利EⅢ式後半。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
45図8	縄文 深鉢	小片	—・ —	表土	口唇部内屈する。波状口縁部か。細沈線による意匠文の上端。充填縄文は判然としない。称名寺式。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
45図9	縄文 深鉢	小片	—・ —	表土	口唇部内屈する波状口縁。沈線による銚先状意匠の先端か。施文部刺突文を充填する。称名寺式。	①良好②黒褐 ③細砂粒
45図10	縄文 深鉢	小片	—・ —	表土	体部下半。2条沈線による弧状意匠下端。区画内は無文。称名寺式。	①良好②褐③細砂粒
45図11	縄文 深鉢	小片	—・ —	表土	沈線による懸垂文構成。施文部と無文部の交互構成。施文部はL R細縄文縦位充填施文。称名寺式。	①良好②にぶい黄褐 ③細砂粒
45図12	縄文 深鉢	小片	—・ —	表土	2条沈線による懸垂文構成。破片左端にも沈線。施文部は刺突文を施す。称名寺式。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
45図13	弥生 甕	小片	—・ —	表土	口縁部折り返し。波状文。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
45図14	弥生 甕	小片	—・ —	表土	口縁部折り返し。波状文。	①良好②赤褐 ③細砂粒
45図15	弥生 甕	頸部小片	—・ —	表土	頸部廉状文?、波状文。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
45図16	弥生 甕	肩部小片	—・ —	表土	肩部3段以上の波状文。	①良好②にぶい黄褐 ③細砂粒
45図17	弥生 甕	肩部小片	—・ —	表土	肩部波状文。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
45図18	弥生 甕	胴部小片	—・ —	表土	胴部波状文、波状文下篋削り。	①良好②にぶい褐 ③細砂粒
45図19	弥生 甕	肩部小片	—・ —	表土	肩部2段以上の波状文。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
45図20	弥生 甕	胴部小片	—・ —	表土	胴部波状文、波状文下篋削り。	①良好②灰黄褐 ③細砂粒
45図21	弥生 甕	頸部小片	—・ —	表土	頸部2連止廉状文。	①良好②にぶい赤褐 ③細砂粒
45図22	弥生 甕	肩部小片	—・ —	表土	肩部3段以上の波状文。	①良好②にぶい黄橙 ③細砂粒
45図23	弥生 甕	頸~肩部 小片	—・ —	表土	頸部2連止廉状文と波状文。	①良好②黒褐 ③細砂粒
45図24	弥生 甕	頸部小片	—・ —	表土	頸部波状文。	①良好②褐灰 ③粗砂粒
45図25	弥生 甕	頸部小片	—・ —	表土	頸部廉状文と波状文。	①良好②にぶい橙 ③細砂粒

表採石製品観察表

挿図番号 P L 番号	器種 器形	部位 残存	長・幅 (cm) 厚・重 (g)	出土 位置	特徴・その他	石材
45図6 P L 17	スクレイ パー	ほぼ完形	2.8・3.2 1.4・11.2	表土	節理面打面。小型幅広剥片。右側縁にやや急峻な細部加工。左側縁に連続する微細剝離。表裏面とも運搬による擦れがある。	黒曜石

第3節 まとめ

中組遺跡は今回の調査で、3地点目である。最初の調査は伊勢崎市教育委員会（以後伊教委）が昭和56年に北部環状線の建設工事に伴い遺跡南接部を行い、続いて昭和59年に群馬県教育委員会（以後県教委）が県立伊勢崎商業高等学校セミナーハウス建設に伴い事前の調査を行っている（第46図参照）。今回の調査は前回調査が行われたセミナーハウスに南隣する第2体育館建設に伴う調査である。調査区は以前テニスコートに使用されていた。このため表面は強く填圧され支柱が深く埋め込まれており、遺構に破壊が及んでいる可能性が高かった。しかし、調査の結果、遺構の遺存は比較的良く古墳時代前期から奈良時代にかけての竪穴住居跡13軒、土坑跡5基、井戸跡4基、溝跡3条を検出することができた。そこで、ここでは今回の調査で得た成果をすでに調査済みの2つの地点の調査成果をふまえ、中組遺跡における弥生時代から古墳時代にかけての集落形成についての様相を述べまとめとしたい。

中組遺跡は、赤城山麓を南流する荒砥川・神沢川などの山麓浸食によって形成された広大な沖積地帯の一角にある。この沖積地帯には台地や微高地が枝状に延び、これらの上には各時期にわたって数多くの集落遺跡や古墳群が存在している。このことからこの地域が古くから人々の生活の場として開発され、営まれてきたということが窺える。本遺跡もこれら微高地上に存在する集落遺跡の一つである。

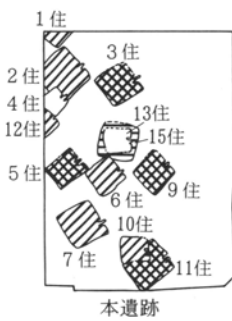
まず、本遺跡における弥生時代の集落跡の存在について考えてみたい。伊教委の調査地点では、弥生時代中期の竪穴住居跡が1軒検出されており、また、遺構には帰属しないが櫛描波状文をもつ土器片も検出されている。県教委の調査地点や本遺跡の調査でも同時期の櫛描波状文をもつ土器片が出土している。しかし、これらが帰属すると考えられる遺構は検出されていない。歴史的環境から周辺遺跡を見てみると、本遺跡の南西約1.0kmには弥生時代中期～後期の遺構が検出されている西太田遺跡があり、本遺跡北西約1.3kmの神沢川が荒砥川と合流する右岸一帯には同時期の集落跡が検出されている荒砥前原遺跡がある。このように本遺跡周辺には弥生時代の集落跡が存在しており、荒砥川周辺の微高地から本遺跡を含めた中組遺跡が立地する微高地に至る地域周辺において、この時代の集落跡が展開するという可能性は極めて高い。しかし、この地域における弥生時代の発掘調査例が少ないことから、ここでは推測にとどめ今後の調査に期待したい。

次に古墳時代の集落について考えてみると、本遺跡の南西約0.7kmにはお富士山古墳（5世紀中頃）があり北東約2.0km以内の範囲には華蔵寺裏山古墳（4世紀）や台所山古墳群（6世紀）、蟹沼東古墳群（6～7世紀）などの古墳群が存在する。また、西太田遺跡や荒砥前原遺跡でもこの時代の集落跡が検出されている。このような歴史的背景の中で存在した中組遺跡にも、古墳時代の集落跡が存在するという可能性は示唆されてきた。しかし、伊教委の調査地点では古墳時代前期と考えられる方形周溝墓跡は検出されているが竪穴住居跡は検出されていない。また、県教委の調査地点においても土器片などの遺物は出土しているが、この時代の竪穴住居跡は検出されていない。そのため今までの2地点の調査結果からは、中組遺跡における古墳時代の集落跡の存在は確認されていなかった。しかし、今回の調査で古墳時代前期から後期にかけての竪穴住居跡が検出されたことにより、中組遺跡は少なくとも古墳時代前期から奈良・平安時代にかけて営まれてきた集落であるということが明確になった。また、検出された竪穴住居跡の多くが調査区西部に集中しており、これらが更に西方向に向けて密度濃く大集落として発展する様相を呈している。このことは県教委の調査結果でも述べられており、今回の調査で裏付けることができた。

この地域は律令期に佐位郡反治郷^{さゐくわんじょう}として編成され発展してきた地域である。今までの中組遺跡の調査を含め、今回の調査で古墳時代の集落跡が確認されたことは、この地域における集落跡の様相の一端を解明するための手がかりになったのではないだろうか。



昭和59年県教委調査部分

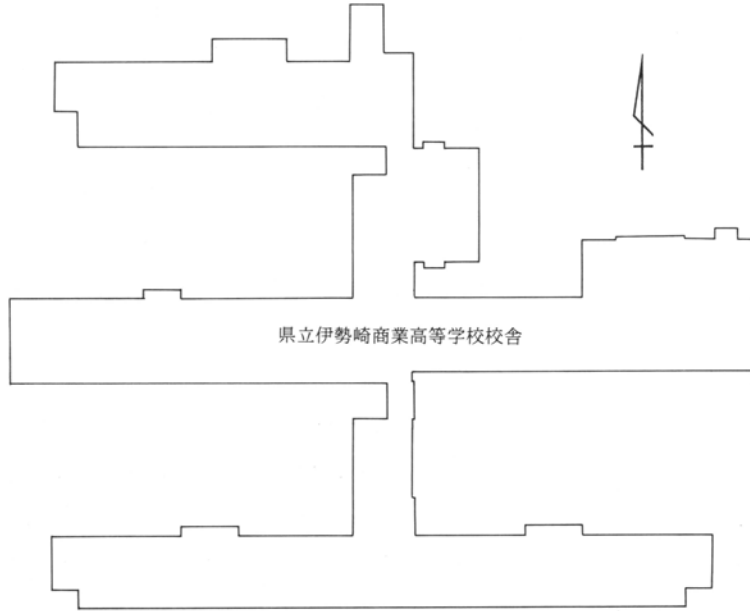


本遺跡

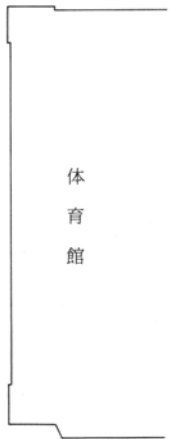
- 弥生時代 I
- 古墳時代前期 II
- 古墳時代中期 III
- 古墳時代後期～奈良時代 . . . IV
- 奈良時代 V
- 平安時代 VI

中組遺跡竪穴住居跡時代別一覽

	市教委	県教委	本遺跡
I	1	—	—
II	—	—	1
III	—	—	4
IV	—	—	6
V	3	13	2
VI	3	—	—



県立伊勢崎商業高等学校校舎

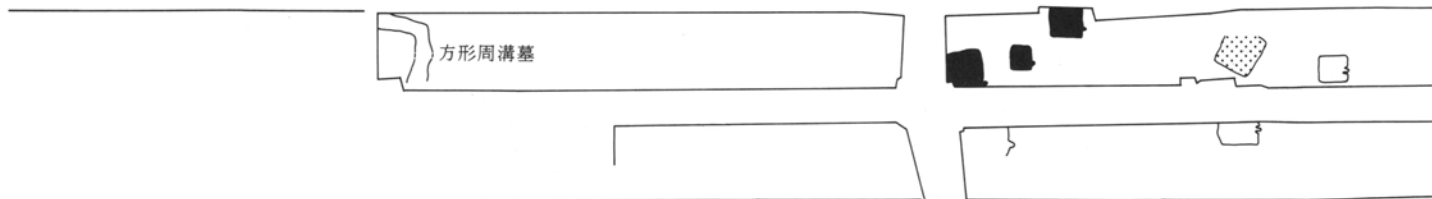


体育館

参考文献

- 『中組遺跡』群馬県教育委員会 1985
- 『中組遺跡』伊勢崎市教育委員会 1981
- 『伊勢崎市史』自然編 1987
- 『伊勢崎市史』通史編 1987
- 『西太田遺跡』伊勢崎市教育委員会 1983
- 『お富士山古墳』伊勢崎市教育委員会 1983
- 『荒砥前原・赤石城址』県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 『八幡町遺跡 (D区)』伊勢崎市教育委員会 1990

昭和56年伊勢崎市教委調査部分



方形周溝墓

0 25m

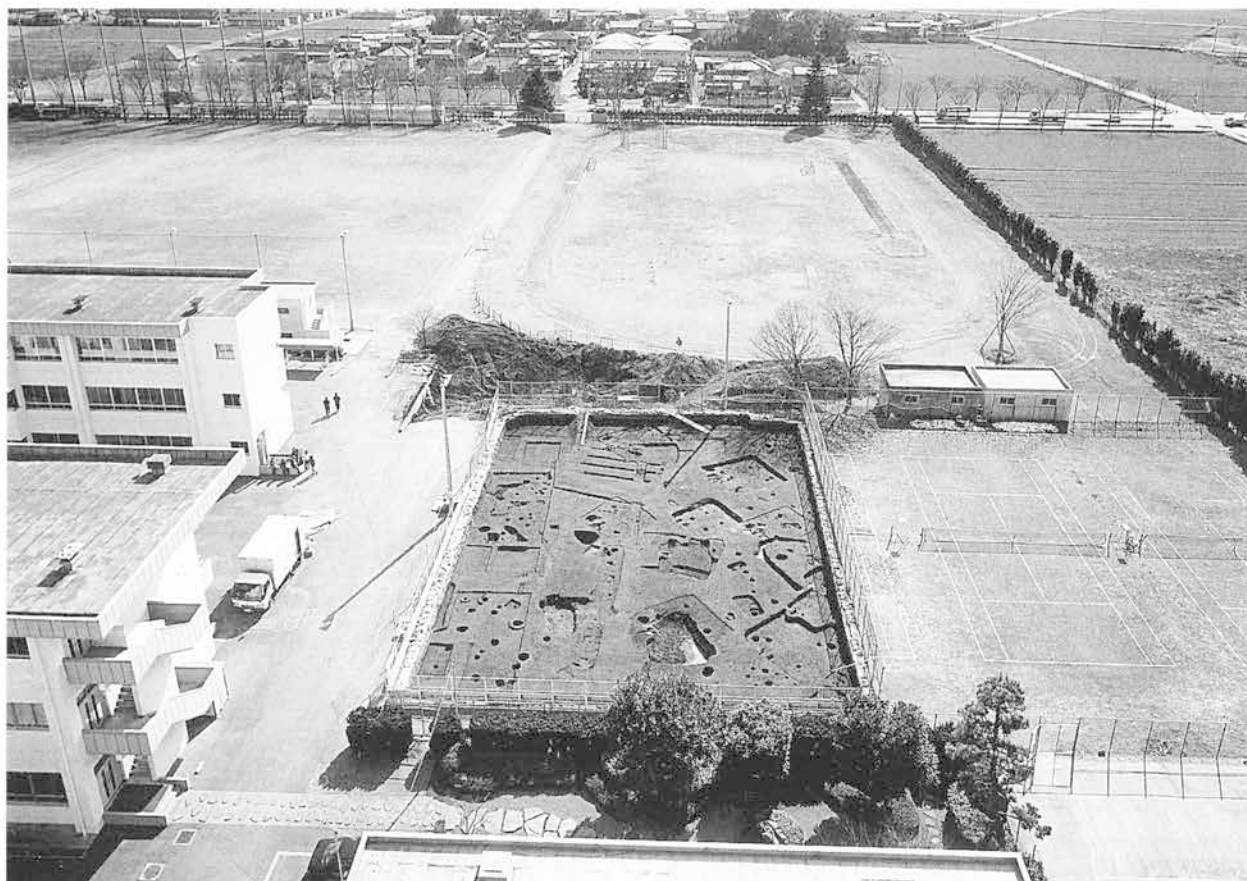
第46図 中組遺跡全体図

写 真 图 版

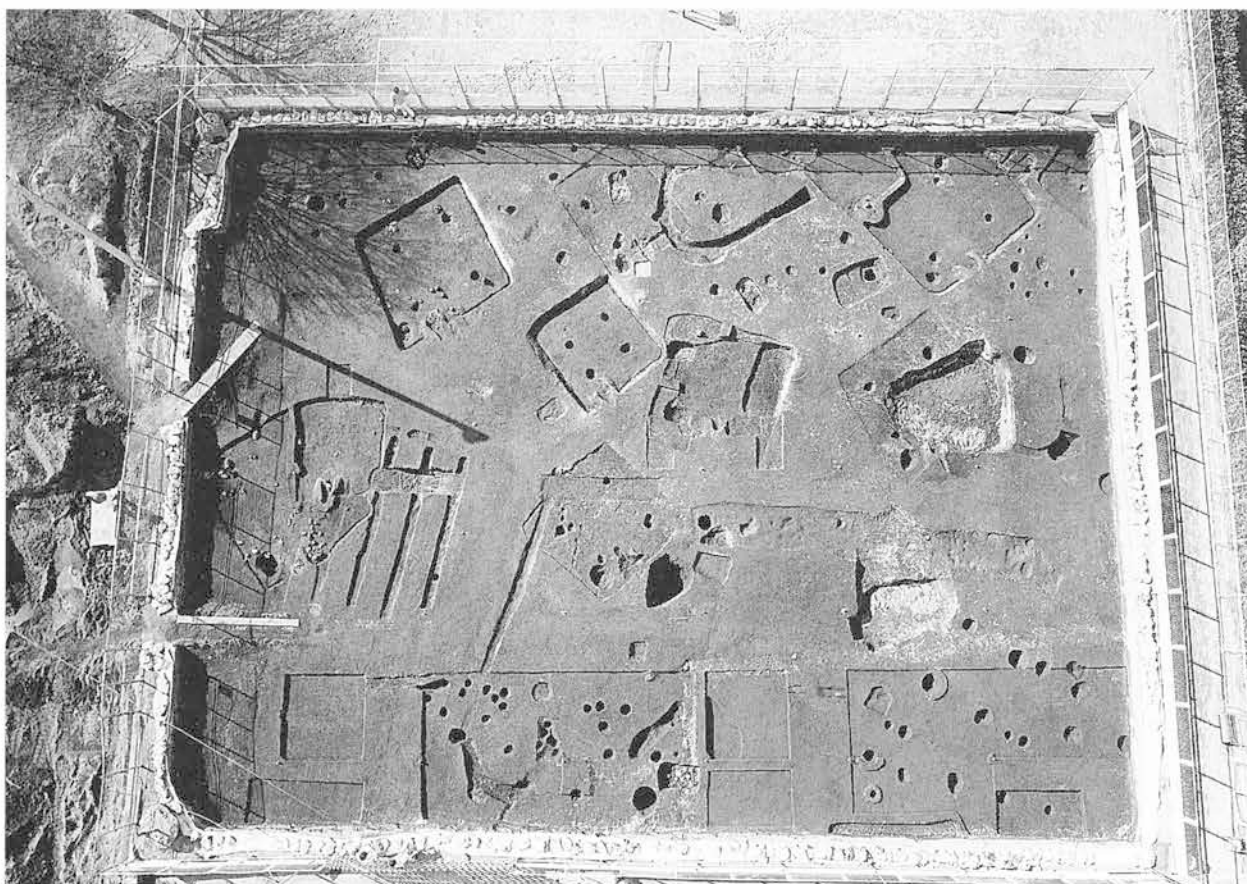


群馬県立伊勢崎商業高等学校・調査区遠景（南上空から）

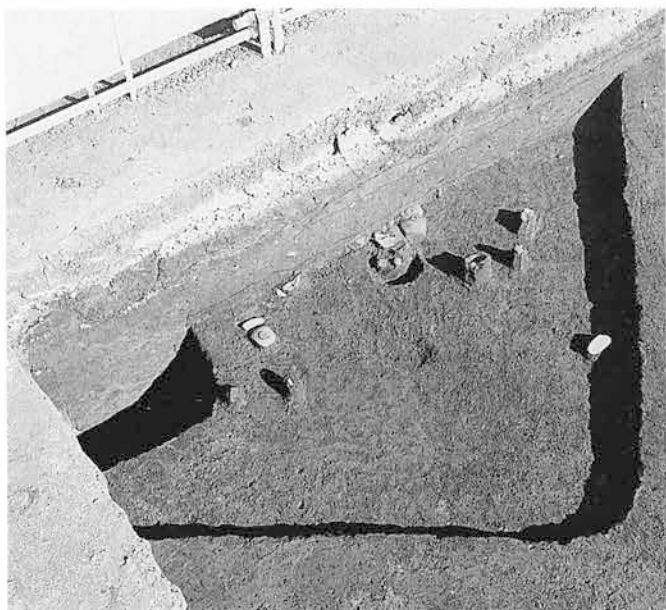
PL2



調査区遠景（北上空から）



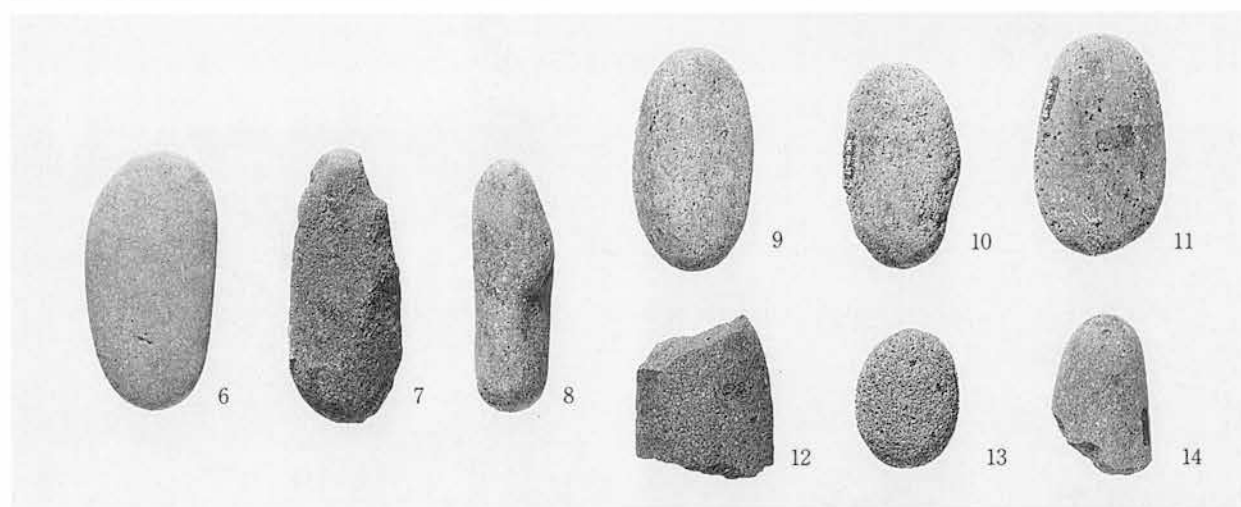
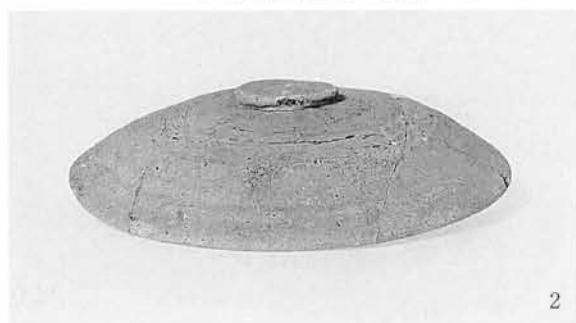
調査区全景（東上空から）



1号住居跡全景（南西から）



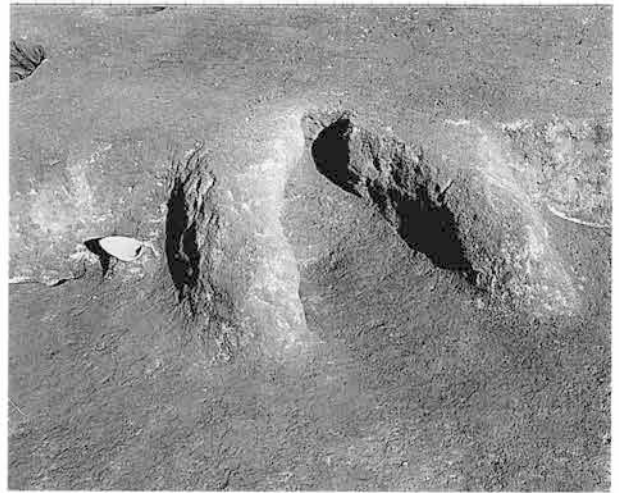
1号住居跡遺物出土状態（南西から）



1号住居跡出土遺物



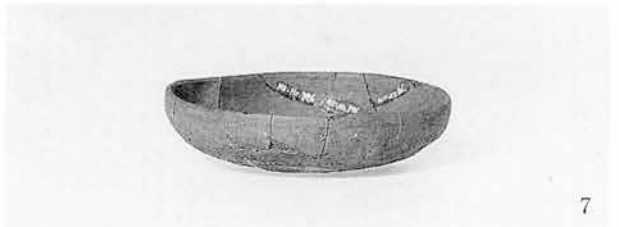
2号住居跡全景（南西から）



2号住居跡竈全景（南西から）



6



7

2号住居跡出土遺物



3号住居跡全景（南西から）



3号住居跡竈全景（南西から）



3号住居跡柱穴付近遺物出土状態



3号住居跡貯蔵穴遺物出土状態



1



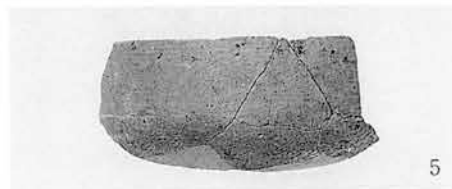
4



7



2



5



6



8



9



10



12



15



16

3号住居跡出土遺物



4号住居跡全景（南西から）



4号住居跡竈全景（南西から）



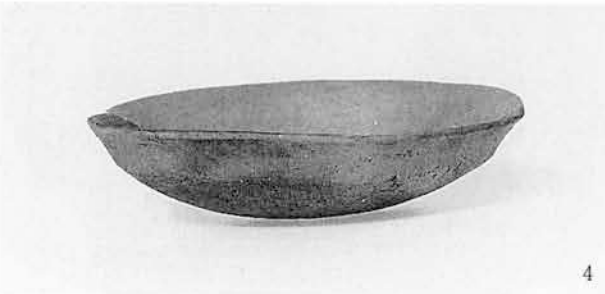
1



2



3



4



6



8

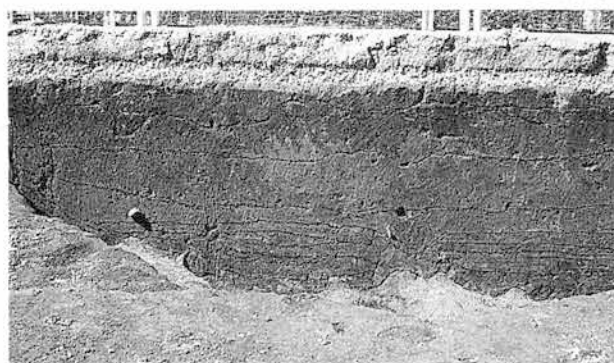


7

4号住居跡出土遺物



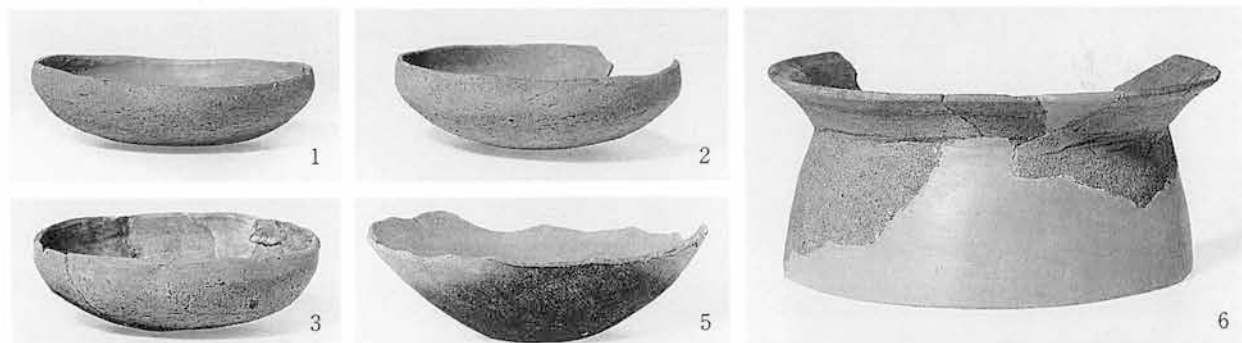
12号住居跡全景 (西から)



4号・12号住居跡断面 C-C'



12号住居跡竈断面 D-D'



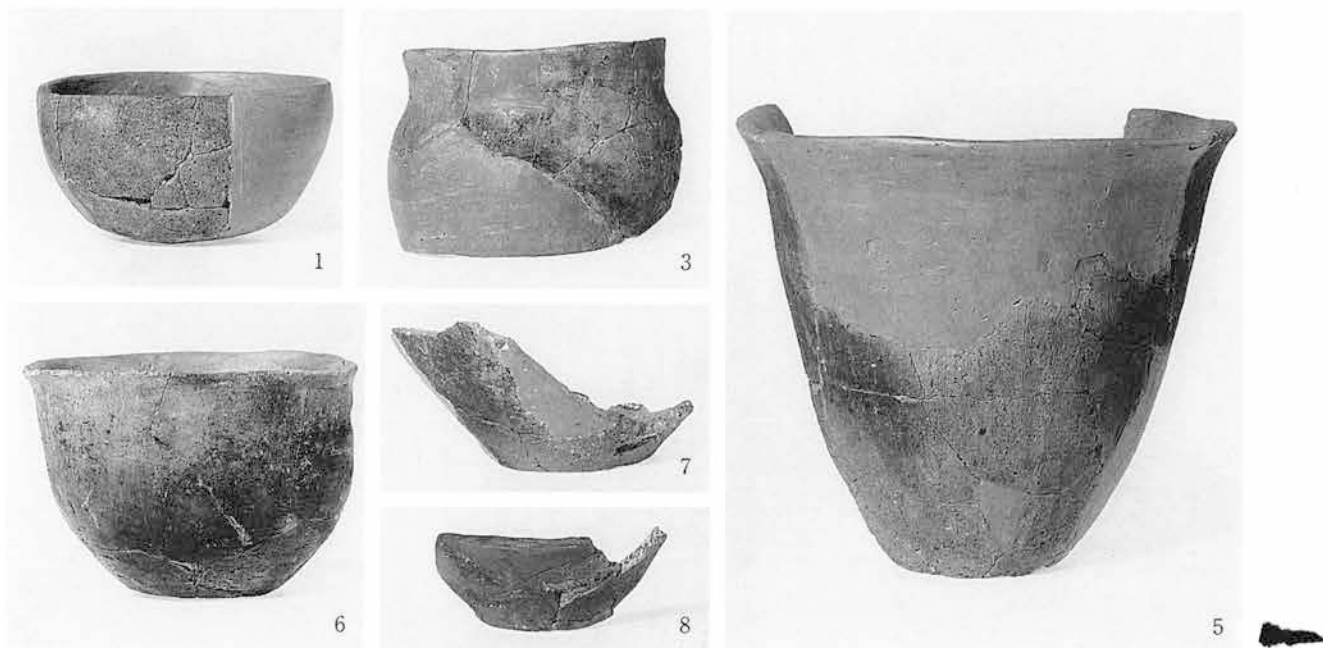
12号住居跡出土遺物



5号住居跡全景 (南西から)



5号住居跡竈全景 (南西から)



5号住居跡出土遺物



6号住居跡全景（南西から）



6号住居跡竈全景（南西から）



3

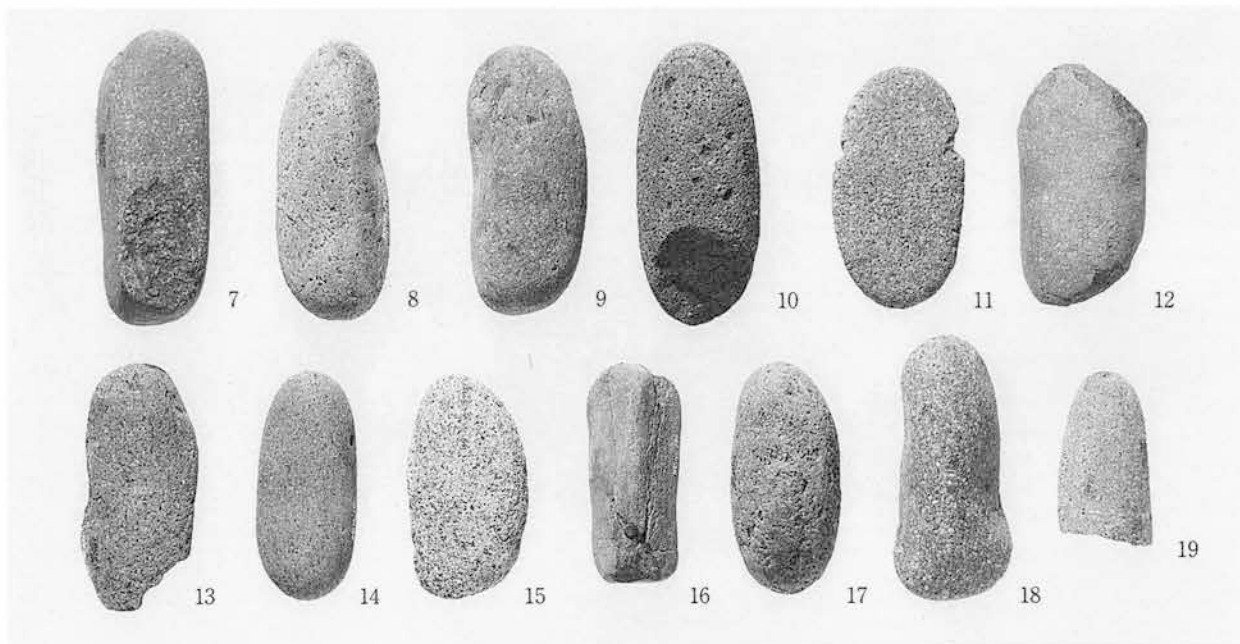


4



6

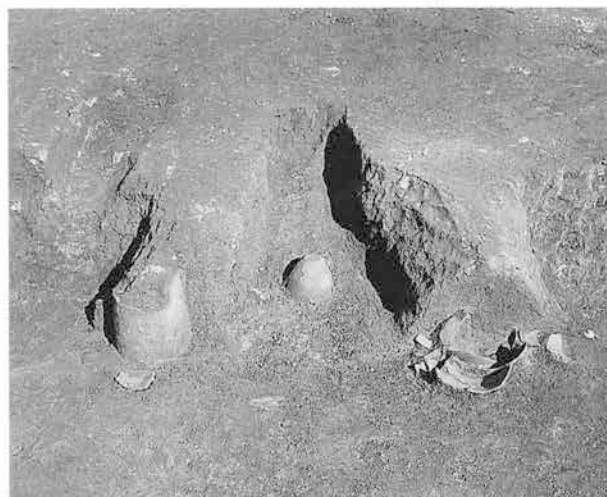
6号住居跡出土遺物（1）



6号住居跡出土遺物(2)



7号住居跡全景(西から)



7号住居跡竈全景(南西から)



7号住居跡貯蔵穴内遺物出土状態(東から)

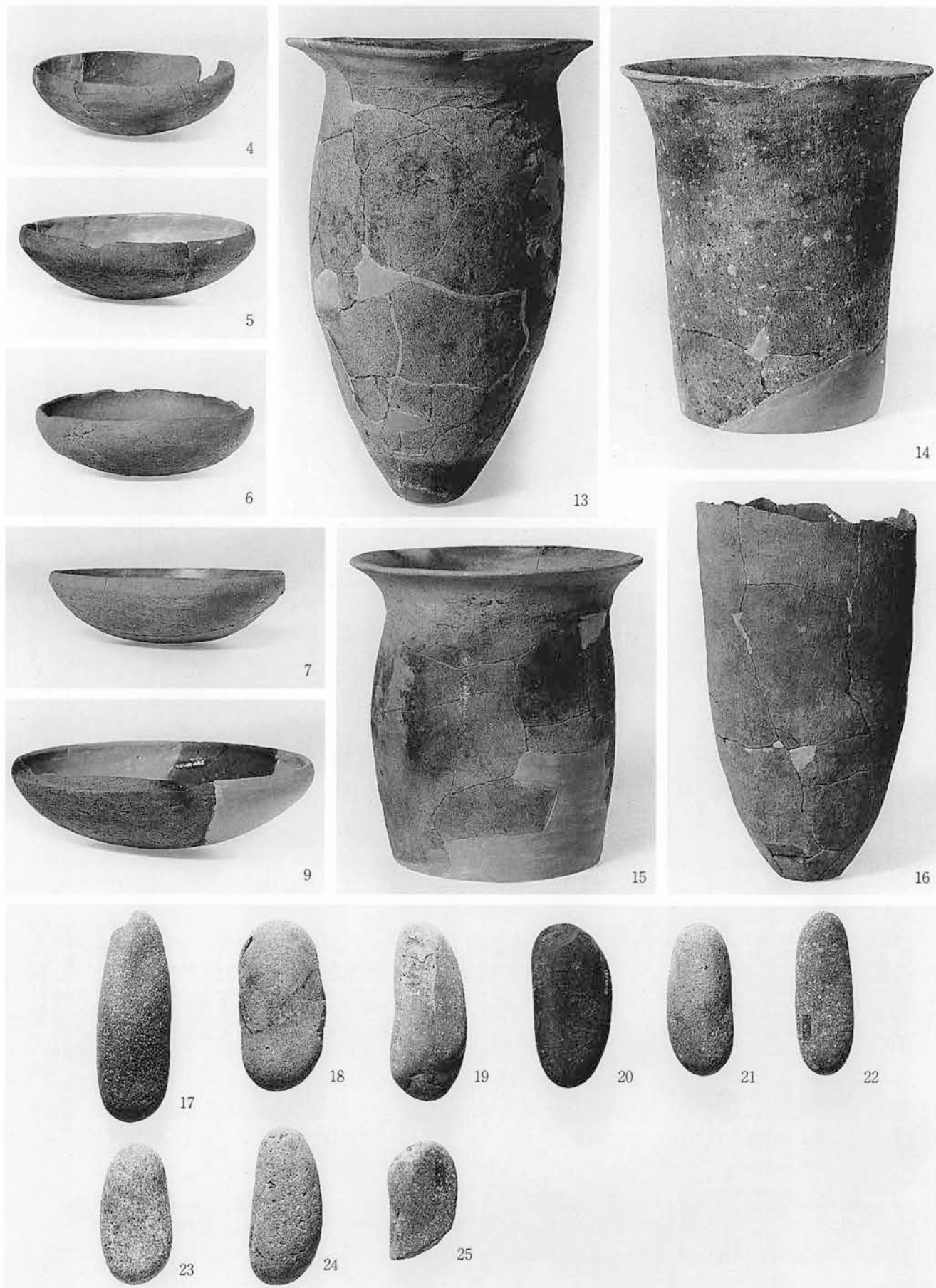


7号住居跡遺物出土状態(西壁際)



7号住居跡出土遺物(1)

PL10



7号住居跡出土遺物(2)



9号住居跡全景（南西から）



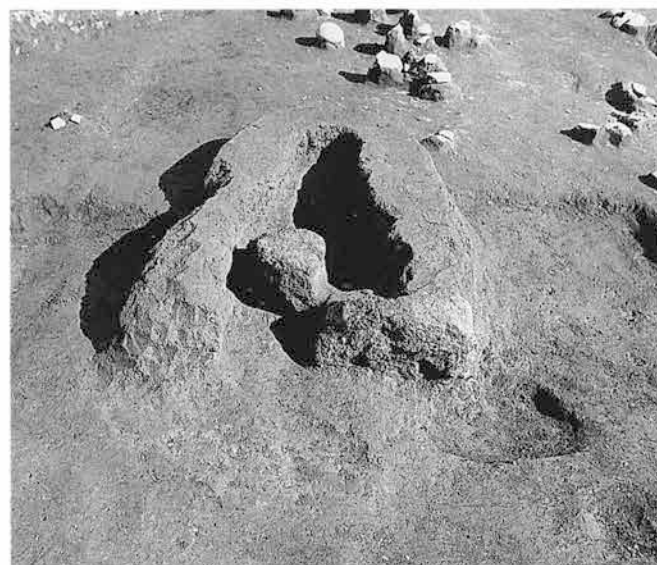
9号住居跡竈全景及び周辺遺物出土状態



10号住居跡全景（西から）



9号住居跡貯蔵穴内及び周辺遺物出土状態



10号住居跡竈全景（西から）

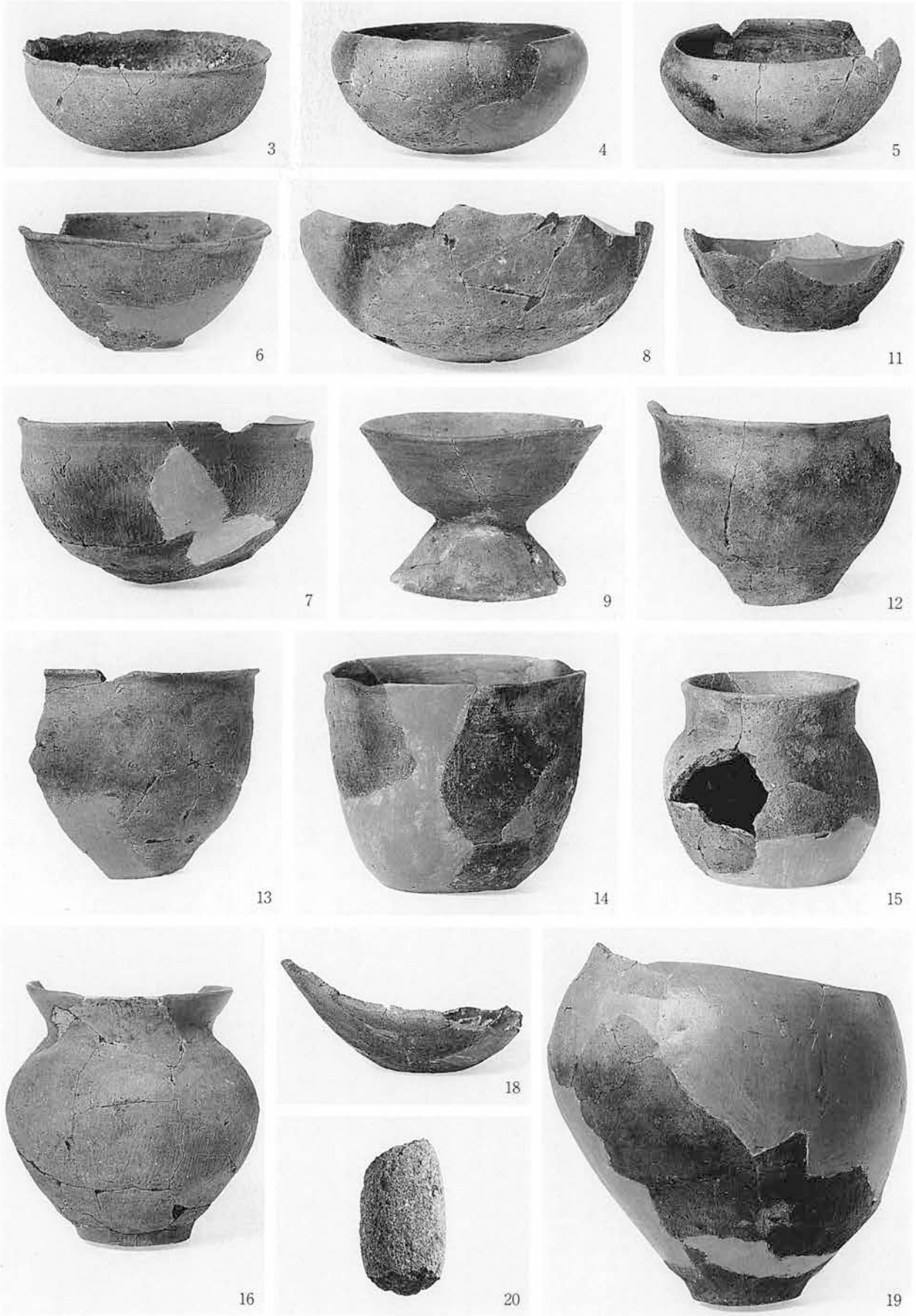


2

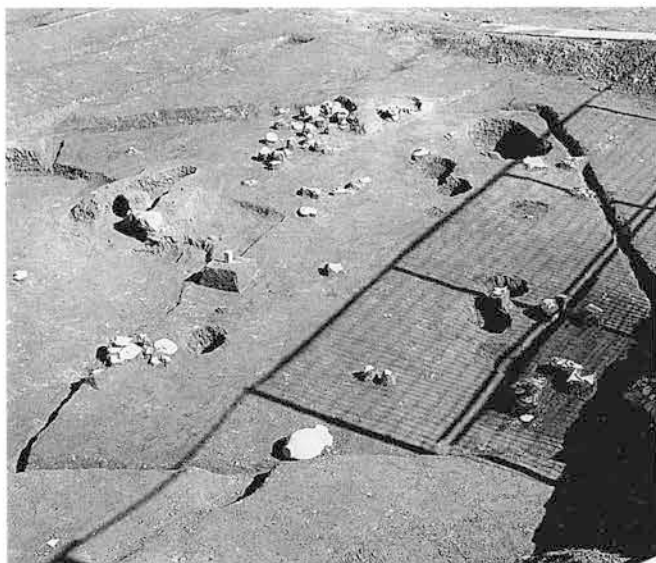


3

10号住居跡出土遺物



9号住居跡出土遺物



11号住居跡全景（10号住居跡含む）（南西から）



11号住居跡竈全景及び周辺遺物出土状態



11号住居跡遺物出土状態（西壁際）



3



4



7



9

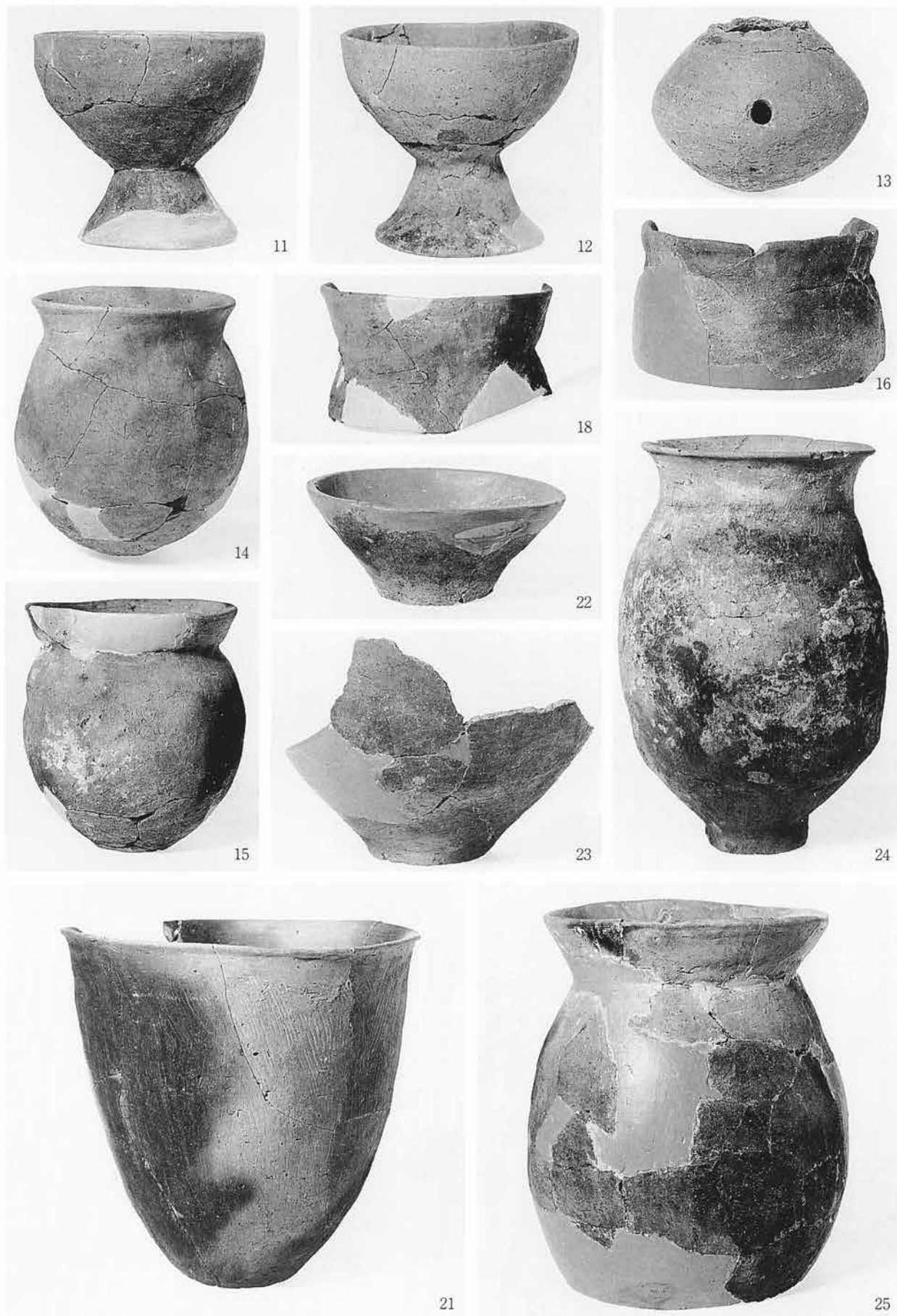


8

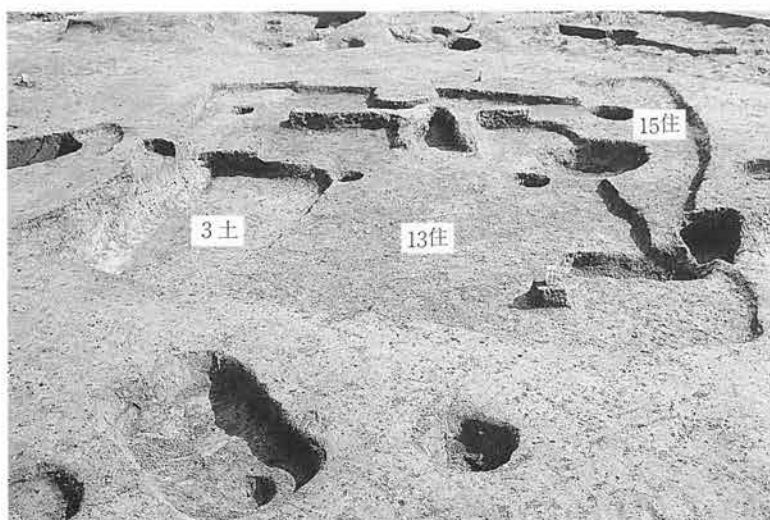


10

11号住居跡出土遺物（1）



11号住居跡出土遺物（2）



13号住居跡全景（3号土坑跡含む）（西から）



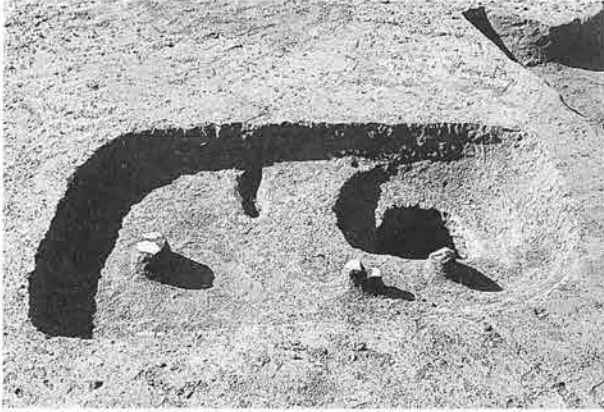
15号住居跡全景（1号井戸跡含む）（西から）



13号住居跡出土遺物



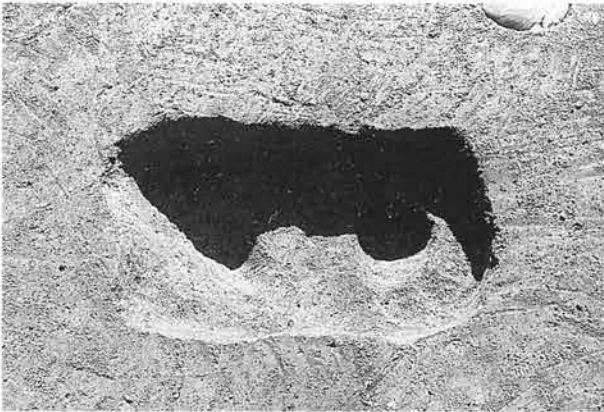
15号住居跡出土遺物



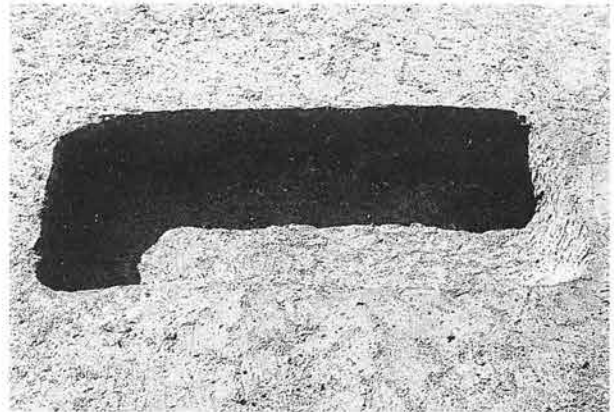
1号土坑跡全景（東から）



1号土坑跡出土遺物



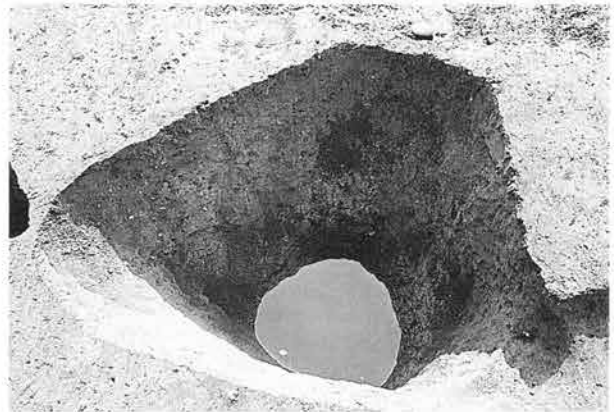
2号土坑跡全景（東から）



3号土坑跡全景（北から）



4号土坑跡全景（東から）



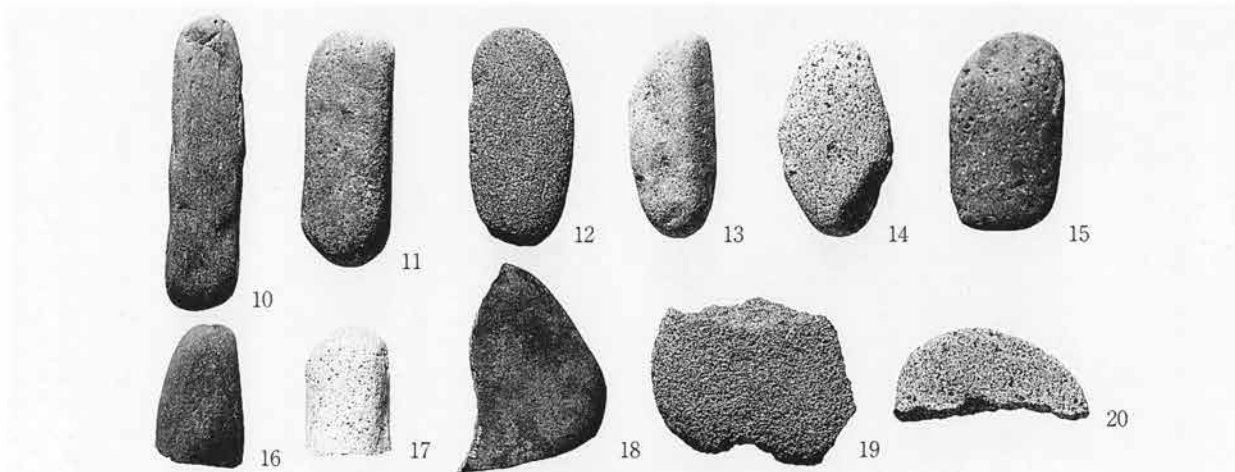
5号土坑跡全景（北から）



3号井戸跡全景（東から）



4号井戸跡全景（北から）



4号井戸跡出土遺物



2号溝跡断面 A-A'



3号溝跡全景 (東から)



2

2号溝跡出土遺物



3



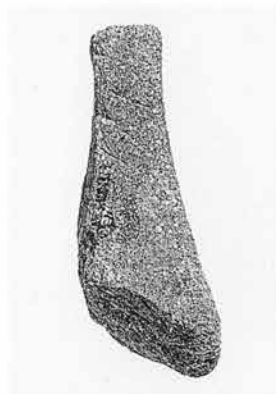
4



5



7



13

グリッド出土遺物



14



6

遺構外出土遺物

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第285集

中 組 遺 跡

群馬県立伊勢崎商業高等学校第2体育館
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成13年2月21日 印刷

平成13年2月28日 発行

編 集／財群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

発 行／群馬県考古資料普及会

〒377-8555 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

印 刷／上毛新聞社出版局